

事業報告書

自 2025年4月 1日

至 2026年3月31日

公益財団法人 大学コンソーシアム京都

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町9 3 9

京都市大学のまち交流センター内

事業報告目次

	頁
1. 教育事業部	1
2. 教育開発事業部	20
3. 学生支援事業部	38
4. 国際事業部	67
5. 調査・広報事業部	78
6. 総務部	92
7. 附属明細書	98

教育事業部 事業進捗

(1) 単位互換事業 (Field I)

【概要】

財団の前身である「京都・大学センター」が発足した 1994 年から運用している事業であり、第 5 ステージでは、「京都世界遺産 PBL 科目」の拡充、「京都ミュージアム PBL 科目」の新設を行った。

また、コロナ禍を受け、「オンライン科目」など、多様な開講形態の科目を提供することで、学生の科目選択の幅を拡充した。

第 6 ステージでは、これまでの取り組みに加え、加盟校での科目開発、科目提供を促進する仕組みづくり、大学コンソーシアム京都だからこそできる、学生の多様な学びのニーズに応える「単位互換制度」の構築を目指す。

【重点施策】

- ① 京都ならではの新たな学びのフィールド、特色ある科目の拡充
 - ・「無形文化遺産」をテーマにした京都ならではの新たな展開
 - ・「京都世界遺産 PBL 科目」「京都ミュージアム PBL 科目」「グローバル科目」「オンライン科目」の拡充
- ② 大学間連携による新たな科目の展開
 - ・総合知を育む学びの機会として、単独では開講困難な大学間連携による新たな科目の展開
- ③ 広域単位互換の展開
 - ・各地に拠点をもつ大学コンソーシアム間による単位互換制度の活用
 - ・学びの選択肢の拡充、多様な学生との交流を通じた成長機会の創出
 - ・京都ならではの科目提供による、京都の魅力発信の機会

【実績】

1. 2025 年度単位互換科目への出願状況

(1) 協定大学・提供大学数について

	2025年度		2024年度（参考）	
	協定大学数	提供大学数	協定大学数	提供大学数
大学	33	30	33	30
短期大学	9	5	9	6
合計	42	35	42	36

※短期大学部を併設しているところは、それぞれを別大学としてカウントした。

(2) 単位互換への提供科目数について

補助金対象「プラザ・オンライン科目」	2025年度	2024年度	増減
対面授業（プラザ）	8	15	-7
対面授業（プラザ）・オンライン併用	1	3	-2
オンラインのみ	11	10	1
小計	20	28	-8
補助金対象外	2025年度	2024年度	増減
対面授業（オンキャンパス）	254	295	-41
対面授業（オンキャンパス）・オンライン併用	41	16	25
その他	0	0	0
小計	295	311	-16
総計	315	339	-24

※総提供科目に占める補助金対象科目 6.35%

(3) 単位互換科目への出願者数及び履修許可者数について

	募集科目数	延べ出願者数	延べ出願者数 前年度比	延べ履修許可者数	延べ履修許可者数 前年度比
前期	315	898	23	743	38
	339	875	135	705	148
後期	118	465	84	331	41
	119	381	33	290	44
合計	315	1,363	107	1,074	79
	341	1,256	30	995	-9

※下段は、前年度実績

※後期科目数については、前期で科目数を確定し後期は其中で再募集を行っている。

(4) 現状分析（特徴的な傾向）

- ・2025年度単位互換提供科目数は315科目（前年度当初提供科目比：93%）で微減
- ・対面科目が減少し、オンライン科目が増加
- ・延べ出願者数に対する履修許可率（延べ履修許可者数／延べ出願者数）は前年度と同水準

(5) 2026年度以降に向けた取組と課題

- ・受講場所に左右されないICTを活用した教育効果の高いオンライン科目の提供を拡充
- ・単位互換制度の認知度向上をはかるため、加盟校事務担当者との連携を強化

2. 2025年度京都世界遺産PBL科目・京都ミュージアムPBL科目の履修登録・科目実施状況

(1) 履修登録状況

京都世界遺産PBL科目：

- ・2015年度に6大学・6世界遺産による7科目からスタートし、11年目
- ・2025年度は5大学5世界遺産6科目を提供、13名（※）が受講

※広域単位互換制度を利用した他地域コンソーシアム加盟校からの出願2名を含む

京都ミュージアムPBL科目：

- ・2020年度にスタートし、6年目
- ・2025年度は、昨年度に引き続き不開講

(2) 2025年度京都世界遺産PBL科目・京都ミュージアムPBL科目の特別講座、成果発表等

1) インタビュートレーニング、プレゼンテーショントレーニングについて

- ・対象科目の日程（開講期）が、前期・後期・集中と統一ではないため、学生が一堂に会して受講することが困難であること、2023年度に公開期間を限定した上でオンデマンド配信を行

ったところ、繰り返し視聴している学生がおり、かつ満足度も高かったことから、2025 年度も昨年度に引き続きオンデマンド配信にて実施

- ・講師は昨年度と同様、元 NHK アナウンサーの森吉弘氏（帝京大学共通教育センター特任准教授）

2) 成果報告会の開催について

- ・12月7日（日）午後にキャンパスプラザ京都にて対面で開催した。当日は、各 PBL 科目受講生、担当教員のみならず、世界遺産所有者・関係者、また 2025 年 3 月に連携協定を締結した文化庁の担当者にも参加いただき、各クラスの発表にコメントをいただくなど更に連携を深めることも出来たため、有意義な報告会となった。

(3) 現状分析（特徴的な傾向）

- ・世界遺産 PBL 科目受講生は、昨年度に比して減少（13 名←20 名）
- ・京都ミュージアム PBL 科目は不開講

(4) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・学生にとって魅力ある科目の提供が必要か（PBL というワードが時代遅れの可能性）
- ・オンライン科目・集中講義科目へのシフトを検討すべきか
- ・既存の枠（世界遺産・ミュージアム）にとらわれない、学生ニーズの高い科目創出が必要か

3. 2026 年度「プラザ推奨科目」について

- ・2025 年度第 2 回教育事業企画検討委員会において、加盟校から申請があった全 11 科目が採択（継続開講 10 科目、新規開講 1 科目）
- ・採択された科目のうち、2025 年度に新設したプラザ推奨科目「京都をつなぐ無形文化遺産科目」に 1 科目（※）申請あり
- ※提供元大学：京都橘大学、科目名：美術工芸史調査実習

4. グローバル科目の開設及び求められる e ラーニングの仕組みづくり

(1) グローバル科目の開設について

- ・2023 年度に「英語で学ぶ科目」、2024 年度に「国際共修科目」の提供を開始
- ・2025 年度の提供科目数は「英語で学ぶ科目」4 科目、「国際共修科目」2 科目

区分	科目名	提供元大学	受講者数 (単位互換生)
英語で学ぶ科目	Global Japan Studies	京都ノートルダム女子大学	0
	Linguistic Anthropology	京都大学	4
	Introduction to Peace Studies	立命館大学	0
	Sustainability Studies	龍谷大学	0
国際共修科目	世界の教育 A	京都教育大学	1
	世界の教育 B	京都教育大学	0

(2) e ラーニングの仕組みづくりについて

- ・2020 年度にオンライン講義の科目提供を促進すべく「プラザ・オンライン科目」を制定し、キャンパスプラザ京都実施とオンライン実施を併用する科目、及びオンライン実施のみの科目にも対象を拡大
- ・2023 年度から「プラザ・オンライン科目」に該当する科目の提供促進策として、科目運営補助金を 3 万円から 5 万円に増額するとともに加盟校が専任教員の有無に関わらず科目を提供できるよう申請要件を見直した。

5. 教職等資格取得に必要な科目の履修を支援する単位互換科目充実

- ・日曜日に集中講義形式で行うプラザ科目（「教職日曜講座」）として京都教育大学から提供

- ・これまでの受講者数等を勘案し、2023 年度から平日にオンキャンパス科目として提供

6. 広域単位互換について

(1) 提供科目及び受講受け入れ・送り出しについて

- ・2025 年度より広域単位互換ネットワークに参画しており、京都からは 5 科目を提供している。

科目名	科目開設大学	出願者数	所属大学
特殊講義（教養 E）Ⅰ 「清水寺の△△の○○（良い点）を磨け！、もしくは□□（困っている点）を救え！」	立命館大学	0	
特殊講義（教養 E）Ⅰ 「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」	立命館大学	2	大阪大学 広島工業大学
特殊講義（総合） 「現場に足を運び考える『大学スポーツ活性化戦略』」	立命館大学	0	
修験学実践講座－吉野・大峰峯入修行体験	種智院大学	1	静岡理工科大学
スタディツアー 「東インド オディシヤ地方の密教美術と宗教文化」	種智院大学	2	静岡理工科大学 大阪女学院大学

- ・また、他地域コンソーシアムの加盟校が開講する科目に、単位互換生として加盟校の学生を送り出している。

科目名	提供開設大学	出願者数	所属大学
地域教養ゼミナール B「英語で伝える広島」	県立広島大学	1	龍谷大学
関空・泉州・南大阪地域学	羽衣国際大学	1	龍谷大学
社会ソリューション講義～いのち輝く未来社会を描く	大阪大学	5	龍谷大学

(2) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・本制度に関する認知度向上に向けた、財団加盟校の所属学生及び事務局への広報活動の強化
- ・他地域コンソーシアムから出願しやすい出願時期の検討

(2) 産学連携教育事業（旧インターンシップ事業）（Field I）

【概要】

1998 年度より大学と企業・団体の連携により、就業体験の域を超えた実践から「働く」を考えるキャリア教育プログラムとして開始した。

「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」（三省合意改正）により、インターンシップをめぐる環境が大きく変化（インターンシップ事業から産学連携教育事業へ名称変更）し、コロナ禍を経て、2021 年度より事前・事後学習等をオンラインで実施するなど、社会状況に柔軟に対応した運営体制を構築した。

コロナ禍以降続く社会変化に対応し、学生の成長と企業・団体の活性化に寄与するプログラムを引き続き展開する。

【重点施策】

①オンラインツールの活用等による双方向の教育実践の取組の進化

- ・2021 年度以降培ってきたオンラインツールを活用した運用の経験をもとに、オンラインツールのメリットを最大限活用し、コーディネーターと連携しながら、実習生を指導・サポート

②受入先企業・団体と大学との接点の拡大

- ・受入先が設定する人材育成、組織の活性化、社会貢献などの目標・課題を大学と共有すること、受入先と大学の結びつきの強化を目的に、「受入先実習プログラム研究会」の一層の促進
- ・受入先企業だけでなく、マッチングがかなわなかった受入希望企業との接点を創出するため、プログラム受講学生と受入先企業等による交流会を開催

【実績】

1. 広報

(1) HP 等

産学連携教育プログラム・ポータルサイトに全ての情報を集約し、情報発信

(2) 出向ガイダンス

3月26日（水） 京都女子大学
 4月9日（水） 京都産業大学
 4月10日（木） 花園大学
 4月16日（水） 京都ノートルダム女子大学
 4月17日（木） 京都府立大学
 4月18日（金） 京都府立大学
 4月18日（金） 京都外国語大学・京都外国語大学短期大学
 4月18日（金） 京都光華女子大学
 5月1日（木） 京都光華女子大学 計8大学（2024年度7大学）

(3) オンライン説明会

1) プログラム説明会・相談会

開催日時：4月12日（土）18：00～20：00
 参加者数：出席79名/申込65名（2024年度96名）
 協力者（修了生）：7名（2024年度10名）

2) プロジェクト企画実践コース説明会・相談会

開催日時：4月17日（木）18：00～20：00
 参加者数：出席17名/申込3名（2024年度23名）
 協力者（修了生）：2名（2024年度2名）

2. 出願・受入状況

出願期間：4月11日（金）～5月9日（金）23：59 ※最終5月10日（土）まで募集延長

(1) 2025年度コース別出願者数 / 登録団体・受入団体数 （ ）内は2024年度実績

コース名	学生						企業・団体					
	出願者数		実習許可者数		修了者数		登録団体数		受入れ団体数		受入れ率	
エクスターン/ビジネス	183	(136)	107	(78)	93	(71)	97	(99)	51	(44)	52.6%	(44.4%)
エクスターン/パブリック			48	(44)	42	(40)	29	(30)	23	(21)	79.3%	(70.0%)
プロジェクト企画実践	15	(23)	14	(20)	12	(19)	12	(10)	5	(8)	41.7%	(80.0%)
合計	198	(159)	169	(142)	147	(130)	138	(139)	79	(73)	57.2%	(52.5%)

【参考】登録企業・団体内訳

	継続		復活		新規	
エクスターン/ビジネス	88	(86)	1	(9)	8	(4)
エクスターン/パブリック	27	(29)	1	(1)	1	(0)
プロジェクト企画実践	8	(7)	0	(1)	4	(2)
合計	123	(122)	2	(11)	13	(6)

【参考】2024 年度受入先のうち 2025 年度は登録見送り企業・団体（全 16 件）

	ビジネス	パブリック	プロジェクト企画実践
受入体制の確保が困難なため	9	3	2
その他	2	0	0
合計	11	3	2

(2) 学年別 出願者数と受講率 () 内は 2024 年度実績

学年	出願者数				実習許可者数				受講率	
	人数		全体に占める割合		人数		全体に占める割合			
1年次(回生)	31	(17)	15.7%	(10.7%)	29	(16)	17.2%	(11.3%)	93.5%	(94.1%)
2年次(回生)	41	(46)	20.7%	(28.9%)	34	(42)	20.1%	(29.6%)	82.9%	(91.3%)
3年次(回生)	120	(91)	60.6%	(57.2%)	100	(80)	59.2%	(56.3%)	83.3%	(87.9%)
4年次(回生)	5	(2)	2.5%	(1.3%)	5	(1)	3.0%	(0.7%)	100.0%	—
5年次以上(回生)	0	(1)	0.0%	(0.6%)	0	(1)	0.0%	(0.7%)	#####	—
大学院生	1	(2)	0.5%	(1.3%)	1	(2)	0.6%	(1.4%)	100.0%	(100.0%)
合計	198	(159)	100.0%	(100.0%)	169	(142)	100.0%	(100.0%)	85.4%	(89.3%)

(3) 2025 年度受入先登録企業の業種内訳

業種	2025年度	2024年度	増減
製造（食品）	5	5	0
製造（アパレル・繊維）	0	1	-1
製造（電気機械設備）	5	6	-1
製造（半導体・精密機器）	3	2	1
製造（化学）	1	1	0
製造（その他）	3	3	0
マスコミ・広告・印刷・出版	9	8	1
情報・通信・IT	5	5	0
運輸・物流	2	1	1
商社・卸売	3	3	0
小売・販売・専門店	5	7	-2
金融・証券・保険	3	5	-2
不動産・建築設計	13	10	3
士業（法律・会計事務所）	4	4	0
コンサルティング・調査・研究	4	4	0
デザイン	0	1	-1
ホテル・旅館	8	8	0
観光・旅行	5	4	1
エンタテインメント	1	2	-1
レジャー・アミューズメント	1	2	-1
教育（学校・大学等）	12	14	-2
医療・福祉	6	5	1
安全・メンテナンス・清掃	2	2	0
人材ビジネス	1	1	0
その他	5	3	2
官公庁	19	18	1
非営利組織	13	14	-1
合計	138	139	-1

4. プログラムの進捗状況

(1) エクスターンシップ（就業体験）コース

6月21日(土)から初回講義がスタートし、9月13日(土)の講義をもって全4日間の講義が終了した。最終日の講義内では、実習経験交流会として受入先担当者も交えながら、業種の異なる5~6のゼミクラスが集まり、実習で得た経験や気づきをゼミクラス毎に発表した。

本年度は、台風15号の接近に伴い、一部受入先での実習期間・内容の変更を余儀なくされた。

(2) プロジェクト企画実践コース

6月19日(木)から対面による初回講義がスタートし、11月9日(土)のファイナルプレゼンテーションにてこれまでの成果を発表し、約5カ月のプログラムを終えた。昨年度同様、これまでの講義はすべて対面にて開催したが、受入先の利便性等を踏まえ、オンライン参加も可能な体制を整えた。

5. 受入先実習プログラム研究会（エクスターンシップ（就業体験）コース）

2026年1月22日(木)にオンラインで開催

6. 2026年度以降に向けた取組と課題

- ・応募者数と受入企業拡大に向けて、府・市とこれまで以上の協力関係を構築し、プログラムの充実だけでなく、行政が抱える課題解決に向けたスキームの検討を行う。
- ・学生や受入企業・団体とのやりとりは、現状、ポータルサイト・メール・郵便と管理が煩雑になっ

- ・ しているため、ポータルサイトへ集約し、相互連絡の効率化を図るべく検討を行う。
- ・ プロジェクト企画実践コースの講義計画の変更についての検討を行う。
- ・ 京都市との連携強化のもと、引き続き受講生の経済的負担を軽減（受講料無料）するとともに、受入先企業だけでなく、マッチングがかなわなかった受入希望企業と受講生との交流の場としての交流会開催を検討する。

7. 財団における受入状況について
2025年度は2名受入

(3) 生涯学習（京カレッジ）事業（Field I）

【概要】

「18歳人口減少」「人生100年時代」「Society5.0」「DX」など社会背景が大きく変化しているが、こうした変化のもと、ウェルビーイングの実現への寄与を目的に「京カレッジ」「リカレント教育プログラム」「京都学講座」の充実・開講を行っている。

レイヤーを問わず、人々が自発的意思に基づき「自己の充実」「生活の向上」「職業能力の向上」のため、自ら学ぶ内容を選び取ることができる「京カレッジ」の構築を目指す。

【重点施策】

- ①京カレッジ科目・講座の充実
 - ・ 新たな学びの機会拡充を目指し、科目・講座を提供する加盟校への支援制度の充実、受講者ニーズを踏まえた講座体系の整備や受講機会拡充に向けた取り組み
- ②新たな大学連携講座の検討
 - ・ 加盟校の特色を活かした「大学リレー講座」の進化を目指し、多角的な視点に基づくテーマ設定の検討
- ③大学リカレント教育の取組の支援
 - ・ 課題（産業界のニーズ把握、プログラムの企画、受講生募集広告、運営上の問題）や加盟校のGPの共有機会の創出など加盟校のリカレント教育推進に寄与
- ④リカレント教育プログラムの充実
 - ・ 産官学民のニーズを把握し、時流にそった大学教職員へのリカレント教育等大学間連携組織ならではのプログラムの検討

【実績】

1. 2025年度生涯学習事業「京カレッジ」出願状況について
(1) 提供科目数・出願者数・受講許可者数等について

分野	提供科目数		出願のあった科目		出願者数（人）		2024年度前期 出願者 人数（割合）	
大学講義（A～I）	151	88.3%	64	80.0%	152	14.2%	215	21.5%
市民教養講座（J）	8	4.7%	4	5.0%	61	5.7%	116	11.6%
市民教養講座 京都力養成コース（K）	5	2.9%	5	6.3%	482	45.1%	545	54.5%
市民教養講座 教養力養成コース（L）	3	1.8%	3	3.8%	92	8.6%	124	12.4%
リカレント教育プログラム	4	2.3%	4	5.0%	281	26.3%		0.0%
合計	171	100%	80	100%	1,068	100%	1,000	100%

※後期出願は、前期出願にて定員に満たなかった科目を中心に提供を受け、7月12日（土）に募集情報を公開し、8月5日（火）～8月19日（火）に出願受付（8月19日のみ持参受付）

※5分野で大学講義・公開講座を提供

- ①大学講義（A～I）：単位修得も可能な科目（科目等履修生・聴講生）
- ②市民教養講座（J）：健康・芸術・文化など幅広く学べる講座

- ③市民教養講座 京都力養成コース（K）：京都をより深く学べるコース
- ④市民教養講座 教養力養成コース（L）：フィールドワークを通じて文化力・地域力（地域人材の育成）の向上を目的としたコース
- ⑤リカレント教育プログラム：働く世代に向けて企画した、スキルを高め視野を広げるための講座

(2) 2025 年度「京カレッジ」科目提供及び出願について

提供科目は 167 科目。90.4%（151 科目）が大学講義だが、内出願があったのは 76 科目であり全体を通して年々減少傾向にある。

(3) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・出願受付・科目運営のオンライン化／ペーパーレス化の促進
- ・提供分野／科目の偏り
- ・「京都市との”共催”事業」としての在り方

2. 2025 年度京都学講座「あなたの知らない京都旅ー昭和 100 年の物語ー」実施状況について

(1) 基本講座及び実地講座の実施状況について

- 1) 2025 年度の定員は、昨年度の 500 名から 400 名に変更して募集した結果、出願者数は 370 名であった（2024 年度は 380 名）。
- 2) 当選者・落選者に案内を送付し、受講料納付を経て 355 名の受講が決定した。

(2) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・現在、同日に「午前コース」「午後コース」の 2 回同じ内容の講座を開催しているが、受講者の選択の幅を増やす点において利点はあるが、講師の負担や時間的制約も踏まえ、1 回のみ開催を検討する。ただし、広く受講いただくという観点から開催場所についてはキャンパスプラザに拘らず、500 名程度のキャパシティがある会場を検討する。
- ・現在、受講料 10,000 円（基本講座 10 回分）を徴収しているが（実地講座 2 回は別途徴収）、オンラインシステムでの出願者に対して受講料を割引く”ネット割”の導入も検討を進める。加えて、昨今の経済状況を踏まえ、広く受講の機会を提供するという観点から受講料の金額見直しも検討する。
- ・受講者アンケートの回答には、オンライン受講に対する要望も一定数あることから、オンラインやハイブリッド対応の可能性についても引き続き検討する。
- ・受講者の受講機会の拡大として、後期出願およびスポット受講（1 回単位での受講）制度の導入を検討する。
- ・受講者のリピート受講を促進する取組として、オープンバッジの導入について検討する。

3. 2025 年度大学リレー講座の実施状況について

(1) 実施状況について

2024 年度第 2 回教育事業企画検討委員会において 2025 年度の実施方針等が承認され、2025 年 1 月 15 日（水）を期日として募集した結果、8 大学による計 9 講座が決定した。

(2) 2026 年度以降に向けた取組と課題

リカレント教育事業との連携として、従来の生涯学習講座にリカレント教育講座を加える形で大学リレー講座として開講する。

(4) リカレント教育事業（FieldⅡ）

【概要】

キャリアデザイン、多様なライフスタイルやライフステージに応じた生き方や働き方を求めて行う「社会人の学び直し」を意味するリカレント教育が脚光を浴びている。

産官学民との連携を深め、社会人ニーズにマッチしたプログラム開発のための情報集約に注力

講座を通じて涵養された知識等を職場での評価や個々のキャリアデザインに活用できるように学修成果の可視化に取り組んでいく。

【重点施策】

- ①産官学民のリカレント教育のニーズ把握・企画開発のための情報集約
 - ・京都地域のリカレントを検討・推進する「京都府リカレント教育推進機構」との連携を深め、社会人の学び直しに効果的なプログラム開発のためのニーズ把握・情報集約
- ②リカレントポータルサイトの充実
 - ・「KYOTO リカレントプラス」のメニューの充実と積極的な情報発信
- ③講座修了者へのデジタル証明書の発行
 - ・プログラムを通じて得た成果や学習履歴等を可視化する「オープンバッジ」の早期導入を目指す
 - ・可視化は、学習意欲の向上のみならず、学歴では図ることができない一人ひとりの能力や経験知の多面的な評価軸となり、キャリアデザインの指標となりうる

【参考】

第5ステージプランとして大学におけるリカレント教育を推進するため、2019年6月25日第1回教育事業企画検討委員会において、財団のリカレント教育の推進方針（定義とビジョン）と「リカレント教育企画検討委員会」の設置と役割について決定した。

○財団で検討するリカレント教育の定義

「現役で働く人・世代」が、教養的なものよりも、様々な職種での力量形成を含めた「働くことに係る学び直しや継続的な学び」とする。

○財団のリカレント教育推進のビジョン

10年後の京都の大学が、「生涯を通して学びたいときに学びたいものを学ぶための大学」として、多くの社会人の知的好奇心に応えることに留まらず、各年齢段階の多様な職業、社会での様々な役割を持つ人に対して、人生の現在と未来において、どのように仕事をしていくかという学びの場としても機能していること。このリカレント教育の展開によって、「大学のまち京都、学生のまち京都」として、「学生と社会人の学び合い」が盛んに行われ、そこで取り込まれる新たな価値の創造を通じて、京都の各大学が持続的に人材育成力を高めていること。財団はこのビジョンの下、加盟校支援と加盟校の取り組みをリードする事業を行う。

【実績】

1. 講座実施状況について

(1) 「対人援助の現代的課題 - 広がりや深まりのなかで考える多職種連携 - 」

実施形態：全9講義はオンデマンド、演習は対面実施

視聴期間：2025年10月1日（水）～12月31日（水）

演習日時：2025年12月14日（日）13:30～15:00

定員：演習のみ先着30名

申込：オンデマンド16名、演習4名

(2) 「防災と減災のためのリスクマネジメント - 助かることと助けることのあいだを結ぶ - 」

※2025年度の新規開設講座（2025年～2027年度実施予定）

実施形態：ハイブリッド（対面＋オンライン）講義全8回、学外ワークショップ1回

日時：2025年9月27日（土）講義①、講義②

10月25日（土）講義③、講義④

11月29日（土）講義⑤、講義⑥

12月13日（土）講義⑦、講義⑧

場所：講義はキャンパスプラザ京都、ワークショップは先斗町界限

定員：対面38名、ワークショップ20名

申込：講義全8回のべ127名、ワークショップ8名

(3) 大学リカレント教育講座

※2025年度の新規開設講座

京カレッジの大学リレー講座と同様の枠組みを設定して募集した結果、2大学による2講座が決定した。各大学の開講時期を踏まえてリレー形式にはせず、企画名称を大学リカレント教育リレー講座から大学リカレント教育講座と変更して実施した。

①大谷大学「“おとな”の発達心理学－「こころの半分」と出会う旅へー」

日時：2026年1月17日（土）13:30～15:00

定員：160名（当初30名から拡大）

申込：126名（事前申込124名＋当日受付2名）

②京都女子大学「朝活！ライフキャリアデザイン－10年後の私を考える－」

日時：2026年3月7日（土）10:00～11:30

定員：30名

申込：39名（事前申込33名＋キャンセル待ち6名）

2. リカレント教育のニーズ把握・企画開発のための情報集約について

(1) 検討状況について

- ・他大学、他団体ヒアリング（4月：丸善雄松堂、6月：武庫川女子大学、関西外国語大学、関西大学、ワークアカデミー、7月：東京理科大学、京都府、8月：コンソ中国、コンソ石川、10月：大谷大学、立命館大学、11月：京都産業大学、3月：京都女子大学）
- ・19年度以来の加盟校向けアンケート調査を実施

【アンケート実施概要】

- ・対象：大学コンソーシアム京都加盟校のうち、生涯学習やリカレント教育事業を実施している大学の担当者（大学内にリカレント教育業務、社会人教育、生涯学習業務等の担当が複数部署ある場合には、それぞれのご担当部署のご担当者様よりそれぞれ回答）
- ・実施期間：2026年2月16日～3月6日
- ・設問構成：①財団リカレント事業全体について②KYOTOリカレントプラスについて③自大学でのリカレント教育事業について
- ・回答数：全25件（同一大学内複数回答あり）

今後、コンソ主催のリカレント講座の企画検討への反映、加盟校への情報共有に活かす。

3. リカレントポータルサイトの運用状況について

(1) 運営状況について

- ・2025年度開催分の登録講座数は、165件
- ・利用大学数は、13校

(2) 2025年度の取組状況について

- ・ポータルサイト運用3年目となり、より使いやすく、有用なサイトを目指して、サイトの改修と運用方法の見直しを行った。
 - ・登録講座の承認スケジュール：月1回→都度更新へ変更
 - ・登録講座条件：複数講座のみ→単発講座も含む
 - ・講座登録時のプッシュ通知機能搭載
 - ・SEO対策のため表示の変更
 - ・掲載文字数：1000字→3000字へ拡張
 - ・京都府生涯現役クリエイティブセンターとの相互バナー掲載
 - ・検索画面の新規タブ化
 - ・お知らせ欄の更新
 - ・画像追加のための検索ページデザイン改修
 - ・実態把握と今後の改善のため、運用業者に毎月の定期レポート提出、半期に一度の利用改善提案を依頼
 - ・加盟校のアンケート・ヒアリングを実施（上記の加盟校向けアンケート調査にて）。

(3) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・現時点で対象となる講座を実施しているにも関わらず掲載のない加盟校がまだ複数校あり、全校掲載を目標として利用促進を図る。
- ・より使いやすく、有用なサイトを目指して、加盟校のヒアリングを行う。それを踏まえて、現状の運用ルールやサイトの常時見直し、機能やコンテンツ追加等の改善を継続的に図っていく
- ・科目等履修生案内ページのリニューアルを行い、京カレッジ出願にもつなげていく。
- ・ポータルサイトの認知度向上のため、他団体との連携や広告出稿等を検討する。
- ・京都府のリカレントナビとの相互遷移やコンテンツ上での分担等の協議（2～3 年程度の中期計画の予定）

4. 講座修了者へのデジタル証明書の運営状況について

(1) 運営状況について

- ・財団として、オープンバッジ導入が決定した。7 月より入会し、運用を開始している。
- ・対象講座は、教育事業部 リカレント事業（対人援助講座 5 件、防災減災講座 5 件）、教育開発事業部の SD ゼミナール（11 件発行）とした。財団全事業部から引き続き募集を受け付ける。
- ・2025 年度発行予定のバッジデザイン確定

(2) 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・発行者向けアンケートの検討（発行数によって判断）
- ・今後の対象講座拡大、バッジの複数展開化の検討

5. 2025 年度の新規取組

- ・講座の運営方法（広報～申込～支払い～受講案内）の見直し
（過年度での運営）google フォームで申込受付＋Paysys またはリコーリースでの紙請求書郵送＋メール連絡＋決済後に受講案内メール送付
（2025 年度の運営）Peatix に一本化することで、作業工数の大幅削減、より柔軟な講座運営の実現、フォロワーの確保とコミュニティ形成、広報・申込・決済・コミュニケーションツール・マーケティングツールの一本化を実現
- ・広報方法の検討
受講対象者（職種）別の広報の実施
関連イベントに絡めた広報の実施
- ・新規広告の導入
Peatix 集客サービスの利用
京都市地下鉄へのポスター掲示（無料）の実施
- ・経費削減に向けた取り組み
支出増への対応として、印刷費の削減（チラシ内製化＋簡易印刷で 1/15 以下へ、作成期間も 2 か月→3 週間へ短縮）
郵送費の削減（紙の会員証発行・郵送からデジタル会員証へ変更、請求書送付の取りやめ）
- ・講座実施形態の変更
①単発受講、②ハイブリッド（対面＋オンライン）でより柔軟な受講体制を整備
- ・京都府との連携強化、役割分担の検討
京都府生涯現役クリエイティブセンターと KYOTO リカレントプラスの相互リンク実施、京都リカレントナビに講座掲載、相互の広報協力、26 年度連携事業に向けた協力体制・役割分担の構築、府・市・コンソの 3 者協議の調整（京都府リカレント教育推進機構の枠組みで）
- ・加盟校向けアンケート調査を実施
- ・リカレント教育企画検討委員会の委員長交代
以前より退任を希望されていた委員長（大学退職済）から委員会の委員であった副学長に交代

6. 2026 年度以降に向けた取組と課題

- ・広報方法の検討
各組織向け広報の検討（行政、経済界との連携）

産業界、高校以下の教育機関、地域への広報の検討

- ・受講料の検討

今年度より講師謝礼が3倍以上になっているため支出が増大、これまでの1回1,000円の受講料では採算があわなくなっている。

- ・コンソ独自の新規企画の検討（大学教職員向け、市民向け啓発企画等）
- ・京都府との連携強化、京都市（京カレッジ）も含めた府・市・コンソ連携体制の検討
26年度府との連携事業の具体化、コンソのハブ機能としての新規企画の検討、産業界・企業との繋がりの構築、京都市も含めたオール京都リカレント教育推進体制に向けた取り組み
- ・リカレント教育自体の方針の見直し、再定義の必要性
- ・リカレント教育事業の継続是非の検討

教育事業部 実施スケジュール（主要事項）

※委員会開催日時は除く

(1) 単位互換事業（Field I）

3月14日（金）	前期出願受付開始（～4月4日）
4月11日（金）	履修可否通知
7月12日（土）	後期募集科目発表
8月29日（金）	後期出願受付開始（～9月10日）
9月19日（金）	履修可否通知

(2) 産学連携教育事業（旧インターンシップ事業）（Field I）

3月26日（水）	京都女子大学出向ガイダンス
4月9日（水）	京都産業大学出向ガイダンス
4月10日（木）	花園大学出向ガイダンス
4月11日（金）	産学連携教育プログラム出願受付開始 ～5月9日（金）
4月12日（土）	大学生向けプログラム説明会・相談会（全コース対象）
4月16日（水）	京都ノートルダム女子大学出向ガイダンス
4月17日（木）	「プロジェクト企画実践コース」説明会・相談会
4月17日（木）	京都府立大学出向ガイダンス
4月18日（金）	京都府立大学出向ガイダンス
4月18日（金）	京都外国語大学・京都外国語大学短期大学出向ガイダンス
4月18日（金）	京都光華女子大学出向ガイダンス
5月1日（木）	大谷大学出向ガイダンス
5月10日（土）	産学連携教育プログラム出願受付終了
5月16日（金）	産学連携教育プログラム選考面接①
5月17日（土）	産学連携教育プログラム選考面接②
6月19日（木）	プロジェクト企画実践コース講義①
6月21日（土）	事前学習①（エクスターンシップ（就業体験）コース）
6月26日（木）	プロジェクト企画実践コース講義②
7月3日（木）	プロジェクト企画実践コース講義③
7月5日（土）	事前学習②（エクスターンシップ（就業体験）コース）
7月10日（木）	プロジェクト企画実践コース講義④
7月12日（土）	事前学習③（エクスターンシップ（就業体験）コース）
7月12日（土）	事前学習レポート受付開始～7月19日（土）
7月17日（木）	プロジェクト企画実践コース講義⑤
7月19日（土）	事前学習レポート受付終了
9月4日（木）	プロジェクト企画実践コース講義⑥
9月13日（土）	事後学習（エクスターンシップ（就業体験）コース）
9月13日（土）	事後学習レポート受付開始～9月27日（土）
9月27日（土）	事後学習レポート受付終了
10月2日（木）	プロジェクト企画実践コース講義⑦
10月9日（木）	プロジェクト企画実践コース講義⑧
10月23日（木）	プロジェクト企画実践コース講義⑨
11月8日（土）	プロジェクト企画実践コース講義⑩

(3) 生涯学習（京カレッジ）事業（Field I）

3月1日（土）	出願受付開始（WEB・郵送）	～14日（金）
---------	----------------	---------

3月13日(木)・14日(金) 持参出願期間
 7月12日(土) 後期募集科目発表
 8月5日(火) 後期出願受付開始 ～19日(火)
 8月19日(火) 持参受付

京都学講座「あなたの知らない京都旅ー昭和100年の物語ー」

		テーマ ーサブタイトルー	講師	受講者数
基本 ①	4/26	昭和大礼と京都 ー大正から昭和へー	秋元 せき	AM 164 PM 131
基本 ②	5/17	昭和10年京都大水害と鴨川改修	植村 善博	AM 140 PM 115
基本 ③	6/21	京都の戦争 ー軍都、戦争協力、疎開ー	原田 敬一	AM 164 PM 118
基本 ④	6/28	二十歳の原点・高野悦子とその時代 ーマイルストーン(里程標)としての1969年ー	天野 博 川島 智生	AM 148 PM 108
基本 ⑤	7/5	昭和初期の祇園祭 ー戦前・戦中期の山鉾町の様子を中心にー	奥田 以在	AM 154 PM 116
基本 ⑥	9/27	京都タワーと設計者・山田守 ー京都タワーにこめられた設計意図と魅力をさ ぐるー	Y 田 Y 子 川島 智生	AM 155 PM 111
基本 ⑦	10/4	京都国立近代美術館の歩みと役割 ー開催された展覧会をたどりながらー	岩城 見一	AM 129 PM 106
基本 ⑧	11/15	近代京都の市街地形成と京都市電 ー新たな「基盤の目」の成立ー	大菅 直	AM 142 PM 102
基本 ⑨	11/29	京都の喫茶店 街の憩いの100年史 ー古都に息づくコーヒーの系譜ー	田中 慶一	AM 133 PM 94
基本 ⑩	12/13	マリオはなぜジャンプするのか ー日本のコンテンツ循環における型と動ー	細井 浩一	AM 128 PM 91
実地 ①	6/7	京焼・清水焼の近現代と五条坂 ー戦中の窯業産地と陶器製手榴弾ー	木立 雅朗	AM 27 PM 18
実地 ②	11/8	軍都京都の足跡をたどる ー伏見の戦争遺跡ー	原田 敬一 笹部 昌利	AM 25 PM 22

大学リレー講義

		テーマ	大学	講師	受講者数
①	5/3	運動の健康効果、特に筋トレの効果について	京都先端科学大学	古倉 聡	115
②	5/24	いつまでも健康に食事を楽しむためにできること	京都先端科学大学	齋藤 翔太	91
③	6/14	現代を生きるためのマーケティング	佛教大学	若林 靖永	64
④	7/26	弘法大師空海と祈祷 ー『性霊集(しょうりょうしゅ う)』を読み、味わうー	種智院大学	西 弥生	93
⑤	8/30	「算数」っておもしろい! ー九九 の美しさー	花園大学	藤井 浩史	93
⑥	9/13	認知症の人とのコミュニケーション	京都光華女子大学	関 道子	97

⑦	9/20	石黒宗麿の工房から見えてきた世界	京都精華大学	米原 有二 中村 裕太	27
⑧	10/11	モンゴル帝国の遺跡を訪ねて	大谷大学	松川 節	86
⑨	12/6	地域と連携した京都観光学の可能性	同志社女子大学	天野 太郎	72

(4) リカレント教育事業 (Field I)

8月22日(金)「防災と減災のためのリスクマネジメントー助かることと助けることのあいだを結ぶー」申込開始
9月1日(月)「対人援助の現代的課題・広がりや深まりのなかで考える多職種連携-」申込開始
9月27日(土)「防災と減災のためのリスクマネジメント」第1回、第2回講義
10月1日(水)～12月31日(水)「対人援助の現代的課題・広がりや深まりのなかで考える多職種連携-」オンデマンド視聴期間
10月25日(土)「防災と減災のためのリスクマネジメント」第3回、第4回講義
11月29日(土)「防災と減災のためのリスクマネジメント」第5回、第6回講義
12月13日(土)「防災と減災のためのリスクマネジメント」第7回、第8回講義
12月14日(日)「対人援助の現代的課題・広がりや深まりのなかで考える多職種連携-」演習
2026年1月17日(土)大学リカレント教育講座①大谷大学「“おとな”の発達心理学ー「こころの半分」と出会う旅へー」
3月7日(土)大学リカレント教育講座②京都女子大学「朝活！ライフキャリアデザインー10年後の私を考えるー」

防災と減災のリスクマネジメント

	申込数	受講生数
第1回 誰一人取りのこさない防災とは	14	12
第2回 あなたならどうする？	20	19
第3回 「自らの命をお互いに守りあう」避難について	13	13
第4回 地域住民だからこそ可能な「立ち向かう防災」	16	16
第5回 歴史的な町並みから学ぶ、そして備える	15	12
第6回 わがこと意識を喚起する情報提示デザイン	13	13
第7回 生命と生活と生計を守るための計画（LCP）づくりの視点	18	15
第8回 被災地のリレーのグループ・ダイナミックス	18	14

127

114

「対人援助のフロンティア-よりよく生きるための支援とは何かを考える-」

【演習のみ先着 30名 受講者 19名】

		テーマ	講師	受講者数
①	オンデマンド	誰一人置いていかない。対人援助職の災害への備え	黒瀧 安紀子	16
②		特別養子縁組後支援とライフストーリーワーク	徳永 祥子	
③		ケアラーの葛藤によりそう支援とは何かーケアリング・ソサエティにつながる支援のあり方を考えるー	斎藤 真緒	
④		アクティブ・バイスタンダーとは何か？～差別やハラスメントの場面を見た時に～	西井 開	
⑤		プレコンセプションから産後ケアまで、つなぐ支援・途切れる支援：現場のリアルを読み解く	長坂 桂子	

⑥		栄養学的見地から考える『食』を通じた心身の健康と対人援助	井戸 由美子	
⑦		刑事裁判における「治療的司法」の取組み～現場の最前線の事例報告～	西谷 裕子	
⑧		多文化カウンセリングとマイクロアグレッションⅡ～最新の実態調査とマジョリティの抵抗に焦点を当てて～	丸一 俊介 朴 希沙	
⑨		行動的 QOL 拡大を支援する対人援助	中鹿 直樹	
	12/14	対人援助のフロンティア	中村 正	4

教育事業部 各種委員会

(1) 単位互換事業 (Field I)

・教育事業企画検討委員会

【委員会構成】

委員長	石倉 忠夫	大学コンソーシアム京都 教育事業部長、同志社大学 スポーツ健康科学部 教授
	阿部 一晴	京都光華女子大学・短期大学部 キャリア形成学部 教授
	仲宗根 充修	京都文教短期大学 ライフデザイン総合学科 准教授
	西尾 浩二	大谷大学 文学部 哲学科 准教授
	米本 昌史	京都精華大学 デザイン学部 教授
	稲森 裕実	立命館大学 教学部 事務部長
	谷川 悟史	京都橘大学 教学事務部 教学事務部長

【開催日程・主要議題】

2025 年 7 月 22 日 第 1 回 次年度プラザ科目学年暦、プラザ推奨科目等の方針確認

2025 年 11 月 13 日 第 2 回 次年度プラザ推奨科目・国際共修科目申請の採択等について 他

(2) 産学連携教育事業 (旧インターンシップ事業) (Field I)

・産学連携教育事業企画検討委員会

【委員会構成】

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 教授
	濱田 崇嘉	龍谷大学 経営学部 教授
	黒宮 一太	京都文教大学 総合社会学部 准教授
	坂本 清彦	龍谷大学 社会学部 准教授
	木下 翔吾	大谷大学 学生支援部キャリアセンター
	乾 芙美香	京都先端科学大学 インターンシップ推進課
	青柳 祐	立命館大学 キャリアオフィス 課長
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課 課長補佐
	渡邊 直裕	京都産業大学 キャリア教育センター
	土肥 遥	大和電設工業株式会社 総務部総務課 係長

【開催日程・主要議題】

2025 年 6 月 27 日 第 1 回 2026 年度 プログラム実施方針の策定に向けた課題等の確認 他

2025 年 10 月 24 日 第 2 回 2025 年度 プログラムの実施状況について 他

2025 年 12 月 5 日 第 3 回 2025 年度 プログラムの実施状況について 他

・産学連携教育プログラム コーディネーター会議(エクスターンシップ (就業体験) コース)

総合 コーディネーター	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
チーフ コーディネーター	濱田 崇嘉	龍谷大学 経営学部 教授
	黒宮 一太	京都文教大学 総合社会学部 准教授
	中道 一心	同志社大学 商学部 教授
	岸岡 洋介	京都外国語大学 共通教育機構 准教授
	前田 充洋	大谷大学 文学部 講師
	澤井 志保	京都産業大学 外国語学部 准教授
	須賀 涼太	京都産業大学 経営学部 助教
	関 智宏	同志社大学 商学部 教授
	高野 拓樹	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部 教授
	戸田 香	京都女子大学 ジェンダー教育研究所 助教
	平本 毅	京都府立大学 農学食科学部 准教授
	松村 千鶴	京都府立大学 教職センター 特任教授
	山岸 達矢	京都橘大学 経済学部 准教授

【開催日程・主要議題】

2025 年 4 月 10 日 第 1 回 2025 年度選考方針等について 他
 2025 年 6 月 12 日 第 2 回 2025 年度コーディネーター担当ゼミクラスについて 他
 2025 年 7 月 5 日 第 3 回 「事前学習レポート」の確認・指導、事後学習に向けて 他
 2025 年 9 月 11 日 第 4 回 2026 年度講義計画について
 2025 年 10 月 16 日 第 5 回 2026 年度講義計画について 他

・産学連携教育プログラム コーディネーター会議(プロジェクト企画実践コース)

総合 コーディネーター	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 教授
チーフ コーディネーター	坂本 清彦	龍谷大学 社会学部 准教授
	高橋 結	立命館大学 共通教育推進機構 准教授
	西村 雅信	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 准教授
	藤村 佳子	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部 准教授
	平賀 緑	京都橘大学 経済学部 准教授

【開催日程・主要議題】

2025 年 5 月 29 日 第 1 回 2025 年度出願・選考結果、講義計画について 他
 2025 年 7 月 3 日 第 2 回 2025 年度各プロジェクト進捗状況について 他
 2025 年 8 月 28 日 第 3 回 2025 年度各プロジェクト進捗状況について 他
 2025 年 10 月 30 日 第 4 回 2026 年度講義計画について 他
 2025 年 11 月 27 日 第 5 回 2026 年度講義計画について 他

(3) 生涯学習（京カレッジ）事業（Field I）

・京都学企画検討委員会

【委員会構成】

委員長	河原 典史	立命館大学 文学部 教授
	川島 智生	神戸情報大学院大学 客員教授
	加須屋 明子	京都市立芸術大学 美術学部 教授
	河野 道房	同志社大学 文学部 教授
	笹部 昌利	京都産業大学 文化学部 准教授
	寺嶋 一根	佛教大学 歴史学部 講師（2025 年 10 月 1 日～）
	中村 尚志	京都市 総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策課長

【開催日程・主要議題】

2025 年 9 月 5 日 第 1 回 2026 年度京都学講座のテーマについて 他

2025 年 11 月 26 日 第 2 回 2026 年度 京都学講座の開講（テーマ・講師選定）について 他

2026 年 2 月 6 日 第 3 回 2026 年度京都学講座 講師及び講座概要等について 他

(4) リカレント教育事業（Field II）

・リカレント教育企画検討委員会

【委員会構成】

委員長	中村 正	立命館大学 産業社会学部 特任教授
	大石 尚子	龍谷大学 政策学部 教授
	河原 宣子	京都橘大学 看護学部 教授
	中山 玲子	京都女子大学 副学長、地域連携研究センター センター長
	西川 千嘉子	京都市 総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策部長
	畑本 裕介	同志社大学 政策学部 教授
	小林 慎一	公益財団法人大学コンソーシアム京都 事務局長
	米本 昌史	京都精華大学 デザイン学部 教授
	明石 俊一	京都府 商工労働観光部 労働政策室 室長
	山口 洋典	立命館大学 共通教育推進機構 教授
	山田 拓平	コミュニティ・バンク京信（京都信用金庫）人事部課長
	佐藤 雄太郎	株式会社リアセック 教育事業グループ マネージャー

【開催日程・主要議題】

2025 年 7 月 17 日 第 1 回 2025 年度リカレント教育プログラム実施案について 他

2026 年 3 月 12 日 第 2 回 京都府とのリカレント教育連携に関する状況整理および今後の方向性について（案）他

・リカレント教育プログラムコーディネーター

コーディネーター	テーマ
中村 正 立命館大学 産業社会学部 特任教授	「対人援助の現代的課題-広がりや深まりのなかで考える多職種連携-」
山口 洋典 立命館大学 共通教育推進機構 教授	「防災と減災のためのリスクマネジメント-助かることと助けることのあいだを結ぶ-」

以 上

教育開発事業部 事業進捗（2025 年度）

（１）FD 事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

学修者本位の教育を提供するための教学マネジメントを支える基盤として、FD・SD の推進を図ることが求められている。

FD 事業の運営にあたっては、「FD・SD フォーラム企画検討委員会（2024 年度から FD フォーラムに SD の要素を盛り込んだフォーラムを企画運営するため 2024 年 4 月より名称変更）およびフォーラム以外の FD 事業を担当する「FD 企画研究委員会」の 2 委員会体制で推進する。

◆FD・SD フォーラム

今年度で 31 回目を迎える。2025 年度は、これまで教員のみで構成していた「FD・SD フォーラム企画検討委員会」に加盟校の職員 2 名を加える。本財団の第 6 ステージを踏まえて、教員・職員の垣根を超えて「教職協働」の意識の醸成を図ると共に、FD、SD それぞれの要素を盛り込んだフォーラムの実質化を図っていく。

また、加盟大学の情報発信や参加者間の交流にも重きを置いて取り組む。

◆大学執行部塾

6 月下旬に行われる当財団理事会・評議員会・会員総会開催日に実施する。2020 年度までは、各加盟校の学長等の大学執行部層のみを対象とする研修プログラムであったが、2021 年度からは、大学執行部層以外も参加対象としオンラインで聴講できるように運用している。

◆FD 合同研修プログラム

FD 合同研修プログラムでは、次の 2 つの事業を展開する。

・テーマ別研修

新任教員や FD の基礎的な事項を学び直したいと考える教員や、FD 関連部署に勤務する職員、または FD に関心のある教職員を対象とした研修プログラムを実施する。加盟校教職員が抱える問題や課題をテーマとして設定し、ニーズに合った形態で実施する。

・京都 FD 交流会

FD に関するテーマのもと、加盟校教職員の FD 活動における工夫や悩みを共有しながら課題の解決に向けたヒントを探り、加盟校の枠を越えた教職員の交流機会を提供する。

◆高等教育情報 NAVI「教まちや」

加盟校をはじめとする教育機関が高等教育に関するイベント情報を収集する際のハブ機能を担うツールとして 2014 年度に開始した。(1)イベントの投稿・掲載、(2)教まちや News（ブログ機能）、(3)メールマガジンの 3 つのコンテンツがある。様々な大学の特色ある取り組みを発信する。

<実績>

◆第31回FD・SDフォーラム

全体テーマ 「2040年の京都の大学ー我々はどう教え、学び、働いているのかー」

日時 2026年2月28日(土)・3月1日(日)

場所 同志社大学 今出川キャンパス 良心館

参加者数 484名

シンポジウム1 (3月1日)

テーマ 「AI時代／少子化社会における大学(教育)のあり方を問う」

コーディネーター 佐藤 賢一氏(京都産業大学 生命科学部 教授／教育支援研究開発センター長／ハテナソン共創ラボ代表理事)

登壇者 石井 力重氏(アイデアプラント代表／早稲田大学 非常勤講師)

安松 健氏(㈱エボルブ Chief Assemblage Officer／大阪教育大学 理数情報教育系 特任准教授)

吉岡 太郎氏(㈱HRD研究所 主席研究員)

参加者数 290名

分科会

<2月28日開催 10:00～12:30>

(分科会1／講義形式)

テーマ 「大学における教育評価の在り方再考ー新学習指導要領導入後の教育評価」

コーディネーター 岩崎 大輔氏(京都薬科大学 薬学部 講師)

登壇者 松下 佳代氏(京都大学 大学院教育学研究科 教授)

山下 一夫氏(慶応義塾大学 理工学部 教授)

高橋 昌由氏(大阪成蹊愛学 教育学部 准教授)

参加者数 128名

(分科会2／講義形式)

テーマ 「新たな学びを育むために～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～」

コーディネーター 多田 泰紘氏(京都橘大学 経営学部 准教授)

登壇者 西野 毅朗氏(京都橘大学 経営学部 准教授)

菊池 誠氏(神戸大学 大学教育推進機構教養教育院 院長)

君島 菜菜氏(大正大学 教務部 学修支援センター部長／特命准教授)

参加者数 82名

(分科会3／講義形式)

テーマ 「大学危機の時代を生き抜く組織づくり～組織効力感の醸成」

コーディネーター 前川 雄太氏(京都女子大学 大学改革推進室 室長)

登壇者 坂井 風太氏(㈱Momentor 代表取締役)

参加者数 112名

(分科会4／ワークショップ形式)

テーマ 「大学の授業における「所属感・居場所」づくり」

コーディネーター 小正 浩徳氏(龍谷大学 心理学部 准教授)

登壇者 土居 洋平氏(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授)

中尾 覚氏(龍谷大学 心理学部教務課 職員)

参加者数 32名

<2月28日開催 14:30～17:00（午後）開催>

（分科会5／講義形式）

テーマ 「つなぐ広報、ひらく大学—教職協働で育む大学の魅力と未来—」

コーディネーター 木村 修平氏（立命館大学 生命科学部 教授）

登壇者 木原 考晃氏（京都芸術大学 広報課 課長）

勝屋 藍太氏（立命館大学 広報課 課長）

岡 堅太氏（大阪大学 広報・ブランド戦略本部 副本部長／クリエイティブユニット 准教授）

参加者数 140 名

（分科会6／講義形式）

テーマ 「EdTech で推進する個別化教育」

コーディネーター 山本 康友氏（同志社女子大学 薬学部 教授）

登壇者 小城 擁二氏（atama plus（株） 大学・予備校支援事業部高大接続チームオーナー）

新井 昌明氏（立命館大学 入学センター 入学課 課長）

柏木 崇氏（（株）ベネッセコーポレーション VIEW next 編集部 統括責任者）

宿久 洋氏（同志社データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会委員長／同志社大学 文化情報学部 教授）

参加者数 158 名

（分科会7／講義形式）

テーマ 「京都地区における大学の防災対策」

コーディネーター 疋田 浩一氏（京都外国語大学 外国語学部 准教授）

登壇者 丹波 史紀氏（立命館大学 産業社会学部 教授／災害危機レジリエンス研究センター長）

山本 克彦氏（日本福祉大学 福祉経営学部 教授）

参加者数 31 名

（分科会8／ワークショップ形式）

テーマ 「産学連携の新たな可能性」

コーディネーター 野村 実氏（大谷大学 社会学部 講師）

登壇者 小林 敬志氏（特定非営利活動法人 SET 交流部 副部長）

勝山 鉄矢氏（京都府立丹後緑風高校網野学者 教諭）

八島 潤子氏（（株）コギトデザイナー・イラストレーター）

参加者数 26 名

<3月1日（午後）開催>

（分科会9／講義形式）

テーマ 「大学におけるアセスメントテスト（ジェネリックスキル測定テスト）の活用事例」

コーディネーター 金子 貴昭氏（京都先端科学大学 人文学部 准教授）

登壇者 酒井 陽年氏（（株）リアセック 教育事業グループマネージャー）

出口 貴大氏（共立女子大学・共立女子短期大学 キャリアセンター 職員）

山本 博子氏（京都橘大学 教学事務部教務課 課長補佐）

椋平 淳氏（大阪工業大学 工学部 教授）

参加者数 116 名

(分科会 10／講義形式)

テーマ 「大学職員の高度化と流動性（職員の人材育成）」

コーディネーター 南 了太氏（京都精華大学 国際文化学部 准教授）

登壇者 村山 孝道氏（京都文教大学 総合社会学部 准教授）

谷ノ内 識氏（大正大学 地域創生学部 教授）

山咲 博昭氏（奈良女子大学 高等教育研究・支援センター 准教授）

参加者数 85 名

(分科会 11／ワークショップ形式)

テーマ 「高大連携をどう設計し、学生募集・入試・入学前／初年次教育等につなぐか～連携・接続・移行の今とこれから～」

コーディネーター 井出 大地氏（京都文教大学 入学センター 高大連携オフィス 課長補佐）

登壇者 高原 幸治氏（桜美林大学 入学部 部長 学長補佐（入学／高大連携担当）

山本 以和子氏（京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授）

参加者数 30 名

(分科会 12／ワークショップ形式)

テーマ 「多様性配慮と障害学生支援」

コーディネーター 浅田 瞳氏（京都文教大学 臨床心理学部 准教授）

奥畑 志帆氏（佛教大学 教育学部 准教授）

登壇者 林 雅清氏（京都文教大学 こども教育学部 教授）

楠 敬太氏（佛教大学 学生支援センター 講師）

参加者数 29 名

ポスターセッション

参加大学・プログラム

《参加募集期間／10月21日（火）～11月25日（火）（締切を12月12日（金）まで延長）
（13大学21プログラム）

・大谷大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学2、京都華頂大学・京都華頂短期大学、京都芸術大学、京都産業大学4、京都女子大学、京都精華大学、京都橘大学、京都文教大学、京都薬科大学、同志社大学2、同志社女子大学2、龍谷大学3

情報交換会 参加者数 66 名

◆大学執行部塾

日時 2025年6月21日（土）11:30～12:45

開催形式 ハイブリッド形式（当財団理事会・評議員会出席者のみ配信会場からの参加、
上記以外はオンライン配信）

配信会場 キャンパスプラザ 4階 第3講義室

テーマ 「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」

講師 高見 英樹 氏（文部科学省高等教育局 高等教育政策室長）

参加者数 106 名

（対面／理事・評議員・総会出席者） 28 名

（オンライン） 78 名

◆IR フォーラム

テーマ 「大きく変わる入学者選抜、学生募集と IR 活用の可能性を考える」
日 時 2025 年 8 月 30 日 (土) 13:00～15:00
場 所 オンライン開催
基調講演 朝日 Think! 総合監修者 中村正史氏 (予定)
事例報告① 実践女子大学 広報課 担当部長 浜中 邦興氏
事例報告② 追手門学院大学 大学政策課 課長 足立 崇氏
参加者数 515 名

◆FD 合同研修プログラム

○テーマ別研修

(1) FD 基礎知識

(シラバス設計／到達目標と評価課題の設計／授業方法の工夫)

形 態 オンデマンド

公 開 2025 年 9 月～2026 年 3 月 31 日 (火) (予定)

視聴者数 95 名

(2) 第 1 回

テーマ 「明日の自分を軽くする:大学教職員のための心の整え方と Z 世代との付き合い方」

日 時 2025 年 6 月 4 日 (水) 18:30～20:30

形 態 オンライン

講 師 有光 興記氏 (関西学院大学 文学部 教授)

大槻 久美子氏 (一般社団法人カウンセリングルーム (Big Smile 代表 公認心理
師・産業カウンセラー)

進行・コーディネーター 根岸 裕子氏 (京都華頂大学 現代生活学部 教授)

竹井 智子氏 (京都工芸繊維大学 基盤科学系 教授)

参加者数 28 名

(3) 第 2 回

テーマ 「科研費獲得のための申請書作成術～コツと戦略を学ぶ～」

日 時 2025 年 7 月 2 日 (水) 18:00～20:00

形 態 オンライン

講 師 佐藤 嘉倫 氏 (京都先端科学大学 人文学部心理学科 教授)

松原 洋子 氏 (立命館大学大学院先端総合学術研究科 特任教授／名誉教授)

進 行 大秦 正揚 氏 (京都先端科学大学 バイオ環境学部 講師)

高尾 郁子 氏 (京都薬科大学 学生実習支援センター 助教)

参加者数 109 名

(4) 第 3 回

テーマ 「隣のゼミはどんなゼミ？」

日 時 2025 年 9 月 26 日 (金) 18:30～20:30

形 態 オンライン

講 師 安岡 健一 氏 (大阪大学 大学院人文学研究科 准教授)

深尾 武史 氏 (龍谷大学 先端理工学部 教授)

進 行 栢木 紀哉 氏 (龍谷大学 経営学部 教授)

鄭 祐宗 氏（大谷大学 国際学部 准教授）
参加者数 14 名

（５）第４回

テーマ 「楽しみながら伸ばす！ゲームで高める語彙力と知的文章力」
日 時 2025 年 12 月 13 日（土）13:30～15:50
形 態 オンライン
講 師 野中 アンディ氏（一般遮断法人コミュニケーションスキル協会代表理事）
進 行 野島 晃子氏（平安女学院大学 子ども教育学部 准教授）
赤岩 香苗氏（京都産業大学 情報理工学部 准教授）
参加者数 15 名

○京都 FD 交流会

テーマ 「授業をイノベーション！学びを動かすアイデアとテクノロジー」
日 時 2025 年 8 月 9 日（土）13:00～15:30
形 態 対面
講 師 矢野 浩二郎氏（大阪工業大学 情報科学部 教授）
藤村 敬次氏（愛知工業大 基礎教育センター 准教授／立命館大学 授業担当講師）
進 行 近藤 雪絵氏（立命館大学 薬学部 教授）
李 冠宏氏（京都外国語大学 国際貢献学部 准教授）
参加者数 21 名

【実施スケジュール（主要事項）】

【今後の主な予定】

6 月 21 日（土）	大学執行部塾
8 月 30 日（土）	IR フォーラム
2 月 28 日（土）・ 3 月 1 日（日）	第 31 回 FD・SD フォーラム

（２）SD 事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

◆SD 共同研修プログラム

社会人としての基礎知識から大学職員としての汎用的なスキルの修得など研修内容の幅を拡げ多様な受講生ニーズを踏まえて、職務遂行能力向上に寄与するプログラムを企画・実施する。

◆SD ゼミナール

実施 11 年目（9 回目）を迎えている。コロナ禍で、2020 年度～2021 年度の 2 年間は、全日程対面開催が困難なため中止し、2022 年度はオンラインで、2023 年度からは対面中心で行っている。

「受講生自らが自己の成長を実感できる」満足度の高いプログラムとなっているが、受講者数の減少傾向を大きな課題と捉え対策を講じているところです。2024 年度参加者数の減少に歯止めをかけることができたが、引き続き対策を講じる。

◆SD フォーラム

高等教育の動向を踏まえての先進事例紹介の場、また、外部有識者の知識やノウハウを獲得する場として、SD 分野で関心の高いテーマを設定し、大学教職員の能力向上や大学の枠を超えた情報交流の場を提供することを目的として実施する。

なお、2026 年度には、「FD・SD フォーラム」へ統合するという目標を掲げている。

◆SD ガイドブック

隔年で更新しており、2027 年度版発行に向けて取り組む。

<実績>

◆SD 共同研修プログラム

(1) 知るほどなっとくビジネスマナー（対面）

日 時 2025 年 3 月 21 日（金）、5 月 9 日（金） 10:00～16:00

対 象 若手教職員（入職 1～2 年目）（対象以外の方でも参加可能）

講 師 (株)話し方教育センター

藤原 真理弥 氏

参加者数 3 月 21 日（金） 4 名

5 月 9 日（金） 18 名

[参考]2024 年度実績 3 月 21 日（16 名）、5 月 8 日（20 名）

2023 年度実績 3 月 22 日（7 名）、3 月 24 日（15 名）、5 月 12 日（12 名）

2022 年度実績 3 月 24 日（9 名）、3 月 25 日（10 名）、5 月 25 日（9 名）

(2) マーケティング最前線～高校生・新入生の心を掴む～（対面）

日 時 2025 年 6 月 6 日（金）13:00～16:00

対 象 勤続 10 年目までの教職員（対象外の方でもご参加可能）

講 師 谷ノ内 識 氏（大正大学 地域創生学部 教授）

参加者数 30 名

(3) 大競争時代の大学経営と高等教育政策（対面）

日 時 2025 年 6 月 27 日（金）13:00～15:00

対 象 勤続 5 年以上の教職員（対象外の方でもご参加可能）

講 師 小林 浩 氏（リクルート進学総研所長、カレッジマネジメント編集長）

参加者数 75 名

(4) 成功する DX 失敗する DX（対面）

日 時 2025 年 7 月 2 日（水）13:00～17:00

対 象 全教職員（勤続年数にかかわらず参加可能）

講 師 (株)エデュース

参加者数 29 名

(5) 研究支援の基礎知識と最新のトレンドー今大学に求められる研究とは？ー（対面）

日 時 2025 年 7 月 23 日（水）13:00～16:00

対 象 勤続 5 年目までの教職員（勤続年数にかかわらず参加可能）
講 師 廣瀬 充重氏（立命館大学 研究部 次長）
参加者数 18 名

（6）ファンドレイジング最前線（対面）

日 時 2025 年 8 月 29 日（金）13:00～16:00
対 象 全教職員（勤続年数にかかわらず参加可能）
講 師 須山 弘一氏（島根大学 医学部 総務課 企画調査係 係長）
参加者数 18 名

（7）豊かな人間関係を築くためのアサーション（自己表現）トレーニング入門（対面）

日 時 2025 年 12 月 19 日（金）13:00～16:00
対 象 勤続 10 年までの教職員（勤続年数にかかわらず参加可能）
講 師 (株)インソース
参加者数 9 名

◆SD セミナール

申込締切 2025 年 4 月 25 日（金）
受講者：11 名（2004 年度 13 名、2023 年度 8 名、2022 年度 10 名）

【オリエンテーション】2025 年 5 月 31 日（土）13：00～14：30

【第 1 回】 「アカデミック・ライティングの基礎—「問題意識」を具体的な「問い」に変換する方法とは？—」（対面）

日 時 2025 年 5 月 31 日（土）14：50～17：30
講 師 坂本 尚志 氏（京都薬科大学 基礎科学系 一般教育分野 准教授）

【第 2 回】 「アカデミック・リテラシーと政策提言レポート—アカデミック・リテラシーを理解し、リサーチを開始する—」（対面）

日 時 2025 年 6 月 7 日（土）13：50～17：00
講 師 村山 孝道 氏（京都文教大学 総合社会学部 実践社会学科 准教授）

【第 3 回】 「大学の制度・法令・組織—質の高い仕事のために大学教育関連制度・法令・組織を理解する—」（対面）

日 時 2025 年 6 月 14 日（土）13：50～17：00
講 師 宮林 常崇 氏（東京都公立大学法人 東京都立大学管理部理系管理課長（学務課長兼））

【第 4 回】 「大学と高等教育政策 —高等教育政策の側から大学を見ると—」（対面）

日 時 2025 年 6 月 21 日（土）13：50～17：00
講 師 松坂 浩史 氏（文部科学省 文部科学戦略官 （高等教育局））

【第 5 回】 「大学と社会 —地域連携の意味と大学の役割—」（対面）

日 時 2025 年 6 月 28 日（土）13：50～17：00
講 師 深尾 昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 教授）

【第6回】 「大学教育の質保証に向けた教学マネジメントー自校の教学マネジメントを推進していくための討議と助言ー」(対面)

日 時 2025年7月5日(土) 13:50~17:00

講 師 西野 毅朗 氏(京都橘大学 教育開発・学習支援室/経営学部 経営学科 准教授)

【第7回】 「大学と高大連携・高大接続 ー高等学校教育に視点を置き、高大接続について考えるー」(対面)

日 時 2025年7月12日(土) 13:50~17:00

講 師 荒瀬 克己 氏(独立行政法人教職員支援機構 理事長)

【第8回】 「大学の戦略とリーダーシップ ー戦略を創出する組織づくりー」(オンライン)

日 時 2025年7月19日(土) 13:50~17:00

講 師 吉武 博通 氏(学校法人東京家政学院 理事長、筑波大学名誉教授)

【第9回】 「ブランディング・学生募集 ー大学ブランディングの進め方ー」(対面)

日 時 2025年7月26日(土) 13:50~17:00

講 師 上條 憲二 氏(愛知東邦大学 経営学部 地域ビジネス学科 教授)

【公開プレゼンテーション】 2025年9月13日(土) 13:00~18:00

【公開プレゼンテーションフォロー研修】 2025年9月20日(土) 13:50~17:00

【政策提言レポート一次提出締切日】 2025年10月14日(火)

【政策提言レポート最終提出締切日】 2025年11月10日(月)

【2024年度SDゼミナール修了生対象 フォローアップ研修】

日 時 2025年5月31日(土) 14:50~17:30

講 師 白藤 康成 氏(京都産業大学 学長室 IR 推進室)

参加者数 10名(該当者13名中)

◆第23回SDフォーラム

日 時 2025年10月25日(土) 13:00~18:15

全体テーマ 「大学職員とモチベーション~仕事を愉しむ“自分らしい志”の見つけ方~」

基調講演

テーマ 「人・チーム・組織を動かす!大学職員に求められるモチベーション・マネジメント」

講 師 寺裏 誠司氏(㈱学び 代表取締役社長)

分科会1

テーマ 「大学職員は何のために働くのか?」

報告者 岡田 雄介氏(龍谷大学情報メディアセンター事務部長)

鈴木 洋文氏(高崎商科大学事務局次長)

樋口 浩朗氏(山形大学総務部・城跡専門員)

分科会2

テーマ 「大学職員をデザインする」
報告者 鎌田 雅子氏（日本経済大学経営学部准教授）

分科会 3 「やる気スイッチの作り方、見つけ方、押し方」／ワークショップ
報告者 村山 孝道（京都文教大学総合社会学部実践社会学部准教授）
SD ゼミナール修了生（ファシリテーター）
参加者数 131 名

【実施スケジュール（主要事項）】

【主な予定】

3 月 21 日（金）	SD 共同研修プログラム「知るほどなっとくビジネスマナー」
5 月 9 日（金）	SD 共同研修プログラム「知るほどなっとくビジネスマナー」
5 月 31 日（土）	2024 年度 SD ゼミナール修了生対象 フォローアップ研修
5 月 31 日（土）	SD ゼミナール オリエンテーション
	SD ゼミナール（第 1 回）「アカデミック・ライティングの基礎」
6 月 6 日（金）	SD 共同研修プログラム「マーケティング最前線～高校生・新入生の心を掴む」
6 月 7 日（土）	SD ゼミナール（第 2 回）「アカデミック・リテラシーと政策提言レポート」
6 月 14 日（土）	SD ゼミナール（第 3 回）「大学の制度・法令・組織」
6 月 21 日（土）	SD ゼミナール（第 4 回）「大学と高等教育政策」
6 月 27 日（金）	SD 共同研修プログラム「大競争時代の大学経営と高等教育政策」
6 月 28 日（土）	SD ゼミナール（第 5 回）「大学と社会」
7 月 2 日（水）	SD 共同研修プログラム「成功する DX 失敗する DX」
7 月 5 日（土）	SD ゼミナール（第 6 回）「大学教育の質保証に向けた教学マネジメント」
7 月 12 日（土）	SD ゼミナール（第 7 回）「大学と高大連携・高大接続」
7 月 19 日（土）	SD ゼミナール（第 8 回）「大学の戦略とリーダーシップ」
7 月 23 日（水）	SD 共同研修プログラム「研究支援の基礎知識」
7 月 26 日（土）	SD ゼミナール（第 9 回）「ブランディング・学生募集」
8 月 29 日（金）	SD 共同研修プログラム「ファンドレイジング最前線」
9 月 13 日（土）	SD ゼミナール 公開プレゼンテーション
9 月 20 日（土）	SD ゼミナール 公開プレゼンテーションフォロー研修
10 月 14 日（火）	SD ゼミナール 政策提言レポート一次提出締切日
11 月 10 日（月）	SD ゼミナール 政策提言レポート最終提出締切日
12 月 19 日（金）	SD 共同研修プログラム「豊かな人間関係を築くためのアサーション（自己表現）トレーニング入門」

（3）京都高大連携研究協議会事業

【事業計画の概要および実績】

< 概要 >

高大連携事業は、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所及び当財団の連携によって「京都高大連携研究協議会」を組織し、2003 年度から取り組んで

いる。

2022 年度から新学習指導要領に沿った授業が高等学校で展開され、現在高校現場では「探究」に重点を置いた学習が行われている。「高大接続改革」に係る動向に引き続き注視しながら、各種取組の企画展開を検討する。

◆高大連携教育フォーラム

高校・大学間の連携・接続教育問題における国内最新動向の情報共有、事例研究や京都における取組みの情報発信に一定の評価を得ており、多くの関係者の参加者を得ている。「高大接続改革」の動向を見据え、高等学校、大学の双方の視点を摺り合わせながらテーマを検討し企画・実施する。また、高等学校、大学関係者が相集い、交流できる企画となるよう検討する。

◆高大社連携フューチャーセッション

高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的として、設定したテーマについて、高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて対話・交流する。京都府北部地域、京都市内地域ともに多くの高校生・大学生の参加が得られるよう、高等学校関係者と連携を取りながら、高校生・大学生が参加しやすい内容の企画を検討する。

京都北部地域と京都市内を隔年で開催し、2025 年度は、京都市内で開催する。

◆京都高校・大学教職員交流会

「高大接続改革」の推進が求められる中、高等学校および大学教職員がともに課題を出し合い、それぞれの立場への理解促進を図り、交流を深める場として「京都高校・大学教職員交流会」を開催する。引き続き、本交流会の知名度向上を図るとともに、参加者自らが主体的に関与できるよう工夫しながら実施する。

◆京都高大接続地域ネットワーク（KARN）

京都全体の大学入学者の受け入れ体制の強化、魅力発信を進め、高大接続(入試、教育、高大連携等)を実現できる人材育成とネットワーク化を目指し、2024 年度から研修会を企画している。

◆高大連携・接続に関わる先進事例等の調査研究

京都地域での高大連携に関わる試行的取組に関する情報の収集や課題を整理したうえで、高校生を対象とした主体的な学びの実現に寄与する「京都ならではの」のプログラム等の検討にあたって、加盟大学、京都府内の高等学校に対してアンケート調査を実施する。

<実績>

◆第 23 回高大連携教育フォーラム

日 時 2025 年 12 月 6 日（土）

場 所 対面開催

テーマ 探究的な学びが高大にもたらすもの

～高大連携の「モヤモヤ」に迫る～

第 1 部

基調講演

登壇者：松下佳代氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

パネルディスカッション

パネリスト：松下佳代氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

倉部史記氏（高大共創コーディネーター）

小谷英里氏（日星高等学校 探究推進主任）

コーディネーター：杉岡秀紀氏（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

第2部

分科会1 「高校の探究活動を深めるために効果的な高大連携の“形”とは？

～ 高大連携の今と未来～

報告者 松嶋 亮潤氏（京都府立福知山高等学校みらい探究部 教諭）

日下部 成登氏（京都府立北桑田高等学校 系属校準備部 教授）

コーディネーター 白石 耕二氏（京都府教育委員会 指導部高校教育課 指導主事）

分科会2 「探究的な学びの可能性を広げる連携と協働の「モヤモヤ」

一中・高・大、それぞれの立場から見える外部連携の課題とヒントを探るー

報告者 長谷川 夕起氏（京都橘中学校・高等学校 探究学習コーディネーター主任）

日下部 成登氏（京都府立北桑田高等学校 系属校準備部 教授）

コーディネーター 白石 耕二氏（京都府教育委員会 指導部高校教育課 指導主事）

特別分科会1 「総合型選抜における探究活動の評価をどうするか？

～ルーブリックの作成をきっかけに～

報告者 杉森 公一氏（北陸大学 高等教育推進センター長・教授）

コーディネーター 柿本 航（佛教大学 入学部 入学課長）

森岡 大樹（京都女子大学 教育・学生支援部学生支援課長）

特別分科会2 「高校・大学がともに考える探究の「モヤモヤ」

～大学生が語る探究のモヤモヤ、探究を支える大学生の挑戦～

報告者 小村 柊翔氏（龍谷大学文学部 歴史学科 3 回生）

大見 智美氏（京都工芸繊維大学 工芸科学部 応用生物学課程 2 回生）

大橋 未都氏（京都工芸繊維大学 工芸科学部 応用生物学課程 2 回生）

花登 淳平氏（京都府立須知高等学校 教諭）

コーディネーター

滋野 哲秀氏（大学コンソーシアム京都 高大連携推進室員／聖ヨゼフ学園

日星高等学校 校長／元龍谷大学 文学部 教授）

参加者数 110 名

情報交換会参加者数 24 名

◆2025 年度高大社連携フューチャーセッション

日 時 2025 年 11 月 8 日（土）

場 所 京都経済センター

テーマ 自分の“これから”は、話すことで見つかる

～高校生・大学生・社会人との対話の中で、未来のヒントを見つけませんか？～

メインファシリテーター 杉岡 秀紀 氏（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

ファシリテーター（予定）乾 明紀 氏（京都橘大学 経済学部 教授）

滋野 哲秀 氏（日星高等学校 校長／元 龍谷大学 文学部 教授）
行元 沙弥 氏（NPO 法人グローバル人材開発センター理事長）
中田 愛 氏（一般社団法人ココラスタジオ代表／マイプロ京都発起人）
田中 成美 氏（ASTANE 代表）

参加者数 19 名（高校生 3 名、大学生 14 名、社会人 2 名）

◆京都高校・大学教職員交流会

・第 21 回

日 時 2025 年 7 月 5 日（土）

開催形態 ハイブリッド（対面・オンライン）

テーマ「学校全体で取り組む探究的な学びとは

～「総合的な探究の時間」と「教科における探究」のつながりが生む、
生徒の深い学びと教員の成長～

話題提供者 青野 陽介氏（立命館宇治中学校・高等学校 教諭）

伏木 陽介氏（花園中学高等学校 教諭）

コーディネーター 滋野 哲秀氏（日星高等学校 校長／元 龍谷大学 文学部 教授）

参加者数 34 名（うち対面 25 名、オンライン 9 名）

・第 22 回

日 時 2026 年 2 月 21 日（土）

開催形態 ハイブリッド（対面・オンライン）

テーマ「探究がどんどん進んでいく学校と変わらない学校、総合的な探究の時間」を動かす校内体制、
研究組織とは

～生徒が活発に探究し、学校の姿が変わっていく学校の組織体制をどのように整備すればいい
のか～

登壇者 山田高志氏（京都府立北稜高等学校教諭）

多々納智氏（京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎教諭）

コーディネーター

滋野 哲秀氏（日星高等学校 校長／元 龍谷大学 文学部 教授）

参加者数 67 名（うち対面 16 名、オンライン 51 名）

◆京都高大接続地域ネットワーク（KARN）

・第 1 回

テーマ「大学入試におけるリスクマネジメント」

日 時 2025 年 4 月 19 日（土）

講 師 木村 拓也 氏（九州大学 人間環境学研究院 教育学部門 教授）

参加者数 15 名

・第 2 回

テーマ「18 歳人口減少に向けた、持続可能な学生募集のためのポイント

～高校側の悩みを踏まえた、効果的なコミュニケーション施策を考える～

日 時 2025 年 5 月 10 日（土）

講 師 倉部 史記 氏

(追手門学院大学 客員教授／情報経営イノベーション専門職大学客員教授)

参加者数 21 名

◆高校と大学の連携等に関するアンケート調査

(目的) 高校生の主体的な学びを支える「京都ならではの」高校と大学の連携のあり方を検討するにあたって、高校と大学の連携による取り組み状況や各大学・高校の考え・要望を把握するために実施する。(大学コンソーシアム第 6 ステージの重点施策)

(調査実施校)

○高等学校

対象 京都府下の高等学校 109 校 (国立 1 校、府立 59 校、市立 9 校、私立 40 校)

- ・調査期間／令和 7 年 7 月 25 日 (金) ～8 月 22 日 (金)
- ・予備期間／令和 7 年 8 月 25 日 (金) ～8 月 29 日 (金)
- ・回答率 109 (実質 106) 校中、92 校回答。回答率 86.8%

○大学

対象 大学コンソーシアム京都加盟大学 (一部の大学を除く)

- ・調査期間／令和 7 年 8 月 20 日 (水) ～9 月 10 日 (水)
- ・予備期間／令和 7 年 9 月 11 日 (木) ～9 月 18 日 (木)
- ・回答率 38 校中、32 校回答。回答率 84.2%

※一部の高校・大学には、ヒアリング調査を実施

(質問概要)

- ・高校と大学との連携に係る各校の取り組み状況や課題
- ・今後求められる高校と大学の連携事業について
- ・大学コンソーシアム京都が現在実施している事業に対する意見や要望

(その後の動き)

(11 月～12 月中旬) 業務委託会社による分析

(12 月～2 月) 調査結果のまとめ

【実施スケジュール (主要事項)】

【今後の主予定】

4 月 19 日 (土)	京都高大接続地域ネットワーク (KARN) セミナー 第 1 回「大学入試におけるリスクマネジメント」
5 月 10 日 (土)	京都高大接続地域ネットワーク (KARN) セミナー 第 2 回「18 歳人口減少に向けた、持続可能な学生募集のためのポイント」
11 月 8 日 (土)	2025 年度高大社連携フューチャーセッション
12 月 6 日 (土)	第 23 回高大連携教育フォーラム
2 月 21 日 (土)	京都高校・大学教職員交流会【ハイブリッド形式】

各種委員会等の開催について

■開催報告■

(1) FD 事業

① FD・SD フォーラム企画検討委員会

5月29日(木)	第1回FD・SDフォーラム企画検討委員会
8月21日(木)	第2回FD・SDフォーラム企画検討委員会
10月9日(木)	第3回FD・SDフォーラム企画検討委員会
11月6日(木)	第4回FD・SDフォーラム企画検討委員会
3月27日(金)	第5回FD・SDフォーラム企画検討委員会

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名〈敬称略〉	所属等
浅田 瞳	京都文教大学 臨床心理学部 准教授
市川 寛	同志社大学 生命医科学部 教授
井出 大地	京都文教大学 入学センター 高大連携オフィス 課長補佐
岩崎 大輔	京都薬科大学 一般教育分野 講師
奥畑 志帆	佛教大学 教育学部 准教授
金子 貴昭	京都先端科学大学 人文学部 准教授
木村 修平	立命館大学 生命科学部 教授
小正 浩徳	龍谷大学 心理学部 准教授
佐藤 賢一	京都産業大学 教育支援研究開発センター長／生命科学部 教授
多田 泰紘	京都橘大学 経営学部 准教授
野村 実	大谷大学 社会学部 講師
疋田 浩一	京都外国語大学・京都外国語短期大学 外国語学部 准教授
前川 雄太	京都女子大学 大学運営本部 大学改革推進室 室長
南 了太	京都精華大学 国際文化学部 准教授
山本 康友	同志社女子大学 薬学部 教授

② FD 企画研究委員会

5月21日(水)	第1回FD企画研究委員会
6月26日(木)	第2回FD企画研究委員会
2月17日(火)	第3回FD企画研究委員会
3月24日(火)	第4回FD企画研究委員会

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名〈敬称略〉	所属等
赤岩 香苗	京都産業大学 情報理工学部 准教授
大秦 正揚	京都先端科学大学 バイオ環境学部 講師
栢木 紀哉	龍谷大学 経営学部 教授
近藤 雪絵	立命館大学 薬学部 教授
高尾 郁子	京都薬科大学 学生実習支援センター 助教
竹井 智子	京都工芸繊維大学 基盤科学系 基盤科学系副学域長・教授
鄭 祐宗	大谷大学 国際学部 准教授
根岸 裕子	京都華頂大学 現代生活学部 教授
野島 晃子	平安女学院大学 子ども教育学部 准教授

松本 真治	佛教大学 文学部 教授
李 冠宏	京都外国語大学 国際貢献学部 グローバル観光学科 准教授

(2) SD事業

③ SD 研修委員会

5月 13日 (火)	第1回 SD 研修委員会
7月 4日 (金)	第2回 SD 研修委員会
10月 10日 (金)	第3回 SD 研修委員会
12月 5日 (金)	第4回 SD 研修委員会
3月 17日 (火) ~3月 19日 (木) 12:00	第5回 SD 研修委員会 (メール審議)

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名 (敬称略)	所属等
小椋 幹子	京都女子大学 学術研究支援部 連携推進課長
小野 高歩	同志社大学 人事部 人事課 人事企画係 係長
河内 明子	立命館大学 人事部 次長
小堀 英愛	京都外国語大学・京都外国語短期大学 法人部人事課 主幹
五反田 康裕	大谷大学 総務部総務課 課長
小南 恵美	京都芸術大学 法人事務局総務課 課長
中原 正樹	京都産業大学 総務部 (人事担当) 課長
野村 知未	龍谷大学 総務部法務課 課長
村山 孝道	京都文教大学 総合社会学部 准教授

（３）京都高大連携研究協議会事業

以下の④・⑤の会議は、大学コンソーシアム京都に設置された専門委員会とは異なり、京都高大連携研究協議会に設置された委員会である。

④ 京都高大連携研究協議会 役員会

7月16日（水）	第1回役員会（書面会議）
3月17日（火）	第2回役員会（書面会議）

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名〈敬称略〉	所属等
小原 克博	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長／同志社大学 学長
前川 明範	京都府教育委員会 教育長
稲田 新吾	京都市教育委員会 教育長
佐々井 宏平	京都府私立中学高等学校連合会 会長／ 京都先端科学大学附属中学校高等学校 校長
村田 勝彦	京都府立高等学校長会 会長／京都府立桃山高等学校 校長
岩佐 峰之	京都市立高等学校長会 会長／京都市立西京高等学校 校長
福家 崇明	京都府私立中学高等学校連合会 副会長／京都産業大学附属中学校・高等学校 校長
荻野 達也	京都商工会議所理事・事務局長
森井 秀樹	京都文教短期大学 学長

⑤ 京都高大連携研究協議会 運営委員会

7月16日（水）	第1回運営委員会
3月17日（火）	第2回運営委員会

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名〈敬称略〉	所属等
福井 英樹	京都府教育庁 指導部 高校教育課 首席総括指導主事
橋詰 忍	京都市教育委員会 指導部 学校指導課 主席指導主事
谷内 秀一	高等学校コンソーシアム京都 事務局長
林 信康	京都府私立中学高等学校連合会 理事／京都女子中学校・高等学校 校長
今井 千和世	京都府私立中学高等学校連合会 理事／平安女学院中学校高等学校 校長
長谷川 豊	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高大連携推進室 室長／ 京都府立大学 公共政策学部 准教授
野村 明宏	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育開発事業部 事業部長／ 大谷大学 教育推進室 副室長
小林 慎一	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事務局長

⑥ 高大連携推進室会議

5月9日（金）	第1回高大連携推進室会議
6月3日（火）	第1回拡大高大連携推進室会議
10月3日（金）	第2回高大連携推進室会議

10月31日（金）	第3回高大連携推進室会議
11月26日（水）	第4回高大連携推進室会議
12月23日（火）	第5回高大連携推進室会議
2月24日（火）	第6回高大連携推進室会議

◆委員一覧【理事会の際は非表示】

委員氏名（敬称略）	所属等
長谷川 豊（室長）	京都府立大学 公共政策学部 准教授
乾 明紀	京都橘大学 経済学部 教授
滋野 哲秀	元龍谷大学 文学部 教授
杉岡 秀紀	福知山公立大学 地域経営学部 准教授
細尾 萌子	立命館大学 文学部 准教授
山本 以和子	京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授

学生支援事業部 事業進捗

■事業進捗■

(1) 京都学生祭典事業

<概要>

京都学生祭典は、「大学のまち京都」を盛り上げるべく 2003 年から開催され、2025 年度で第 23 回を迎えた。学生で組織する京都学生祭典実行委員会は、10 月に主催する祭典当日の企画・運営だけでなく、近年では、1 年間を通して、地域交流を深めるため精力的に活動を行っている。

時代の変化の中には明るい話題だけでなく、将来に不安を感じる人もいるなか、「京都学生祭典だからこそできることは何か」と学生自ら問いに向き合い、学生の力を結集させたお祭りをつくり、京都から日本を盛りあげていくことを目指す。

事務局の一翼を担う当事業部では、祭典に向けての支援に加え、1 年間の活動を学生の成長の機会として捉え、年間を通じた支援体制の整備を行う。

I. 第 23 回京都学生祭典

大学の枠を越えた学生の力を結集させ、「大学のまち・学生のまち」京都の魅力を社会に発信し、京都の地域活性化に貢献するとともに、その活動を通して学生が共に成長していくことを目的に、「京都学生祭典」を京都学生祭典組織委員会の一員として共催した。

《開催日時》2025 年 10 月 12 日（日）11 時 00 分～19 時 00 分

《会 場》平安神宮前・岡崎プロムナード一帯（京都市左京区）

《テ ー マ》袖触れ合うも多生の縁 “Every Encounter is Destiny”

《企画趣旨》第 23 回京都学生祭典本祭では、京都学生祭典が 23 年間の活動の中で出会ってきた来場者や出演者、協賛企業様や関係団体のみなさまとの深いご縁に感謝し、運営側と参加者がさらに力を合わせ、全員で京都学生祭典を作り上げるような、一体感を感じるお祭りとする 것을 目標とする。また、新たな出会いが今後、京都学生祭典が何十回も続くお祭りの糧になるよう、一人ひとりとの出会い、繋がりを大事に活動に取り組んでいく。

《企画内容》ここ数年は新型コロナウイルス感染症によるオンライン開催や雨天による短縮開催であったが、第 22 回は天候に恵まれ、5 年ぶりに全面開催となった。今回は、オープニング企画（パレード、マーチングバンドのによる演奏など）を始め、全国おどりパフォーマンス、京炎 そでふれ！コンテストや Kyoto Student Music Award、食企画、体験企画、Grand Finale、総踊りなどの例年実施している企画に加え、第 20 回以前に実施していた京都アミューズメント企画を復活させる。来場者目標は昨年度を上回る 13 万人とする。（参考：昨年来場者数 121,172 人）

【実施スケジュール（主要事項）】（2025 年 11 月 28 日時点）

1 月 28 日 (火)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会（2025 年第 1 回）
-----------------	----------------------------------

2 月 20 日 (木)	第 23 回京都学生祭典事務局会議 (2025 年第 1 回)
3 月 5 日 (水)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会 (2025 年第 2 回)
3 月 25 日 (火)	第 23 回京都学生祭典組織委員会 (2025 年第 1 回)
4 月 16 日 (水)	第 23 回京都学生祭典事務局会議 (2025 年第 2 回)
5 月 28 日 (水)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会 (2025 年第 3 回)
6 月 11 日 (水)	第 23 回京都学生祭典事務局会議 (2025 年第 3 回)
7 月 11 日 (金)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会 (2025 年第 4 回)
8 月 8 日 (金)	第 23 回京都学生祭典事務局会議 (2025 年第 4 回)
9 月 9 日 (火)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会 (2025 年第 5 回)
9 月 17 日 (水)	第 23 回京都学生祭典組織委員会 (2025 年第 2 回)
10 月 29 日 (水)	第 23 回京都学生祭典事務局会議 (2025 年第 5 回)
11 月 5 日 (水)	第 23 回京都学生祭典企画検討委員会 (2025 年第 6 回)
11 月 25 日 (火)	第 23 回京都学生祭典 臨時事務局会議・企画検討委員会

◆第 23 回京都学生祭典実行委員会研修実施一覧 (2025 年 11 月 28 日時点)

開催日	テーマ	対象	講師/所属	参加者数
11 月 2 日 (土)	祭典を知る研修	第 23 回 全員	同窓会長 川端 悠輔 氏 第 17 回実行委員長 山田聡司氏	8 名
12 月 4 日 (水)	企業に愛される祭典、愛されない祭典 (協賛企業との関わりについて)	第 23 回執 行部・営 業部	保利 雅彦 氏 (一般社団法人京都 経済同友会 事務局 課長/第 22 回 京都学生祭典 事務局構成員)	9 名
12 月 8 日 (日)	目標を考える会	第 23 回 全員	キャリアカウンセラー 中本 雅和 氏	17 名
12 月 8 日 (日)	アイデアが 10 割研修	第 23 回 全員	第 5 回実行委員長 藤田卓也 氏	17 名
1 月 18 日 (土)	ファシリテーション研修モ チベーション UP 研修	第 23 回 全員	同窓会長 川端 悠輔 氏	6 名

1 月 23 日 (木)	京都学生祭典の活動や歴史に関する研修	第 23 回 執行部	企画検討委員長木村 光博 氏	10 名
1 月 25 日 (土)	輪転機の使い方に関する研修	第 23 回 全員	第 23 回実行委員長峯田 真裕	8 名
2 月 8 日 (土)	安寧小学校の使い方研修	第 23 回 執行部	第 22 回おどり手リーダー	3 名
2 月 9 日 (日)	就活ガイダンス	第 23 回 全員	キャリアカウンセラー 中本 雅和 氏	13 名
2 月 9 日 (日)	OBOG 座談会	第 23 回 全員	第 13 回企画運営部長 漆間智彦 氏 第 17 回実行委員長 山田聡司 氏 第 18 回副実行委員長 共田桃菜 氏 同窓会長 川端悠輔氏	13 名
3 月 14 日 (水)	ビジネスマナー研修	第 23 回 執行部	京都経済同友会 保利雅彦 氏	8 名
3 月 27 日 (木)	京炎 そでふれ！を知る研修	全員、ホ ストチー ム	企画検討委員長木村 光博 氏	27 名
4 月 20 日 (日)	平安神宮研修	第 23 回 全員	第 1 部：京都岡崎魅力づくり推進 協議会 藤井容子氏 第 2 部：平安神 宮 権禰宜 神尾和俊氏 権禰宜 大井孝之氏	21 名
5 月 15 日 (木)	広報物制作に関する研修	第 23 回 広報部他	株式会社 ISSO デザイナー/アートディ レクター 森宗 香土巳 氏	20 名
6 月 14 日 (土)	就活報告会/相談会	全員	第 23 回実行委員長 篠原萌花 第 22 回副実行委員長 清水仁之介 第 22 回企画運営部 池本梨乃 第 22 回おどり普及部 須崎葵香 第 22 回年間交流部 原田涼 第 22 回おどり普及部 藤本和奏	23 名
6 月 14 日 (土)	中間振り返り会	全員	キャリアカウンセラー中本雅和 氏	43 名
7 月 12 日 (土)	祭典基礎研修	全員	企画検討委員会 副委員長山口洋典 氏	24 名

7月24日(木)	警備研修(トランシーバー、拡声器の使い方、熱中症患者への対応等)	第23回警備部他	株式会社コトナ辻幸樹氏	5名
9月30日(火)	警備研修(雑踏警備、誘導、合図棒の使用等)	第23回警備部他	株式会社コトナ辻幸樹氏	7名
10月11日(土)	警備研修	第23回警備部他	株式会社コトナ辻幸樹氏	8名
10月18日(土)	事後振り返り会	全員	キャリアカウンセラー中本雅和氏	46名

※引き続き3回生向けの就活選考対策に関するセミナーや個別相談等も実施予定であるが、それらの運営は同窓会およびキャリアカウンセラーの支援を受けて行っていく予定である。

※上記のほか、第22回から第23回への体制移行時と同じく、第24回発足前の準備会段階～第24回発足当初段階での研修として、2025年11月～2026年1月頃に同窓会等の支援を受けた研修を複数実施予定。

◆第23回京都学生祭典実行委員会活動内容一覧(2025年11月28日時点)

開催日	活動内容	担当部	参加者数
12月2日(日)	紫竹ルネサンス	全体	11名
12月20日(金)	12月夜警	全体	5名
1月20日(月)	1月夜警	全体	9名
2月7日(金)	関西財界セミナー賞 2025 授賞式	第22回・23回実行委員長	2名
2月16日(日)	京都マラソンボランティア	全体	17名
2月20日(木)	2月夜警	全体	7名
3月14日(金)	福井県おおい町立名田庄中学校よりインタビュー	実行委員長	1名
3月20日(木)	3月夜警	全体	5名
4月5日(土) 6日(日)	京都さくらよさこいボランティア	全体	7名
4月6日(日)	安寧小学校区 春祭り	全体	5名
4月20日(日)	循環フェスティバルボランティア	全体	4名
4月20日(日)	4月夜警	全体	22名
4月24日(木)	大阪・関西万博交流会	実行委員長・副実行委員長	3名
4月29日(火)	鴨川清掃ボランティア	全体	6名

5 月 10 日 (土)	イオンモール京都桂川プレイベント	全体	45 名
5 月 20 日 (火)	5 月夜警	全体	26 名
5 月 22 日 (木)	第 1 回留学生交流会	全体	7 名
6 月 20 日 (金)	6 月夜警	全体	10 名
6 月 25 日 (水)	京都市表敬訪問	執行部	9 名
6 月 27 日 (金)	韓国・梨花女子大学インタビュー	実行委員長	1 名
7 月 1 日 (火)	京都府表敬訪問	執行部	7 名
7 月 26 日 (土)	岡崎地域夏祭り	全体	15 名
8 月 3 日 (日)	CoCo 白川夏祭りボランティア	全体	14 名
8 月 10 日 (日)	第 2 回留学生交流会	全体	9 名
8 月 20 日 (水)	岡崎夜警	全体	12 名
8 月 24 日 (日)	ローラー・キャラバン	全体	14 名
8 月 28 日 (木)	KYO-SENSE 活動 (打ち水)	全体	13 名
8 月 30 日 (土)	ローラー・キャラバン	全体	10 名
9 月 5 日 (金)	Light Cycles Kyoto おどり披露	全体	21 名
9 月 7 日 (日)	救命講習	全体	16 名
9 月 8 日 (月)	京都府表敬訪問	実行委員長・副実行委員長	4 名
9 月 16 日 (火)	京炎みこし練習会①	全体	-
9 月 20 日 (土)	岡崎夜警	全体	-
9 月 20 日 (土)	ローラー・キャラバン	全体	19 名
9 月 21 日 (日)	京都河原町ガーデンプレイベント	全体	38 名
9 月 23 日 (火)	ローラー・キャラバン	全体	24 名
9 月 23 日 (火)	京炎みこし練習会②	全体	-
9 月 27 日 (土)	京炎みこし練習会③	全体	-
9 月 30 日 (火)	第 3 回留学生交流会	全体	-
10 月 9 日 (木)	京炎みこし練習会④	全体	中止
10 月 11 日 (土)	京炎みこし練習会⑤	全体	中止
10 月 13 日 (月)	岡崎神社 氏子祭りボランティア	全体	3 人
10 月 15 日 (水)	京都市自治記念式典 表彰式登壇	全体	1 人
10 月 15 日 (水)	岡崎神社 氏子祭り祭事	全体	2 人

10月18日(土)	岡崎神社 氏子祭りボランティア	全体	11人
10月19日(日)	岡崎神社 氏子祭りボランティア	全体	2人
10月20日(月)	岡崎地域夜警	全体	14人
11月20日(木)	岡崎地域夜警	全体	20人

◆関西財界セミナー賞 2025 「特別賞」受賞(第22回)

関西財界セミナー賞は、関西全体の競争力強化や地域の活性化に寄与することを目的として2005年に創設され、「関西において、優れた技術やビジネスモデルを持ち、独自性を生かして関西の活性化に貢献している企業・団体・個人など」を表彰している。今年の「関西財界セミナー賞 2025」において、京都学生祭典実行委員会これまでの功績が評価され、同賞の「特別賞」を受賞した。

◆新実行委員説明会

第23回では12月より新実行委員の募集を開始した。実施の可能な各大学で、チラシの配布や新歓ブースを実施した。また、HPやSNSを活用し、説明会についての投稿をしたうえで、7月末まで、主に毎週土曜日にキャンパスプラザ京都にて説明会を行った。

◆留学生交流会

第23回では国際化を推進するため、留学生との交流に積極的に取り組んでいる。交流を図った留学生については本祭当日の京炎みこしの参加者として募る。第1回では身体を動かす種目(「だるまさんが転んだ」や「ケイドロ」)で和気あいあいと楽しく交流を行った。第2回留学生交流会では、京都学生祭典オリジナルの創作おどり「京炎 そでふれ!」の振り落としを行った。また、本祭で披露する京炎みこしの担ぎ手も募集した。第3回では運動会を実施し留学生との交流を図り、本祭当日の参加を促した。

◆第23回実行委員構成人数(11月27日時点) 構成人数 94名(20大学0大学院1短期大学0専修学校(昨年同時期 85名))

① 財団加盟校 計 93名

(単位:名)

加盟校名	本年度	前年度	加盟校名	本年度	前年度
京都大学	2	0	京都芸術大学	0	0
京都教育大学	0	0	京都橘大学	4	1
京都工芸繊維大学	0	2	京都ノートルダム女子大学	5	2
京都市立芸術大学	1	1	京都美術工芸大学	18	7
京都府立大学	1	0	京都文教大学	4	5
京都府立医科大学	0	0	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	0	京都薬科大学	0	1
池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0
大谷大学	2	4	嵯峨美術短期大学	0	0

京都医療科学大学	0	0	種智院大学	0	0
京都外国語大学	0	1	成安造形大学	0	1
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	6	5
京都華頂大学	0	0	同志社女子大学	3	3
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	3	4
京都経済短期大学	2	3	平安女学院大学	0	0
京都光華女子大学	2	2	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学短期大学部	0	0	立命館大学	14	13
京都産業大学	13	11	龍谷大学	1	3
京都女子大学	6	11	龍谷大学短期大学部	0	0
京都精華大学	1	0	大阪医科大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都先端科学大学	5	4	放送大学・京都学習センター	1	1

② 財団非加盟校 0 名(昨年同時期 0 名)

※実行委員数は、①誓約書提出、②会費納入、③会員情報の登録完了をもってカウントする。

③ 各部署人数

(単位：名)

部署名	本年度	昨年度	部署名	本年度	昨年度
四役	4	4	年間交流部	10	12
企画運営部	26	18	営業部	6	8
警備部	9	7	広報部	19	16
おどり普及部	16	15	総務部	4	5

◆第 23 回おどり手構成人数 (11 月 22 日時点)

構成人数 598 名／20 大学 0 大学院 0 短期大学 0 専修学校 (前年同時期：651 名)

① 財団加盟校 594 名

(単位：名)

加盟校名	本年度	昨年度	加盟校名	本年度	昨年度
京都大学	42	25	京都芸術大学	0	0
京都教育大学	0	0	京都橘大学	66	114
京都工芸繊維大学	10	6	京都ノートルダム女子大学	14	15
京都市立芸術大学	0	0	京都美術工芸大学	1	0

京都府立大学	30	25	京都文教大学	7	10
京都府立医科大学	0	1	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	0	京都薬科大学	40	37
池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0
大谷大学	0	4	嵯峨美術大学短期大学部	0	0
京都医療科学大学	0	0	種智院大学	0	0
京都外国語大学	1	1	成安造形大学	0	0
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	74	110
京都華頂大学	0	0	同志社女子大学	31	55
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	2	1
京都経済短期大学	0	0	平安女学院大学	0	0
京都光華女子大学	13	13	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学短期大学部	0	0	立命館大学	128	104
京都産業大学	54	54	龍谷大学	41	48
京都女子大学	40	25	龍谷大学短期大学部	0	0
京都精華大学	0	1	大阪医科薬科大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都先端科学大学	0	1	放送大学・京都学習センター	0	0

- ② 財団非加盟校 4 名（前年同時期：1 名） 石川県立看護大学 1 名、奈良女子大学 2 名、愛知教育大学 1 名 1. 本祭

第 23 回京都学生祭典（本祭）

開催日時 10 月 12 日（日）11：00～19：00

テーマ 袖振れ合うも他生の縁 “Every Encounter is Destiny”

@平安神宮前・岡崎プロムナード一帯

ステージ企画	Opening 企画
	開演！京炎 そでふれ！
	パレード
	全国おどりパフォーマンス
	京炎 そでふれ！コンテスト企画

	総おどり
	ライトアップ企画
	Grand Finale 企画
岡崎プロムナード企画	食フェス、企業ブース Kyoto Student Music Award
ロームスクエア企画	SDGs プロジェクト（京都新聞）、お茶会企画 京都アミューズメント企画（大道芸）
岡崎グラウンド企画	体験企画（年間交流部ブース・京都国際学生 映画祭ブース）
	ハンナリーズコラボ企画（名称仮）
	京都市保育園連盟とのコラボ企画（名称仮）
	京都アミューズメント企画（大道芸・巨大シ ャボン玉）
ワグネル広場	岡崎消防団によるブース
京セラ美術館前でのブース出展	行政ブース

2. プレイベント

第 23 回京都学生祭典ではイオンモールでの対面でのプレイベントを 2 回実施予定。

【イオンモールでのプレイベント】

日時：5 月 10 日（土）10:00～16:00【実施済】

場所：イオンモール京都桂川 竹の広場

企画内容：京炎 そでふれ！ 演舞披露

展示企画（学生祭典紹介ブース）、制作ブース（ペットボトル灯籠の制作、母の日お手紙制作、カードケース制作）、体験ブース（巨大福笑い、巨大ジェンガ）、スタンプラリー

総括：①灯籠制作 233 名参加。本祭当日の装飾として活用。93 個制作。本祭当日使用予定。

②カードケース製作 240 名参加。スタンプラリー用カードの収納ケースを制作。

③巨大ジェンガ 237 名参加。

④巨大福笑い 222 名参加。

家族連れや通行人向け。回転率が高く、他企画の間をつなぐ役割を果たした。

⑤スタンプラリー

本祭当日の集客を狙い、3 つのスタンプで缶バッジを提供。台紙で告知も実施。

⑥母の日お手紙製作

240 名参加。折り紙カーネーション付きメッセージカードを作成。折り紙の色彩不足が課題。

⑦京炎そでふれ！おどり披露 踊りを披露し子どもと参加型に。狭い会場での衝突が改善点。

⑧祭典紹介ブース

新規委員募集の場として設置。イオンモールに来店する層がファミリーであったため、大学生層への周知は進まなかった。

日 時：9 月 21 日（日）12:00～17:00

場 所：京都河原町ガーデン

企画内容：京炎 そでふれ！ 演舞披露、灯籠制作、参加型シールアート、クイズ大会、ミニ神輿

3. 広報関係

(1) 広報方針

- ・第 23 回京都学生祭典の広報方針は、第 22 回の広報戦略を基盤に、全世代のアプローチはもちろん、特に「大学生・大学院生および高校生」「ファミリー層」「外国人留学生および海外観光客」の 3 つの層に着目して、知名度向上に向けた広報を実施していく。

(2) 本機校正を伴う広報物の制作・編集業務の委託契約

- ・広報物の制作は、包括で委託契約を行う。A4 チラシ・A2 ポスター・うちわ（オリジナルグッズ）・B7 冊子・公式パンフレット・報告パンフレットを制作するが、そのすべてをアール工芸印刷社に依頼する。5 月 8 日のキックオフミーティングを皮切りに広報物の製作をスタートさせる。今年度は B7 冊子、公式パンフレットをはじめとした制作物の多くをデザイナーに委託し、実行委員会はデザインを見て趣旨や目的と合うかどうかを判断する形で進めている。例年広報物が来場者目線になっていないことや全体の統一感がないことが問題であったが、デザインを委託することにより解決を図る。A4 チラシと A2 ポスターは 7 月 18 日に、うちわは 7 月 29 日に、B7 冊子は 8 月 29 日に納品済み。公式パンフレットは 9 月 10 日に納品予定。

(3) 新聞広告の掲載

- ・第 23 回でも京都新聞にて全 15 段広告（一面広告）掲載を実施予定。

(4) 交通広告

- ・京都市営地下鉄中づり広告（10 月 6 日～12 日掲載）、デジタルサイネージ広告（京都駅コトチカビジョン・10 月 6 日～12 日掲載）、京都市営バス側面広告（9 月 12 日～10 月 11 日掲載）を実施予定。また、A2 ポスターを地下鉄の各駅に掲示いただくよう調整している。制作は株式会社新通に依頼済み。

(5) SNS 広告

2025 年 9 月 13 日～10 月 12 日午前までの掲載期間で Instagram 広告を配信予定。制作は株式会社アトルクスに依頼済み。

(6) 京都市「市政広報板」への掲載

- ・京都市と調整し京都市市政広報板に広告を 9 月 1 日（月）～9 月 15 日（月）に掲載。また、京都市の市民しんぶん 10 月 1 日号にイベント情報を掲載する。

(7) 他のメディアへの掲載

No	掲載日	掲載メディア	掲載内容
1	1 月 16 日（木）	KYO-DENT	新実行委員募集について

2	1 月 31 日 (金)	京都市 HP	報道発表資料_オール京都の万博イベント「EXPO KYOTO MEETING～和のこころと地球の未来～」の開催 (第 1 報)
3	1 月号	SHAKE ART! 1 月号 vol. 34	京都学生祭典とメインビジュアル募集について
4	2 月 7 日 (金)	関西経済同友会 HP	第 63 回関西財界セミナー開催報告関西財界セミナー賞 2025 受賞者
5	2 月 7 日 (金)	朝日新聞	関西財界セミナー賞 2025 受賞者 (写真あり)
6	2 月 7 日 (金)	神戸新聞 NEXT	関西財界セミナー賞 2025 受賞者 (写真あり)
7	2 月 7 日 (金)	産経ニュース ※Yahoo! ニュース、goo 等、多数	関西財界セミナー賞 2025 受賞者
8	2 月 7 日 (金)	日本経済新聞	関西財界セミナー賞 2025 受賞者
9	2 月 8 日 (土)	京都新聞	関西財界セミナー賞 2025 受賞者 (写真あり)
10	2 月 8 日 (土)	神戸経済ニュース	関西財界セミナー賞 2025 受賞者
11	2 月 22 日 (土)	KYO-DENT	メインビジュアル募集について
12	2 月下旬	コンテスト情報サイト『登竜門』	メインビジュアル募集について
13	3 月 6 日 (木)	コンテスト情報サイト『Koubo』	メインビジュアル募集について
14	3 月 25 日 (火)	コンテスト情報サイト『GENSEKI マガジン』	メインビジュアル募集について
15	3 月 26 日 (水)	京都市 HP	報道発表資料_オール京都の万博イベント「EXPO KYOTO MEETING～和のこころと地球の未来～」の開催 (第 2 報)
16	4 月 1 日 (火) 4 月 7 日 (月)	PR TIMES STRAIGHT PRESS	オール京都の万博イベント「EXPO KYOTO MEETING～和のこころと地球の未来～」の開催 (出演者情報)
17	4 月 23 日 (水)	イオンモール京都桂川 HP	プレイベントの告知
18	8 月 26 日 (火)	京都観光 Navi	本祭開催案内
19	10 月 3 日 (金) 18:40～	KBS 京都ラジオ「ファンファーレと熱狂のラジオな奴ら」	本祭開催案内
20	10 月 1 日号	京都市市民しんぶん	本祭開催案内
21	10 月 4 日 (土)	J:COM 京都みやびじょん「ジモトトピックス」	京都学生祭典について
22	10 月 8 日 (水)	NHK「京いちにち」	京炎 そでふれ! について
23	10 月 8 日 (水)	エフエム京都 (α ステーション) 「ONE FINE DAY」	本祭開催案内

24	10月10日（金）	KBS 京都ラジオ「山田啓二のローカルフィット」	本祭開催案内
25	10月13日（月）	読売新聞朝刊	本祭報告
26	10月14日（火）	京都新聞朝刊	本祭報告
27	10月14日（火）	KBS 京都『門川大作の共汗ラジオ』	本祭報告
28	10月25日（土）	J:COM 京都みやびじょん「ジモトトピックス」	本祭報告

4. 営業関係

(1) 営業方針

- ・年間を通じて必要な活動資金を獲得すること・京都学生祭典が今以上に協賛企業との距離を縮め、より多くの方にご支援いただき、京都学生祭典をより魅力あるものにすることを目指している。

(2) 協賛アプローチ

《スペシャルパートナー》

- ・2022年12月に第20回のスペシャルパートナー企業より第21回から協賛を降りるとの連絡があった。新規でスペシャルパートナー企業を獲得するのは困難なため、昨年度に引き続き、既存の金額アップや少額の新規企業開拓の方向で営業活動を行った。

《KYO-SENSE パートナー》

- ・5月29日（木）に協賛案内実施（株式会社 GS ユアサ）。
→200万円の協賛回答を得た。

《KYO-SENSE 活動》

「KYO」の言葉には、京都の「京（きょう）」と「今日（きょう）」の意味が込められている。さらに、地域の人々と学生との「協（きょう）力」という想いが込められている。「SENSE」には良識、意識、意思など、今日を生きる若者の感性・「SENSE」で、学生が中心となって市民と環境問題に取り組みつつ、京都の伝統的な知恵を学び、活かしていくことを主眼としている。「京都（伝統・歴史）と今日」「京都と世界」「学生と市民・行政・企業」といった螺旋構造が生み出す「KYO-SENSE」を取り入れたライフスタイルを、京都から学生による新しいメッセージとして発信する。第6回京都学生祭典にて「KYO-SENSE プロジェクト」として開始し、昨年は平安神宮での成功祈願と同日に、岡崎地域での清掃活動を実施した。今年度については、打ち水の活動と KYO-SENSE 週間として環境問題を扱った活動（マイボトルやエアコンの設定温度引き上げ啓発等）を行う。

打ち水プロジェクト

【企画趣旨】

近年地球温暖化による猛暑が続く日が多い。そんな中エアコンなどに頼らない自然由来の涼しさを提供する「打ち水」を行い、省エネ活動を奨励する。実施にあたっては KYO-SENSE パートナーである協賛企業様のロゴ入りの腕章を付けて活動を行う。

< 1回目 >

日時：8月28日（木）16:00～17:00

実施場所：東本願寺前お東さん広場

< 2回目 >

日時：9月14日（日）15:00～（14:00～成功祈願）実施場所：平安神宮

《プラチナパートナー・ゴールドパートナー（旧オフィシャルパートナー）》

- ・3月下旬：プラチナパートナー・ゴールドパートナーへアプローチを開始した。
- ・4月末時点で昨年同様、株式会社堀場製作所から 200 万円の協賛回答を得た。
- ・株式会社キャリアパワー・株式会社長栄・京都青果合同株式会社についてはアプローチ済み。
→株式会社長栄、株式会社キャリアパワーについては 100 万円の協賛回答を得た。京都青果合同株式会社は協賛辞退の連絡があった。
- ・株式会社奈良自動車学校・京都信用金庫については 5 月に協賛のアプローチを行った。
→2 社ともに 100 万円の協賛回答を得た。
- ・株式会社インダより、100 万円の協賛回答を得た。

《その他協賛企業》

- ・4月上旬：既存協賛企業と、昨年度、協賛希望の連絡をいただいた新規企業へのアプローチを開始した。
- ・5月中には既存企業へのアプローチを完了させ、京都市内の企業を中心に、新規企業へのアプローチを開始する。
- ・7月末時点では 64 社 12,430,000 円の協賛回答を得た。目標は、74 社 12,380,000 円であることから目標金額に達した。
- ・今年度より株式会社インダが京都経済同友会の代表幹事となったため、協賛依頼にあたっては注意して行う。6月26日（木）に訪問済。

(3) 個人サポーター

- ・第 23 回京都学生祭典では、個人サポーター230 組（400,000 円）の獲得を目標とする。
- ・2025 年 7 月末時点で 6 組 9,800 円獲得（OBOG・関係者より）
- ・2025 年 8 月末時点で 12 組 24,300 円獲得（大学関係者・その他より）
- ・2025 年 10 月末時点で 59 組 217,957 円獲得（本祭来場者等より）
- ・個人サポーターグッズとして今年度はリストバンドを制作し、本祭当日に会場にてお渡しする。
- ・2025 年 11 月末で 71 組 267,957 円獲得し、今年度の個人サポーター募集は終了した。

(4) パートナー交流会

8月6日（水）に京都学生祭典をご支援頂いている協賛企業等のご担当者様（以下、パートナー）をお招きし、協賛企業と学生実行委員の交流の場を設けた。前半は協賛企業から学生に向けて、各社の取り組みを紹介いただき、後半はテーマに沿って座談会を実施した。

(5) 輪になって話そう

11月12日（水）に京都学生祭典にご支援いただいたゴールドパートナー以上の企業様を対象とした交流の場を設ける。内容は、企業様が学生の声を聞くという名目で開催し、企業側が内容を自由に設定できる仕組み。

(6) 成果報告会・感謝会

12月16日（火）に第 23 回京都学生祭典成果報告会・感謝祭を開催予定。場所はキャンパスプラザ京都第 3 講義室、ホールであり、協賛企業様や企画検討委員、事務局構成員等の関係者を招聘する。この回をもって、第 23 回の活動を終え、第 24 回に向けて正式に動き出す。

5. 公募関係

(1) メインビジュアル

第 22 回京都学生祭典のメインビジュアルは 1 月 29 日（水）～4 月 21 日（月）募集受付、エントリーは 23 件であった。

5 月中旬に実行委員会と審査員（芸術系の大学の先生方 3 名）による審査を経て、第 3 回企画検討委員会にて決定した。大賞・佳作作品については以下の通り。

周知にあたっては、加盟校のポータルサイトに加え、関西アートプロデュースグループ「SHAKE ART!」が発刊しているフリーマガジン『SHAKE ART!』、コンテスト情報サイト「登竜門」「GENSEKI マガジン」「Koubo」に募集情報を掲載いただいた。



大賞：黒川 夏音 様 京都女子大学 2 回生

佳作：西村 寿 様 京都市立芸術大学 3 回生

(2) 本祭企画

- ・食企画に関しては 5 月 1 日（木）から募集し、7 団体の出店が確定した。（1 団体、応募後に辞退）また、飲料枠として、京都産業大学の SOIcafe の出店が決定した。地域枠として、岡崎自治連合会の澤邊会長より紹介いただいたオステリア バスティーユ様に出店いただく。
- ・全国おどりパフォーマンスに関しては 4 月 8 日（火）から募集し、7 月 1 日（火）で応募を締め切った。対面 16 団体、動画 3 団体の応募があった。
- ・Kyoto Student Music Award については、4 月 8 日（火）から募集を開始し、7 月 1 日（火）まで募集を行った。締め切り時点では 26 団体の応募があり、審査を経て本祭に進む 8 団体が決定した。
- ・岡崎グラウンド企画は、地域団体・学生団体に依頼し、京都国際学生映画祭（映画祭の紹介）・京都ハンナリーズ・京都市保育連盟・トンガリーズの 4 団体が出展する。また、他にも実行委員会の年間交流部を中心に体験型企画を実施。
- ・京炎 そでふれ！コンテストについては全ホストチームである 10 チームが出演予定。
- ・企業ブースにはゴールドパートナー以上の企業様へお声がけし、株式会社 GS ユアサ・株式会社キャリアパワー・株式会社長栄・株式会社奈良自動車学校に出展いただく。
- ・行政ブースについては、共催団体に声掛けを行った。京都府より 2 ブース（健康福祉部 こども子育て総合支援室、文化施設政策監）、京都市より 5 ブース（消防局消防団・自主防災推進室、文化市民局く

らし安全推進部くらし安全推進課、総合企画局国際都市共創推進室大学政策担当 2 ブース、総合企画局国際都市共創推進室 SDGs 担当) 出展いただく。

- ・京都の文化である茶に触れる機会を創出するため、お茶会企画を実施する。実施形態は野点を想定しており、京都産業大学茶道研究会に協力をいただく。また、茶室の建築を予定しており、京都工芸美術大学の建築学部有志により建てられる。使用する木材は、決定ではないが、京町家の廃材を利用することを検討している。お茶の産地である和束町より、観光 PR (パンフレット配布、茶茶ちゃんオリジナルクリアファイル配布、メモ帳配布)、茶茶ちゃん着ぐるみ出演、呈茶 (煎茶の冷茶を想定) のブース出展をいただいた。
- ・今年度は過去の企画を参考に吹奏楽による演奏を取り入れる。Opening では京都両洋高等学校の吹奏楽部に、Grand Finale では京都聖母学院高等学校バントワリング部による披露と京都橘大学吹奏楽部による演奏を行う。また、同志社大学の団体 (SAP) によるライトアップ企画も実施する。

6. 交通規制・警備関係

(1) 交通規制

川端警察署と連携を取り、準備を進める。2 月 28 日に 1 回目の打ち合わせを実施し、4 月 15 日に 2 回目の打ち合わせを実施した。今年度については南側にステージを設置せず、緊急車両通行用のスペース 3m を確保することで折り合いをつける。今後は、交通規制看板に川端警察署を連名にする手続きを経て、交通規制の手続きを行う。また、京都市営バスと京都バスに交通規制をする旨、連絡を行う。決まり次第、京都府警 HP と京都市交通局 HP にも交通規制情報およびバス迂回情報を掲載いただけるよう依頼を行う。6 月 10 日の打ち合わせでは、南ステージエリアについては概ね了承を得ることができた。看板への連名記載については、京都市とのデザイン調整後警察署にご判断いただき、警察署名の記載の了承を得た。8 月 19 日に川端警察署を訪問し、本祭当日の交通規制について、許可をいただいた。

(2) 警備

交通規制を行うにあたり、警備員を配置する必要があるため、警備会社の選定を行い、株式会社コトナに依頼決定した。同社には、当日警備のほか、警備部を中心に警備研修も実施いただいている。

7. その他

(1) おどり普及部活動内容一覧 (踊り披露・出前教室)

開催日	活動内容	参加実行 委員数	参加者数
12 月 9 日 (土)	異文化コミュニケーション学会	6 名	-
12 月 14 日 (土)	第 8 回「クリスマスステーション in 八瀬 2024」	15 名	-
12 月 19 日 (木)	太秦老人デイサービスセンタークリスマス会	8 名	-
1 月 26 日 (日)	宇多野自治会連合会 新年会での披露	9 名	-
2 月 1 日 (土)	近畿スポーツ推進委員研究協議会	14 名	-

2月1日(土)	第13回岡崎わいわい文化祭	11名	-
2月16日(日)	京都マラソン沿道盛り上げ隊	7名	-
2月16日(日)	KOTO(古都)で一緒に考える!サイバーセキュリティ(防犯啓発イベント)	13名	-
3月19日(水)	京都ハンナリーズ オープニングアクトでの披露	13名	-
3月20日(木)	ねんねんさいさいフェスティバル2025	9名	-
3月20日(木)	桜まつり(向日市商工会)	5名	-
3月30日(日)	京都市知的障害者学習ホーム ひかり学園 出前教室	3名	30名
3月30日(日)	桜まつり(向日市商工会)	5名	-
4月6日(日)	さくらよさこい	6名	-
4月10日(木)	嵐山ライオンズクラブ披露	8名	-
4月19日(土)	京都先端科学大学 国際 day イベント	6名	-
4月23日(水)	EXPO KYOTO MEETING ～和のこころと地球の未来～	32名	-
5月6日(火)	World あぼろん	19名	8名
5月24日(土)	光徳ふれあいまつり	8名	-
5月25日(日)	わくわくすこやかフェス	8名	9名
6月1日(日)	衣笠アートヴィレッジフェスティバル	10名	-
7月6日(日)	Sailing KOBE	10名	49名
8月9日(土)	浴衣 DE ナイト	10名	-
8月30日(土)	洛西納涼祭	7名	-
8月31日(日)	にっぽんど真ん中祭り	15名	5名
9月18日(木)	都ホテルおどり披露	11名	-
9月19日(金)	大阪・関西万博おどり披露	6名	6名
9月27日(土)	こいや祭り	11名	34名
10月25日(土)	やんちゃフェスタ	6名	0名
10月25日(土)	せせらぎシアター	12名	6名
11月1日(土)	日本伝統文化の祭典	4名	-
11月14日(金)	日本核医学会総会	8名	-
11月15日(土)	GRID 京都	9名	-
11月22日(土)	全国ソフトバレーボールフェスティバル	8名	1名
11月23日(日)	亀岡よさこい祭り	9名	3名

(2) 出前教室

NO.	実施日	イベント名	参加人数 (実行委員)	参加人数 (児童・生徒数)
1.	1月24(金)	錦林児童館(振り落とし)	2名	10名
2.	3月30日(日)	京都市知的障害者学習ホーム ひかり学園①	3名	15名

3.	5月14日(水)	大原学院(大原小中学校)①	2名	50名
4.	5月20日(火)	大原学院(大原小中学校)②	4名	50名
5.	5月27日(火)	大原学院(大原小中学校)③	4名	50名
6.	5月30日(金)	大原学院(大原小中学校)④	4名	50名
7.	6月3日(火)	大原学院(大原小中学校)⑤	5名	50名
8.	6月4日(水)	大原学院(大原小中学校)⑥	3名	50名
9.	6月18日(水)	宇治市立三室戸小学校①	5名	120名
10.	6月19日(木)	宇治市立三室戸小学校②	4名	120名
11.	6月22日(日)	京都市知的障害者学習ホーム ひかり学園②	5名	15名
12.	6月24日(火)	宇治市立三室戸小学校③	5名	120名
13.	6月27日(金)	宇治市立三室戸小学校④	5名	120名
14.	8月28日(木)	八条中学校①	4名	300名
15.	9月1日(月)	上高野小学校①	4名	120名
16.	9月2日(火)	上高野小学校②	4名	120名
17.	9月5日(金)	上高野小学校③	4名	120名
18.	9月8日(月)	上高野小学校④	2名	120名
19.	9月9日(火)	上高野小学校⑤	8名	120名
20.	9月11日(木)	八条中学校②	4名	300名
21.	9月12日(金)	上高野小学校⑥	5名	120名
22.	9月16日(火)	葵児童館	1名	4名
23.	9月18日(木)	東陵高校①	3名	30名
24.	9月21日(日)	京都市知的障害者学習ホーム ひかり学園③	2名	15名
25.	9月22日(月)	太秦小学校①	2名	140名
26.	9月25日(木)	東陵高校②	2名	30名
27.	9月30日(火)	八条中学校③	5名	300名
28.	10月3日(金)	太秦小学校②	3名	140名
29.	10月14日(火)	太秦小学校③	2名	140名
30.	11月10日(月)	東陵高校③	3名	20名
31.	11月17日(月)	東陵高校④	1名	20名

※参考：各大学のホストチーム（おどり手）との関係強化として、京炎 そでふれ！スペシャルバージョンの振り落としや各チームの代表・副代表との情報共有（会議）を以下の通り実施した。

NO	実施日	イベント名	参加人数 (実行委員)	参加人数 (ホストチーム)
1	1/15	第1回 FRD 会議	12名	17名
2	2/17	そでフレンズ訪問 花風姿（同志社女子大学）	6名	16名
3	2/24	そでフレンズ訪問 華羅紅（京都光華女子大学）	3名	7名
4	3/1	そでフレンズ訪問 彩京前線（京都大学・京都府立大学）	5名	23名

5	3/13	第 1 回全体練習	9 名	17 名
6	3/18	そでフレンズ訪問 Tacchi (京都橘大学)	5 名	32 名
7	3/19	そでフレンズ訪問 京躍華 (京都薬科大学)	5 名	35 名
8	3/27	第 2 回 FRD 会議	8 名	19 名
9	3/31	新歓披露 (京都光華女子大学)	7 名	13 名
10	4/9	第 2 回全体練習	13 名	16 名
11	4/17	第 3 回全体練習	13 名	14 名
12	5/8	第 4 回全体練	9 名	5 名
13	5/14	第 5 回全体練	8 名	9 名
14	5/16	そでフレンズ訪問 咲産華(京都産業大学)	4 名	55 名
15	5/22	第 3 回 FRD 会議	9 名	18 名
16	5/25	そでフレンズ訪問 おどりつつ (立命館大学)	4 名	43 名
17	5/27	第 6 回全体練	7 名	6 名
18	6/4	そでフレンズ訪問 文舞蘭 (京都文教大学)	3 名	5 名
19	6/7	決起交流会	20 名	136 名
20	6/11	第 7 回全体練	5 名	12 名
21	6/16	そでフレンズ訪問志舞踊 (同志社大学・同志社女子大学・大谷大学)	4 名	40 名
22	6/19	第 8 回全体練	9 名	11 名
23	6/25	第 9 回全体練	7 名	4 名
24.	7/8	第 10 回全体練	7 名	11 名
25.	7/17	第 11 回全体練	7 名	12 名
26.	7/23	第 12 回全体練	6 名	10 名
27.	7/31	第 4 回 FRD 会議	7 名	15 名
28.	8/5	第 13 回全体練	7 名	4 名
29.	8/19	第 14 回全体練	4 名	17 名
30.	8/25	第 15 回全体練	4 名	22 名
31.	9/11	第 16 回全体練	5 名	19 名
32.	9/17	第 17 回全体練	5 名	9 名
33.	10/30	第 18 回全体練	-	-
34.	11/13	第 5 回 FRD 会議	-	-

※その他、2025 年 4 月 23 日の大阪・関西万博の出演に向けたレッスンを 2 月に 2 回 (2/6、2/27) 実施した。

(3) 本祭施工業者選定

本祭施工及び運営支援業務委託に関わる説明会を2025年3月4日（火）に開催した。4月1日（火）見積書提出締め切りで1社より見積書の提出があった。4月16日の第2回事務局会議を経て、臨時で開催した企画検討委員会にて（株）新通に委託することが承認された。今後は5月より打ち合わせを開始。月に1〜2回ほど会議を実施し、施工・進行についての確認と準備を行う。

（4）第24回京都学生祭典実行委員の公募について

第24回の実行委員の募集に関して、従来の学生主導の形から、事務局が主導し募集を広く行った。背景として、企画の形骸化や組織体制の過剰な縦割り等、祭典の創り上げていく上での障害が多くあり、新たな企画案の創出の妨げとなっていることや、実行委員のモチベーションの低下が課題であると認識したためである。この公募方法の導入にあたっては、第23回の実行委員との話し合いを経て、第23回京都学生祭典企画検討委員会等の各種会議にて承認を得た。加盟校からの多様な学生を受け入れるべく、公募の広報にあたっては、学生支援事業部の職員が加盟校の担当者に広報の呼びかけを対面にて実施し、加盟校にも協力を仰いだ。また、実行委員に応募する際は、志望動機等を提出させることとし、入会にあたり自身の目的も明確化した。さらに応募学生と事務局で入会前面談を全員に行い、方向性の統一と実行委員として実現したいこと等をヒアリングした。結果的に26名の実行委員を迎えることとなり、実行委員長には京都大学大学院1年の佐藤駿さんが、副実行委員長には立命館大学2年の大塚遊太さんが就任することとなった。具体的な組織形態等については事務局と実行委員で決定する。

【事業計画の概要および実績】

<概要>

京都国際学生映画祭は、学生の実行委員会が運営する日本最大規模の国際学生映画祭で、2002年（第5回）から財団が単独で主催している。2025年度においても、国内外を問わず実行委員が広く学生作家の映像作品をコンペ形式で募集し、選考した作品を上映する第28回京都国際学生映画祭（京都文化博物館フィルムシアター・2026年2月開催予定）の企画や運営、PRを1年間担っていく。

京都国際学生映画祭は、文化芸術都市であり、「学生のまち」でもある京都で、学生クリエイターの発掘や情報発信、国際交流を深める上で開催する意義は大きい。実行委員の成長を促すための支援を行うとともに、実行委員とのコミュニケーションを図り、当該事業を展開していく。

<実績>

【実施スケジュール（主要事項）】

2025年	
4月12日（土）	第28回京都国際学生映画祭実行委員会発足
4月18日（金）	コンペ作品募集開始および新規実行員募集の案内・広報開始
4月18日（金）10時 ～8月1日（金）10時	第28回京都国際学生映画祭コンペティション作品募集期間
2026年	
1月17日（土）	プレイベント（清水寺にて実施予定）
2月20日（金）～23日 （月・祝）	第28回京都国際学生映画祭 in 京都文化博物館フィルムシアター

◆第28回実行委員構成人数<12月2日時点>

構成人数：33名 大学 33 短期大学 0 交換留学生 0 専修学校 0 （前年度：41名 内非加盟校 7名）

① 加盟校 計 27名

大学・短期大学名	本年度	前年度	大学・短期大学名	本年度	前年度
京都大学	3	5	京都先端科学大学	0	0
京都教育大学	0	0	京都橘大学	0	0
京都工芸繊維大学	0	0	京都ノートルダム女子大学	0	0
京都市立芸術大学	0	0	京都美術工芸大学	0	0
京都府立大学	2	0	京都文教大学	0	0
京都府立医科大学	0	0	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	0	京都薬科大学	0	0
池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0
大谷大学	0	0	嵯峨美術大学短期大学部	0	1

京都医療科学大学	0	0	種智院大学	0	0
京都外国語大学	0	2	成安造形大学	0	0
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	5	4
京都華頂大学	0	0	同志社女子大学	2	3
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	0	1
京都経済短期大学	0	0	平安女学院大学	0	0
京都芸術大学	3	1	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学	0	0	立命館大学	4	4
京都光華女子大学短期大学部	0	0	龍谷大学	0	2
京都産業大学	5	9	龍谷大学短期大学部	0	0
京都女子大学	3	2	大阪医科薬科大学	0	0
京都精華大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	放送大学・京都学習センター	0	0

③ 非加盟校：6名

(大阪大学 1名、大阪公立大学 2名、神戸女学院大学 1名、大阪芸術大学 1名、Concordia University 1名)

【特記事項】

進捗報告（第 28 回）

① 国内部門

・第 28 回京都国際学生映画祭コンペティション作品募集期間終了

(2025 年 4 月 18 日 (金) 10 時 (JST) ～8 月 1 日 (金) 16 時 (JST))

[] はアニメーション作品数

	国内	海外	総数
2025 年度（第 28 回）受付作品数	192	634	826
2024 年度（第 27 回）受付作品数	134 [24]	377 [48] (44 カ国)	511 [72]
2023 年度（第 26 回）受付作品数	134 [29]	300 [26] (37 カ国)	434
2022 年度（第 25 回）受付作品数	160 [22]	221 [55] (29 ケ国)	381
2021 年度（第 24 回）受付作品数	172 [34]	143 [52] (25 ケ国)	315
2020 年度（第 23 回）受付作品数	100 [16]	272 [33] (22 ケ国)	372
2019 年度（第 22 回）受付作品数	101 [12]	176 [45] (29 ケ国)	277
2018 年度（第 21 回）受付作品数	98 [23]	490 [115] (33 ケ国)	588

- ② 企画部門京都市京セラ美術観前で開催された野外上映会（「シネマスクエア」（京都映画賞））で昨年度グランプリ作品『恍惚的眼前』を上映、実行委員が登壇し京都国際学生映画祭を広報
- ③ 国際部門
 - ・第 28 回京都国際学生映画祭翻訳ボランティア募集開始
- ④ 広報部門
 - (1) 渉外
 - 1) 第 28 回京都国際学生映画祭：協賛依頼を開始
 - (2) 広報
 - 1) 第 28 回京都国際学生映画祭コンペ作品および新規実行員募集の案内・広報
 - ・チラシポスターの発送（国内発送 289 件 海外発送 186 件）
 - ・X、Instagram 等 SNS にてコンペティション作品募集、新規実行委員募集の案内。
 - 2) 第 28 回京都国際学生映画祭メインビジュアル募集開始（8 月 1 日（金）～8 月 1 日（日））
 - ・募集結果の発表
 - (3) 制作
 - 1) 第 28 回京都国際学生映画祭コンペ作品および新規実行員募集チラシ、ポスター制作
 - 2) 京都市野外上映時に配布用、映画祭本祭告知チラシ制作
 - 3) 京都学生祭典岡崎グランド企画ブース出展での本祭告知チラシの作成
- ⑤ その他
 - (1) 助成金事案
 - ・令和 7 年度 NISSHA 財団助成金 交付申請書 →採択
 - ・令和 7 年度 芸術文化振興基金助成金 交付申請書 →採択
 - (2) ndjc:若手作家育成プロジェクト 2025（文化庁委託事業）
 - 前年度「実行委員会賞」を受賞した関駿太監督に推薦を打診→辞退

【事業計画の概要および実績】＜概要＞

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）が 2016 年 4 月から施行されたことに伴い、各大学は障がい学生支援業務に携わる担当者の能力向上や大学の枠を超えた情報共有や連携の場が求められることとなった。これらのニーズに対応するため、京都を中心とした関西にある大学の障がい支援業務に携わる担当者による「関西障がい学生支援担当者懇談会」を開催し、今後の対応について意見交換を行う。

また、障がい学生支援に関して高等学校が特別支援学校（以下、「高等学校等」と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑みて、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員との情報交換、交流を目的とした懇親会を実施する。

さらに、障がい学生支援事業企画検討委員会を積極的に活用し、加盟大学のニーズを踏まえた研修会も実施する。

<進捗>

1. 大学における障がい学生支援に関する高校教員との懇談会 日時：

2025 年 7 月 29 日（火）14：00～17：00 会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供 1：「障害者差別解消法と大学における身体障がい学生支援の現状について」

（講師：同志社大学 学生支援センター SDA 室 チーフコーディネーター 土橋 恵美子 氏

②話題提供 2：「大学における精神・発達障がい学生支援の現状とこれから

ー 支援の連続性と 環境づくりを考える」

（講師：京都大学 DRC（学生総合支援機構 障害学生支援部門）コーディネーター 畠田 裕

子 氏）

③グループ別懇談会

参加者：24 名（加盟校 10 名、高等学校教員（特別支援学校含む）他 14 名）

2. 第 1 回障がい学生支援に関するテーマ別研修会

<教務・学生系職員対象>障がいのある学生への対応について 日時：

2025 年 8 月 28 日（木）14：00～16：30 会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供「障がい学生支援ってどうしてる？リアルな取り組みをのぞいてみよう！」

講師：龍谷大学障がい学生支援室長 社会学部教授 樽井 康彦 氏ファシリテーター：

同志社大学 学生支援センター SDA 室 チーフコーディネーター 土橋 恵美子 氏

②グループディスカッション・質疑応答

参加者：34 名（加盟校教職員 20 名、非加盟校教職員 13 名、その他 1 名）

3. 第 35 回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

日時：2025 年 9 月 10 日（水）13：00～17：00 会場：キャンパスプラザ京

都

内容：①話題提供：「京都先端科学大学の障がい学生支援と課題」

講師：京都先端科学大学 学生支援室 障がい学生支援コーディネーター 川端 康宏 氏

②分科会 A：コーディネート基礎編（なんでも懇談） 分科

会 B：コーディネート応用編（2～3 年目以上） 分科会 C：社

会モデルから考える学内マネジメント 分科会 D：精神・発達障

がい学生への支援

分科会 E：障がいのある学生へのキャリア支援 参加者：55 名

（加盟校 29 名、非加盟校 26 名）

2. 第 2 回障がい学生支援に関するテーマ別研修会

＜教務・学生系職員対象＞障がいのある学生への対応について 日時：

2025 年 11 月 26 日（木）14：00～16：30 会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供「読書バリアフリーと障害学生支援

ー ワークショップで考えるアクセシブルな本の未来」

講師：筑波技術大学 共生社会創成学部准教授 青木 千帆子 氏ファシリテーター：

同志社大学 学生支援センター SDA 室 チーフコーディネーター 土橋 恵美子 氏

② 読書バリアフリーワークショップ

参加者：17 名（加盟校教職員 10 名、非加盟校教職員 5 名、その他 2 名）

【実施スケジュール（主要事項）】

5 月 16 日（金）	障がい学生支援事業企画検討委員会（第 1 回）
6 月 26 日（木）	関西障がい学生支援担当者懇談会幹事会（第 1 回）
7 月 29 日（火）	大学における障がい学生支援に関する懇談会
8 月 28 日（木）	障がい学生支援にかかるテーマ別研修
9 月 10 日（水）	第 35 回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）
11 月 4 日（火）	関西障がい学生支援担当者懇談会幹事会（第 2 回）
11 月 26 日（水）	テーマ別研修会
1 月中旬	障がい学生支援事業企画検討委員会（第 2 回）
3 月 5 日（木）	第 36 回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

① 京都学生祭典組織委員会

第 1 回 3 月 25 日（火）

主要議題：第 22 回決算報告、第 23 回事業方針、事業企画、当初予算ほか第

2 回 9 月 17 日（水）

主要議題：第 23 回実施方針、補正予算ほか委員一覧

小原 克博（委員長）	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長
西脇 隆俊	京都府知事
松井 孝治（予定）	京都市長
榊田 隆之（予定）	一般社団法人京都経済同友会 代表幹事
土井 伸宏（予定）	京都商工会議所 副会頭
木村 光博	京都学生祭典企画検討委員会 委員長

② 京都学生祭典企画検討委員会

第 1 回 1 月 28 日（火）

主要議題：委員長・副委員長選出、第 23 回テーマ、各部署実施計画ほか

第 2 回 3 月 5 日（水）

主要議題：第 22 回事業報告、第 23 回当初予算、各部署実施計画ほか

第 3 回 5 月 28 日（水）

第 23 回本祭実施方針、事業進捗報告ほか 第

4 回 7 月 2 日（水）

第 23 回本祭事業進捗報告ほか

第 5 回 9 月 9 日（火）

第 23 回実施方針、補正予算ほか委員一覧

木村 光博（委員長）	株式会社キャリアパワー 代表取締役一般社団法人経済同友会 常任理事
巽 大輔	京都府 総合政策環境部 大学政策課 参事
中村 尚志	京都市 総合企画局国際都市共創推進室 大学政策課長
渡守 紘宜	公益社団法人 京都青年会議所 副理事長
綿貫 裕子	京都商工会議所 会員部 共済・雇用労務支援課 課長
上田 清和	一般社団法人 京都経営者協会 専務理事
西岡 誠司	公益社団法人 京都工業会 理事・事務局長
下間 健之	一般社団法人 京都経済同友会 理事事務局長
中上 博幸	公益社団法人 京都市観光協会 事務局長
山下 泰生	株式会社堀場製作所 コーポレートオフィサー 管理本部長
西村 祐一	京の三条まちづくり協議会 事務局長
松村 宗一	安寧自治連合会 会長
澤邊 吉信	岡崎学区自治連合会 会長
西尾 裕貴	京都大学 学務部 厚生課 課外活動掛 掛員
柴田 祐美	京都教育大学 学生課 学生支援グループ グループリーダー
山野内 貴斎	京都工芸繊維大学 学生支援・社会連携課 学生生活係長
横道 友香子	京都市立芸術大学 教務学生課 学務担当課長
塚本 康浩	京都府立大学 学生部 学長兼学生部長
中尾 智	福知山公立大学 学務課 学生支援係 係長
上野 牧夫	大谷大学 学生部長
山口 佳紀	京都医療科学大学 総務課
石永 法子	京都外国語大学・京都外国語短期大学 学生支援部 次長

二橋 良憲	京都華頂大学・華頂短期大学 学生部 学生課 課長
奥村 紫	京都看護大学 総務部 一般職員
山上 孝治	京都経済短期大学 事務局 学生支援課 課員
薦田 祐子	京都芸術大学 教学支援一課 課長
篠崎 大司	京都産業大学 学生生活支援機構 課長
森岡 大樹	京都女子大学 学生支援課 課長
三浦 茂治	京都精華大学 学生グループ 学生支援チームリーダー
中村 祥子	京都先端科学大学 学生センター学生課 職員
上村 拓也	京都橘大学 学生事務部 課外活動振興課 課員
田中 裕喜	京都ノートルダム女子大学 学生部 学生部長
大坪 正典	京都美術工芸大学 事務局 課長代理
藤元 大介	京都文教大学・京都文教短期大学 学生部 学生課 課員
太田 亮史	京都薬科大学 学生課 主査
大前 智	嵯峨美術大学・嵯峨美術大学短期大学 学生・キャリア支援グループ 事務部長
スダン・シャキヤ	種智院大学 学生部 部長
土井 もゆ	成安造形大学 教学課 課長補佐
中園 拓也	同志社大学 今出川校地学生支援課 係員
林 智之	同志社女子大学 学生支援部 学生支援課 係員
佐藤 誠	花園大学 学務部 学生支援課 係長
田中 康雅	佛教大学 学生支援部 学生支援課 課長補佐
松木 駿也	平安女学院大学 学生部
伊藤 庸古	明治国際医療大学 学生課
山岡 雄一郎	立命館大学 衣笠学生オフィス 事務職員
石原 芳典	龍谷大学・龍谷大学短期大学部 学生部（深草）課長
川端 悠輔	京都学生祭典同窓会 会長
小林 慎一	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事務局長
山口 洋典委員 (副)	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 学生支援事業部 部長

③ 京都学生祭典事務局会議第 6 回

12 月 11 日（水）

主要議題：第 23 回テーマ、当初予算、各部署実施計画ほか第

1 回 2 月 20 日（木）

主要議題：第 22 回事業報告、第 23 回当初予算、各部署実施計画ほか第
2 回 4 月 16 日（水）

主要議題：第 23 回本祭開催方針、企画概要、各部署実施計画ほか第
3 回 6 月 11 日（水）

主要議題：第 23 回企画概要、各部署実施計画ほか第
4 回 8 月 8 日（金）

主要議題：第 23 回企画概要、各部署実施計画、第 24 回幹部候補公募制導入ほか委員一覧

道白 郁子	京都府 総合政策環境部 大学政策課 主事
岡田 満紀子	京都市 総合企画局国際都市共創推進室 大学政策担当 大学連携推進係長
光田 都	京都商工会議所 会員部 共済・雇用労務支援課
保利 雅彦	一般社団法人京都経済同友会 事務局 課長
廣井 徹	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 学生支援事業部 副事務局長・次長

① 京都国際学生映画祭企画検討委員会

第 1 回 6 月 12 日開催

主要議題：企画検討委員長選出、本祭開催日程、会場、募集状況、企画案提出ほか第

2 回 9 月 3 日開催

主要課題：募集結果、審査状況、最終審査員候補報告、プレイベント進捗案提出ほか第

3 回 11 月 6 日開催予定

主要課題：入選作品報告、本祭プログラム枠、プレイベントの進捗、翻訳・広報スケジュールの確
認ほか 第 4 回 12 月頃開催予定

主要課題：受賞作品報告、本祭プログラム・企画ほか 第

5 回 2 月頃開催予定

主要課題：総括、次年度開催方針委員一覧（※はオブザーバー）

由良 泰人（委員長）	大阪電気通信大学 総合情報学部 ゲーム&メディア学科 教授
江村 耕市	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学 学長
西 光一	京都精華大学 芸術学部 造形学科 教授
松本 ヨシユキ	立命館大学 映像学部 映像学科 教授
秦 岳志	京都芸術大学 芸術学部 映画学科 准教授
森脇 清隆	京都府京都文化博物館 映像文化創造支援センター長
小林 慎一	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事務局長
※板倉 一成	京都クロスメディア推進戦略拠点 事務局長
※横地 由起子	株式会社 Brand new day 代表取締役

① 障がい学生支援事業企画検討委員会第 1 回 5 月 16 日（金）

主要議題：委員長選出、2025 年度障がい学生支援事業第

2 回 1 月頃開催予定

主要議題：2026 年度障がい学生支援事業、KSSK 開催、2025 年度事業実施報告委員一覧

山口 洋典	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 学生支援事業部長（立命館大学教授）
太田 容次	京都ノートルダム女子大学 現代人間学部こども教育学科 准教授
樽井 康彦	龍谷大学・龍谷大学短期大学部 障がい学生支援室 室長（社会学部教授）
村田 淳	京都大学 学生総合支援機構（准教授）DRC（障害学生支援部門）・チーフコーディネーター
土橋 恵美子	同志社大学 学生支援センタースチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室 コーディネーター
小材 昭子	立命館大学 学生部 衣笠学生オフィス 課長補佐
小林 慎一	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事務局長

② 関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）幹事会

第 1 回 6 月 26 日(木)開催

主要議題：第 35 回 KSSK の開催について第

2 回 11 月 4 日(火)開催

主要議題：第 36 回 KSSK の開催について委員一覧

土橋 恵美子（座長）	同志社大学 学生支援センタースチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室 コーディネーター
村田 淳（副座長）	京都大学 学生総合支援機構（准教授）DRC（障害学生支援部門）・チーフコーディネーター
松波 めぐみ	大阪公立大学 アクセシビリティセンター 准教授
鈴木 美佳子	大谷大学 学生支援部 学生支援課 障がい学生支援チーム チームリーダー/コーディネーター
望月 直人	大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター部 相談支援部門 准教授
永井 友幸	大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター部 相談支援部門 特任研究員
山口 七重	関西学院大学 学生活動支援機構 総合支援センター 事務課
石原 加奈	関西学院大学 学生活動支援機構 総合支援センター
梅本 直	京都外国語大学 学生支援部健康支援課 障がい学生支援室 コーディネーター

寺尾 藍子	京都精華大学 学生グループ 学生支援チーム 障がい学生支援室
田中 秀明	京都精華大学 学生グループ 学生支援チーム 障がい学生支援室
樫村 健一	京都女子大学 学生相談・障がい学生支援センター 主任
楠 敬太	佛教大学 学生支援センター 講師
西浦 由季子	佛教大学 学生支援部 学生支援課
鶴野 恵子	桃山学院大学 学生支援課 キャンパスソーシャルワークセンター

以上

(1) 事業の概況

【事業計画の概要および実績】

① 留学生誘致・支援事業

2015年度から、大学コンソーシアム京都が事務局となり、加盟大学、日本語学校・専修学校等の教育機関、企業、関係業界団体、関係公的機関など産官学のオール京都による留学生誘致・支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」を設立し、留学生の受入体制の強化、留学生と留学生同士・日本人学生等との交流促進を図ってきた。「留学先としての京都」の認知度・ブランド力の更なる向上に向け、観光と連携した「学びのまち」の情報発信など、より効率的・効果的な留学生誘致プロモーション活動等に取り組んでいくこととしている。

また、京都で学ぶ留学生に対する交流・日本語学習・就職等の支援として、留学生と地域活動団体等との交流や留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrowAcademy（京トゥモローアカデミー）」をプラットフォームとした日本語学習支援（スタディグループ等）や他の団体との連携による就職支援、日本人学生と留学生の交流などに取り組むとともに、留学生対象のインターンシッププログラムを実施している。

② 学生の海外留学・交流促進事業

IELTS、TOEFLをはじめとする語学習得支援や「英語で京都をプレゼンテーション」研修を実施し、加盟校学生の海外留学促進やグローバル意識の向上等を目指し、取組を進めている。

また、教職員の英語力向上や国際実務に役立てるよう、教職員対象スキルアップ研修や、英語講座等を実施するとともに、加盟校における教職員の研修方法や留学生対応、海外大学との交流実績等の共有など、タイムリーかつニーズの高いテーマによる事例共有等を実施している。

(2) 留学生誘致・支援事業（留学生スタディ京都ネットワーク事業）

【事業計画の概要および実績】

＜留学生スタディ京都ネットワーク＞

2015年度から京都地域における留学生（外国人研究者を含む。以下同じ）の誘致、受入体制の整備や、留学生の知識・経験を地域の国際化や活性化に活かすための仕組みづくりをオール京都で推進し、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力向上を図るため、加盟大学、日本語学校・専修学校等の教育機関、企業、関係業界団体、関係公的機関等による「留学生スタディ京都ネットワーク」を運営し、事業を実施している。

2026年3月末時点で94団体・機関に参画いただいている。

【取組の概要】

1 「留学先・学びのまち」としての認知度の向上（情報発信）

- 京都留学総合ポータルサイトの運営
- 留学生PRチームの運営
- 海外教育旅行向け支援メニューの提供
- 「留学先としての京都」のブランド力測定手法等の検討

2 各大学・日本語学校の誘致活動等の支援

- 国内外での京都進学説明会等の開催
- 京都留学ガイド「STUDY KYOTO」の活用
- 会員向けセミナー・交流会の開催

3 留学生受入環境の整備

- 留学生向けインターンシップの実施【有給・無給ハイブリッド型として実施】
- 留学生向け就職支援事業の連携促進
- 留学生支援・交流コミュニティの運営

1 「留学先・学びのまち」としての認知度の向上（情報発信）

(1) 京都留学総合ポータルサイト「STUDYKYOTO」の運営

8言語（英・簡・繁・韓・タイ・ベトナム・インドネシア・日）により、京都の学校情報、生活情報、就職情報等、京都留学に関する情報を留学検討層と在京留学生向けに発信するものである。

引き続き、在校生インタビューや留学生・OBOGインタビュー、Magazine記事の追加等コンテンツの充実を図る。

アクセス数（2026年3月末時点）：185,813セッション
（2024年度年間 163,873セッション）

(2) 留学生PRチームの運営

京都で学ぶ現役留学生によるPRチームが、各国における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報の現地向け発信をソーシャルメディア等により行うもの。

7か国（地域）〔中国、韓国、台湾、タイ、インドネシア、ベトナム、欧米・英語圏〕、9名体制でFacebook、Instagram、YouTubeを運営するとともに、中国版SNSのWeiboとWeChat、動画投稿サイトBilibiliなども活用し、順調にファン数を伸ばしている。

[Study Kyoto Facebook] 英語（20,740 ファン）、Thailand（6,497）、京都留學情報（3,458 ファン）			
[Study Kyoto Weibo]	1,330 フォロワー	[Study Kyoto WeChat]	2,478 フォロワー
[Study Kyoto YouTube]	1,400 フォロワー	[Study Kyoto Bilibili]	248 フォロワー
[Study Kyoto Instagram]	6,071 フォロワー	※2026.3 末現在	

(3) 教育旅行支援

日本を修学旅行（教育旅行）先として訪れる海外の高校生・大学生ツアーグループ、教職員グループに対し、京都留学情報の提供や京都の大学・日本語学校・専修学校等を交えた説明会、京都の大学等からの模擬講義、学生交流等のコンテンツをコーディネートする教育旅行支援を実施するもの。

2025 年 4 月にはタイの教職員団体の訪問を受け、京都留学についての魅力を説明。また、9 月にはマレーシアの専門学校から学校訪問の依頼を受け、視察を支援するなど、海外からの訪問依頼等が増加している。

(4) 「留学先としての京都」のブランド力測定手法等の検討

留学生にとっての京都留学の魅力やプロモーション活動の成果等について継続的に測定するため、2023 年度に第 3 回目の「留学生満足度調査」を実施したもの。20 サンプル以上の回答数をいただいた学校への個別フィードバックを行うとともに、2024 年 5 月に開催した留学生スタディ京都ネットワーク総会において実施結果を報告した。

<主な集計結果>

(ア) 京都についてのイメージ

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
項目	文化的なまち	古都	観光のまち	大学・学生のまち	安全なまち

(イ) 京都での留学生生活の全体的な満足度（無回答除く％）

項目	とても満足	満足	ふつう	あまり満足していない	ぜんぜん満足していない
今回	30.6	46.1	19.3	3.0	0.9
前回	26.9	46.2	23.7	2.6	0.6

(ウ) 友達への京都留学推薦度（無回答除く％）

項目	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
今回	32.8	43.0	20.4	2.1	1.8
前回	28.3	43.0	21.9	5.4	1.4

(エ) 日本留学で参考になった情報や出来事

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
項目	Web, 雑誌, 本等	SNS	友だちや留学生	留学エージェント等	留学フェア

(オ) 将来、京都で仕事をしたいか（無回答除く％）

項目	はい	いいえ	まだ決めていない
％	43.3	12.9	43.7

(カ) 京都で仕事を見つけた後、将来どうしたいか（無回答除く％）

項目	京都でずっと仕事がしたい	将来は自国に帰って仕事がしたい	まだ決めていない	その他
％	31.2	48.4	50.5	4.2

(キ) 留学を続ける上で困っていること（複数回答％）

項目	進路（進学・就職）	学費	学習	話し相手がいない	ない	その他
％	49.5	31.6	28.3	12.6	22.1	3.1

2 各大学・日本語学校の誘致活動等の支援

(1) 京都留学説明会等

NW加盟校の留学生誘致活動等の支援として、海外で京都に特化した京都留学説明会を開催し、京都の留学先としての知名度向上を目指すとともに、留学生の誘致促進を図るもの。

2020 年度から 22 年度はオンラインフェアの取組が中心だったが、2023 年度以降、現地フェアの参画を本格的に再開。

国・地域	2025 年度
韓国	8 月 23 日：釜山、24 日：ソウル[主催：日本学生支援機構（JASSO）] 2025 年度日本留学フェア（韓国）
タイ	9 月 6 日：チェンマイ、7 日：バンコク[主催：日本学生支援機構（JASSO）] 2025 年度日本留学フェア（タイ）
台湾	9 月 20 日 21 日：台北[主催：日本学生支援機構（JASSO）] 2025 年度日本留学フェア（台湾）
ベトナム	9 月 4 日 5 日：ハノイ[主催：日本学生支援機構（JASSO）] 2025 年度日本留学フェア（ベトナム）
インドネシア	11 月 22 日：スラバヤ、23 日：ジャカルタ[主催：日本学生支援機構（JASSO）] 2025 年度日本留学フェア（インドネシア）
香港	2 月 28 日：香港[主催：日本留学支援協会] 2025 年度日本留学文化展（香港） → 開催中止
ベトナム	3 月 7 日 8 日：ホーチミン[主催：ホーチミン市人民委員会] ジャパンベトナムフェスティバル

(2) 首都圏をはじめとした日本語学校への京都留学説明会等

国内における留学生誘致をより戦略的に進めていくため、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生や教職員を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした「京都の大学等進学説明会」や「京都の大学と日本語学校の教職員交流会」などを実施するもの。

5 月 14 日	留学生対象 日本留学フェアへの出展（横浜） 主催：ライセンスアカデミー 会場：日石横浜ホール
5 月 15 日	日本語学校教職員対象 進学説明会への出展（大阪） 主催：アクセスネクステージ 会場：アクセス梅田フォーラム
5 月 28 日	留学生対象 国内留学フェアへの出展（神戸） 主催：さんぼう 会場：神戸サンボーホール
6 月 4 日	留学生対象 国内留学フェアへの出展（川越） 主催：ライセンスアカデミー 会場：ウェスタ川越

6 月 26 日	日本語学校教職員対象 京都進学説明会の主催（東京） 主催：留学生スタディ京都ネットワーク 委託事業者：ライセンスアカデミー 会場：ワイム貸会議室 高田馬場 参加校：大学・専修学校側 23 校 日本語学校側：24 校
----------	---

(3) 留学生スタディ京都ネットワーク会員向けセミナー

先進事例等の把握や会員間の交流促進のため、有識者等を招いたセミナー・交流会等を実施。

7 月 23 日	外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会（オンライン） 講師：大阪出入国在留管理局 京都出張所 明石みや子所長 参加者：87 名
----------	--

3 留学生の受入環境整備・コンテンツの強化

(1) 留学生向けインターンシップ

京都地域の大学等で学ぶ留学生に、京都地域の企業の事業内容を理解する機会を提供するとともに、留学生と企業との相互理解を深め、卒業後の京都における採用促進や就職後の定着を図るため、有給及び無給によるインターンシッププログラムを提供するもの。

2025/2～	企業・留学生募集開始
5/21, 23, 24	ガイダンス実施【対面】 参加留学生数：対面参加 27 名
6/14	留学生・企業交流会【対面】 参加：留学生 32 名、企業 15 社 ※正式エントリー（留学生 29 名、企業 19 社）
7/12	マッチング決定（留学生 28 名、企業 15 社）
8/6	事前研修【対面】 （実習初日の 1 週間前にオンライン個別面談）
8/上旬～9/下旬	実習実施（14 社 26 名） ※インターンシップ 9 社 19 名 仕事体験 5 社 7 名
終了後随時	事後研修【オンライン面談】 （実習終了から 1～2 週間後を目途に実施）

(2) オープン・カンパニー（タイプ 1）

京都企業について学ぶ機会の少ない留学生に訪問の機会を提供することにより、京都企業の理解と留学生の京都での就職・定着の促進を図るものとして、「企業訪問プログラム Company Visit」を実施してきた。この度、インターンシップ制度改正に伴い、オープン・カンパニー（タイプ 1）として実施していくものである。

8 月 20 日	日本通運株式会社（参加留学生数：6 名）
12 月 2 日	株式会社丸正高木商店（参加留学生数：5 名）

(3) 就業支援事業連携促進

京都で学ぶ留学生がスムーズに就職活動を行えるよう、就業支援事業を行う団体が連携を図り事業を実施しており、その一環として、京都の大学等の就職支援担当者を対象に、留学生向け就業支援事業の紹介を行う「留学生対象就業支援事業説明会」を開催。

4 月 18 日	大学・学校向け留学生対象就業支援事業説明会（対面） ・大阪出入国在留管理局から「留学生の就職に関する留意事項」、ジェトロ京都から「留学生の就業支援と外国人起業家への支援」についてご紹介 ・留学生対象就業支援事業を行っている 7 団体から今年度の事業計画を説明 ・出席者による意見交換・情報交換 ・参加実績 18 校 26 名
----------	--

(4) 京都府や京都市の就職支援の取組との連携

京都府や京都市で実施している就職支援や日本語教育等の取組について、共催・後援や周知広報などの形で連携を図っている。

	内容等
6 月～	◆京都府・京都市主催事業（大学コンソーシアム京都：共催） 京都発！留学生ビジネス日本語実践プログラム ・はたらくための日本語（中級） 6 月クラス（6/10～7/4 までの毎週火・木・金（全 12 回）） ・はたらくための日本語（中級） 8 月クラス（8/22～9/18 までの毎週火・木・金（全 12 回）） ・はたらくための日本語（上級） 11 月クラス（11/11～12/5 までの毎週火・木・金（全 12 回）） ・就活のための日本語Ⅰ（7/26、8/2、8/9（全 3 回）） ・就活のための日本語Ⅱ（11/1、11/8、11/15（全 3 回）） ・就活のための日本語Ⅲ（2/28、3/7、3/14（全 3 回）） ・留学生と京都の企業とをつなぐ交流会（7/1、12/5、2/4）
8 月～	◆京都市主催事業（大学コンソーシアム京都：後援） ・留学生採用を知るセミナー 8/20 基礎編「留学生採用の現状と効果」 10/21 実践編「入管制度から見る留学生採用」 1/15 応用編「留学生が活躍できる職場づくり」

(5) 留学生の交流・連携促進

学生生活・就職活動の体験や情報を共有する仲間を増やすための留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrow Academy(京トゥモローアカデミー)」を活かした、学生生活や就職活動等における留学生同士、留学生と日本人学生、留学生と地域等との交流を促進。また、日本人学生サポーターを中心に留学生向けに日本語を使ったアクティビティを実施。

4月12日	(24名参加) 八十八か所登山と御室桜
5月10日	(31名参加) 春のウェルカムセッション
5月31日	(16名参加) 田植え体験
5月31日	(8名参加) 能楽体験
6月7日	(11名参加) 就職フェアに一緒に行こう
6月28日	(20名参加) 怪談
7月12日	(33名参加) 豆腐と七味作り体験
8月8日	(12名参加) 書道体験
8月20日	(21名参加) 推しうちわ作成
9月11日	(22名参加) 日本のむかしの遊び
9月27日	(28名参加) 植物園に行こう
10月4日	(31名参加) パンフェスティバルに行こう
10月11日	(5名参加) 就職フェアに一緒に行こう
10月18日	(33名参加) 秋のウェルカムセッション
11月1日	(23名参加) キャンドルつくりとカードゲーム
11月15日	(33名参加) 藍染体験
12月13日	(21名参加) 抹茶づくり体験と平等院参拝
12月27日	(27名参加) 忘年会
1月17日	(54名参加) 和菓子作り体験
2月18日	(20名参加) 漢字ミュージアム
3月27日	(13名参加) 部活体験

(6) 京都プレミアム体験・交流事業

留学生満足度調査において、「日本の伝統文化が残っていること」が京都を留学先として選んだ主な理由とする留学生が多い。一方、「課外活動（学外での学び）」や「学校外での交流（とりわけ、日本人学生との交流）」の満足度については、相対的に低水準にとどまっている。

そこで、オール京都によるネットワークが有する多様なつながりを活用し、「文化の都・京都」で学ぶ魅力をより深く留学生に実感してもらえるよう、京都ならではの多様で奥深い魅力を学ぶ体験の場を創出するとともに、日本人学生を交えた事業内容とすることで、「留学生と日本人学生の交流の場」としても展開していくこととした。

7月20日	交流・体験イベント（1回目） 内容：友禅染体験+祇園祭【後祭】「南観音山曳き初め」体験 参加者： （1）日本人学生 合計7名 （2）外国人留学生 合計11名
11月8日	交流・体験イベント（2回目） 内容：東映太秦映画村&天龍寺特別拝観

	参加者： (1) 日本人学生 合計 9 名 (2) 外国人留学生 合計 24 名
12 月 20 日	交流・体験イベント (3 回目) 内容：扇子絵付け体験 & 芸舞妓と京抹茶体験 参加者： (1) 日本人学生 合計 8 名 (2) 外国人留学生 合計 11 名
2 月 21 日	交流・体験イベント (4 回目) 内容：雅楽体験 参加者： (1) 日本人学生 合計 7 名 (2) 外国人留学生 合計 14 名
3 月 14 日	交流イベント 参加者： (1) 日本人学生 合計 7 名 (2) 外国人留学生 合計 5 名

(3) 学生の海外留学・交流促進事業

【事業計画の概要および実績】

(1) オーストラリア（メルボルン）語学研修プログラム留学 ※単位互換〔龍谷大学国際学部主催〕

加盟校学生に様々なレベルでの留学機会を提供できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアビクトリア州メルボルンでの留学派遣プログラムを実施してきたもの。2023年度以降の実施を見送っている。

- 2009年10月1日に大学コンソーシアム京都とビクトリア州大学連携組織の間で留学機会に関する一般協定を締結、上記協定に基づき、龍谷大学からの単位互換事業としてメルボルン語学研修プログラムがスタート。
- 同協定については3年ごとの自動更新となっており、現在の協定の有効期間は2021年10月1日から2024年9月30日となっている。
- その後、現地関係者からの情報収集を継続しているが、現時点では具体的なプログラムの構築が困難であることから、協定については失効としたうえで、今後の在り方を検討する。

(2) 英語で京都をプレゼンテーション

海外留学を目指す学生や英語で日本・京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、日本文化や京都の奥深い魅力を英語で知り理解する機会を提供し、京都や日本の魅力について英語でプレゼンテーションできる能力の向上を図る研修事業を実施。

5 月 24 日	① 開講、IceBreak・日本文化概論
5 月 31 日	② 能体験〔金剛能楽堂〕

6月7日	③ 伝統文化・茶道体験
6月14日	④ 留学生セッション
6月21日	⑤ 伝統文化・華道体験
6月28日	⑥ プレゼン現行の添削相談 ※予約制
7月5日	⑦ 英語プレゼンテーション

応募総数：20名、参加者数：14名（うち3名がプレゼン不参加）

(3) 英語試験対策講座

日本人学生の海外留学促進に向けた IELTS や TOEFL など英語試験対策講座を実施。

5月17日	(学生・教職員対象) TOEFL iBT テストスキルアップセミナー	48名受講
9月20日	(学生・教職員対象) IELTS テストスキルアップセミナー①	23名受講
10月25日	(学生・教職員対象) IELTS テストスキルアップセミナー②	21名受講
1月17日	(学生・教職員対象) TOEIC テストスキルアップセミナー	39名受講

(4) 安近短（安心・安価、近場、短期）な語学留学プログラムの開発

加盟校学生に様々なレベルでの留学機会を提供するとともに、中長期にわたる本格的な海外留学につながるきっかけづくりを促進するため、留学初心者でも参加しやすい安近短な留学プログラムの開発を進め、2024年度から実際の学生を募集して留学・研修プログラムとして実施した。

2025年度についてもマレーシア科学大学との連携によるプログラムを調整し、参加学生を募集したものの、申込人数が最少催行人数に満たなかったため、催行を見送ることとした。

【マレーシア・ペナン異文化理解研修】

日程：2026年3月4日（水）～3月12日（木）8泊9日

費用：30万円から34万円（燃油サーチャージ除く）

特徴：マレーシア科学大学での英語の講義受講、現地学生との交流会及び体験学習

日系企業訪問、工場見学、現地従業員とのワークショップ

世界遺産探訪、多文化・他民族・多言語の社会を体験可能なプログラム

締切：2025年10月31日（金）

最少催行人数：8人

(5) 教職員スキルアップ研修

高等教育の国際化が加速するなか、大学教員・職員の英語運用能力に加え、多様な文化的背景を持つ留学生と円滑な意思疎通を図るための、語学を超えた習慣や社会通念、宗教等への理解も欠かせないものとなっていることから、実務能力の底上げとスキルアップに対する意欲向上を図るため、様々な場面を想定したケーススタディができる英語運用能力向上研修や英語圏以外の文化を学ぶ研修を実施。

	日時	研修内容
第1回 【語学】	7月26日(土) 9:30 - 15:30	大学で役立つ英会話トレーニング（初級） 講師：オーウェン・マーク・コズロウスキ氏

第2回 【語学】	8月2日(土) 9:30 - 12:30	すぐに使える E-mail&ウェブ会議表現 (初級) 講師: オーウェン・マーク・コズロウスキ氏
第3回 【語学】	8月9日(土) 9:30 - 16:30	実践ディスカッション講座 (中～上級) 講師: グレン・グレガス 氏
第4回 【文化】	9月6日(土) 13:30 - 12:30	中国の価値観を学び留学生対応に活かす文化理解研修 講師: 毛 興華 氏
第5回 【文化】	9月13日(土) 9:30 - 12:30	タイやベトナムのアジア仏教国の留学生対応に活かす文化理解研修 講師: 京谷美穂 氏/トラン・トゥイ・フォン 氏
第6回 【文化】	10月4日(土) 9:30 - 12:30	台湾や韓国の東アジア地域の留学生対応に活かす文化理解研修 講師: 許 敏慧 氏
第7回 【文化】	10月11日(土) 9:30 - 12:30	ネパールやスリランカの南西アジア地域の留学生対応に活かす文化理解研修 講師: デーヴァンシュ・バジュラチャリヤ 氏

(6) 加盟校の国際化に向けた取組事例共有セミナー

「～よろず相談からキャリア支援まで～ 大阪大学の留学生を支える多角的な取組事例」

日時: 2025年10月14日(火) 15:30～17:00

場所: キャンパスプラザ京都 4階第4講義室

講師: 大阪大学 国際機構 国際教育交流センター(CIEE) 准教授 姚 馨 様

内容: 留学生向けの各種相談対応体制

国際理解促進(学生間交流支援&地域との連携)

留学生のキャリア教育・支援

国際事業部 各種委員会の開催状況について

(1) 国際連携事業

① 国際連携事業運営委員会

2025年12月12日 第一回会議

2026年 3月13日 第二回会議

(2) 留学生スタディ京都ネットワーク事業生スタディ京都ネットワーク事業

① 留学生スタディ京都ネットワーク運営委員会

2026年1月13日 第一回会議

2026年3月25日 第二回会議

② 留学生誘致プロモーションワーキンググループ

2025 年 12 月 17 日 第一回会議 ②③の合同ワーキングとして

2026 年 2 月 26 日 第二回会議 ②③の合同ワーキングとして

③ 留学生満足度向上ワーキンググループ

2025 年 12 月 17 日 第一回会議 ②③の合同ワーキングとして

2026 年 2 月 26 日 第二回会議 ②③の合同ワーキングとして

(1) 調査企画事業

【事業計画の概要および実績】

第6ステージ（2024-2028年）の2年目にあたる2025年度は、初年度に生じた各事業の課題を検証しつつ、引き続きプランに掲げた重要指標（KGI）の達成を目指した取組を推進する。

共同研究調査事業においては、複数加盟校の教職員や産官学連携による共同研究、指定する課題も大学コンソーシアム京都の事業以外でも可とするなど事業展開を複線化し、京都地域の発展に資する調査研究への拡充を目指していく。

広報事業においては、これまで以上に大学間連携組織のハブとして産官学民をむすび、新たな価値を生み出していくために、大学コンソーシアム京都のプレゼンス向上を図るとともに、各事業の意義や目指す方向性のステークホルダーへの浸透を図っていく。また、京都学生広報部においては、全国に影響力のある京都にある団体・企業等とのコラボレーションを推進し、発信力の強化に努めるとともに、これらの団体・企業等と広報部員が協働して広報課題の解決に取り組む機会を設け、学生の成長を促していく。

都市政策事業、地域連携事業については、学生・地域・行政・産業界をつなぐ「コーディネーター」としての機能を強化するとともに、行政や産業界との連携をより一層強め、京都地域の活性化を目指していく。

1 共同研究調査事業について

第6ステージでは、「指定調査課題調査」として第5ステージまで取り組んできた従前の共通指標及び指定調査課題のスキームを見直し、「財団事業の課題解決に資する調査研究」(①)及び「財団の今後の方向性または中長期計画の評価に資する調査研究」(②)の2つのスキームを柱とする「共同研究調査事業」として展開する。

(1) 2025年度の共同研究調査について

- (A) 2025年度に調査研究を開始するスキーム①及びスキーム②について進捗状況の確認
- (B) 2026年度に調査研究を開始するスキーム①についての検討
- (C) 2026年度以降の課題の検討

(2) 研究者、研究費等について

研究者は調査事業企画検討委員会において選定し、1件あたり年間150万円を上限とする。また、研究期間については各調査研究につき1～2年とする。

(3) スケジュールについて

2025年9月	第1回調査事業企画検討委員会
2025年12月	第2回調査事業企画検討委員会
2026年3月	第3回調査事業企画検討委員会
2026年4月	研究開始

(4) 調査研究テーマについて

スキーム①（財団事業等の課題解決に資する調査研究）

- ・高等教育における障害学生支援の包括的実態調査と「学びのユニバーサルデザイン」構築に向けたコンソーシアム型支援モデルの提案

研究代表者：同志社大学 ダイバーシティ研究センター長（文化情報学部 教授）

阪田真己子（さかた まみこ）氏

スキーム②（財団各事業及び財団中期計画の評価に資する調査研究）

- ・「第6ステージプラン」の評価手法と各種事業の方向性に関する政策提言

研究代表者：京都産業大学 学長室 IR推進室 専任専門員 白藤 康成（しらふじ やすなり）氏

なお、研究委託期間はスキーム①、②とも2025年4月1日～2027年3月31日の2年間。

ただし、白藤氏は2026年度より近畿大学へ移籍予定のため、京都産業大学との契約期間は2026年3月31日に変更し、以降の期間は別途近畿大学と契約を締結する。

2 中期計画の策定と運用

(1) 第6ステージプラン（計画期間：2024-2028年度）

財団では、5年ごとに財団の目指すべき方向性や事業のあり方についてまとめた「ステージプラン」を策定し、事業運営の指針としている。「第5ステージプラン（2019-2023年度）」の4年目となる2022年度に、大学政策委員会、同幹事会、次期中期計画策定検討プロジェクトチーム会議を開催し、第5ステージプランの事業検証及び第6ステージに向けた検討課題を洗い出すとともに、「第6ステージプラン（2024-2028年度）」（仮称）のコンセプトを固めた。

2023年度は、大学政策委員会、同幹事会、次期中期計画策定検討プロジェクトチーム会議を開催し、「第6ステージプラン（2024-2028年度）」を策定した。

2024年度からは、「第6ステージプラン（2024-2028年度）」の目標である「大学間連携・地域振興の核となるプラットフォームの実現」に向けて、多様な取組みを実施している。

第6ステージプランの概要

計画期間	2024-2028年度（5年間）
目 標	大学間連携・地域振興の核となるプラットフォームの実現
方 針	京都だからこそできる取組の追求 大学間連携のさらなる深化+進化

領域及び 主な事業	【FieldⅠ 大学間連携】 単位互換事業、産学連携教育事業（旧インターンシップ事業）、高大連携事業、生涯学習（京カレッジ）事業、FD・SD事業、障がい学生支援事業 【FieldⅡ 産官学民連携】 リカレント教育事業、アントレプレナーシップ事業、地域連携・地域活性化事業 【FieldⅢ 学生支援】 学生組織支援事業、留学生誘致・支援事業、海外留学・交流促進事業 【戦略企画】 共同研究調査事業、広報戦略事業 【クロスファンクショナルチーム】 協働教育支援事業、パイロット事業
--------------	--

(2) アントレプレナーシップ事業について

第6ステージプランの新規事業である本事業については、2025年度中の本格的なプログラム展開を見据え、2024年度末にアントレプレナーシップの醸成と多文化共生の理解に焦点を置いたトライアルプログラム（参加学生6名、3/24～27）を実施した。本プログラムでは、アントレプレナーシップに関しては、様々なバックグラウンドをもつ参加者同士がプログラムの中で価値観をぶつけ合い、そこから生まれる新たな気づきや自己発見の機会となる内容とし、プログラムへ参加した学生が、加盟校や外部組織等で行われている各種アントレプレナーシッププログラムへの参加意識を狙った。

また、多文化共生に関しては、日本語を母語としないホストファミリー先に滞在し、普段の生活と異なる環境に身を置きながら、様々な体験をすることで体感的な理解を促す。加えて、参加学生2名が1チームとなり、協力しながら慣れないホストファミリー宅で生活することをとおして、チームワーク力やコミュニケーション能力の向上を図った。なお、計画当初は現地実習終了後、参加者による振り返り会を実施する予定であったが、参加者アンケートを詳細に行うこと、また現地実習先にてヒアリングを行うことにより代替した。

ア. プログラム名称：「SPARK in Okinawa」

※SPARK：Startup Program for Accelerating Regional Knowledge

イ. プログラムスケジュール：事前学習（3/19）、現地実習（3/24～3/27）

ウ. 事業予算額：約220万円（うち、財団負担額約190万円）

エ. 参加者数：6名（京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都薬科大学、福知山公立大学、立命館大学、龍谷大学）

(3) 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」について

京都市の大学政策の指針となる、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」を京都市と財団が協働し策定している。2017年度から、大学のまち京都・学生のまち京都推進会議（通称：推進会議）において、2019年度から2023年度までの推進計画の具体的な検討を行い、2019年3月に策定した（その後、計画期間を2025年度までに延長）。当財団の次期中期計画とも密接に連携しながら取組を推進している。なお、2024年度は開催を見送った。

3 京都B&Sプログラム

京都観光推進協議会（事務局：京都市観光 MICE 推進室）、JTB 京都支店との協働事業で、2014 年度から実施。京都に来る修学旅行生（中高生）を対象に、学生ボランティア（有償）がガイド役となって京都を案内する。その過程で、市内の大学構内へ立ち寄り、将来の進学意欲の喚起や大学生との触れ合いを通じ「大学のまち京都」の魅力を発信する。学生ボランティアの確保に課題があり、財団のインカレ団体や広報媒体を通じた、情報発信などにより、登録者の確保に協力している。

【受入実績】

2016 年度：23 校（3,064 名）
2017 年度：30 校（3,399 名）
2018 年度：29 校（3,848 名）
2019 年度：21 校（2,166 名）
2020 年度：1 校（51 名）
2021 年度：7 校（843 名）※オンライン実施を含む
2022 年度：17 校（2,197 名）
2023 年度：19 校（2,528 名）
2024 年度：4 校（472 名）
2025 年度：6 校（596 名）

（2）広報事業

【事業計画の概要及び実績】

第 6 ステージでは、大学コンソーシアム京都のプレゼンス向上はもとより、各事業の意義や目指す方向性を確実にステークホルダーに浸透させることにより、大学コンソーシアム京都が強力なマグネットとして機能し、学生をはじめとする多くの関係者が京都地域に集い、さらなる大学間連携の深化+進化及び地域振興に寄与することを目指します。京都学生広報部では、全国に影響のある京都にある団体・企業等とのコラボレーションを推進し、発信力の強化に努めます。

1 財団ウェブサイト・SNS の運用

財団ウェブサイトのアクセス実績の解析・状況分析を実施し、アクセス数の増加、情報発信力の強化を図った。SNS については facebook と X（旧 Twitter）を運用。

2 会報等の発行

(1) 財団 Information（財団紹介パンフレット）

毎年 6 月に更新。

2025 年度は、これまで通り事業部毎のレイアウト作成、冊子本体と中刷りの軽微な修正を更新。

（今後、第 6 ステージプランに伴う組織変更があれば、レイアウト変更の予定。）

2025 年 7 月発行済。

(2) 会報誌

年 1 回発行

2024 年度は通常版は発行せず、大学コンソーシアム京都設立 30 周年記念号を 11 月 27 日（水）

に発行した。12月7日（土）に開催した記念式典にて出席者配布。

3 京都学生広報部

「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を京都の大学生たちが全国の中高生に発信することを目指して2015年9月に創部。同年10月に専用ウェブサイト「コトカレ」を開設した。

京都市及び運営支援を委託するクリエイター育成協会、株式会社タグラインと協働で学生部員への支援を行っている。具体的には将来大学生となる中高生にとって魅力あるコンテンツを制作することで中高生の読者の増加を目指し、また、中高生との交流事業等に取り組んでいる。幅広い広報展開によってステークホルダーや京都地域全体のPRにつなげる。

(1) 概要

ア 開設年度：2015年9月 ※京都市との協働事業

イ 部員数：58名（12大学：2026年3月10日時点）

大学・短期大学名	部員数	大学・短期大学名	部員数	大学・短期大学名	部員数
京都大学	6	大谷大学	1	京都府立大学	3
京都橘大学	6	同志社大学	11	京都薬科大学	2
京都産業大学	6	立命館大学	4	龍谷大学	11
京都女子大学	5	佛教大学	1	平安女学院大学	1
京都工芸繊維大学	1				

ウ 公開記事数及びページビュー数（閲覧数）

2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
105件	66件	131件	165件	133件	161件	106件	55件	84件	54件	54件
75,210	159,969	423,579	678,031	660,468	619,236	647,315	687,548	558,359	486,357	379,170

※2026年3月10日時点

エ 月間ページビュー数（閲覧数） ※2026年3月22日時点

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017	16,696	18,224	22,178	17,490	13,658	53,725	35,403	55,754	47,776	39,014	43,177	60,484
2018	66,110	56,409	45,710	43,608	48,846	69,302	53,783	84,633	44,971	42,332	51,277	65,080
2019	47,510	52,300	48,498	48,059	45,628	50,955	47,228	73,084	43,663	55,911	62,493	85,139
2020	53,884	52,477	44,239	40,479	51,268	47,639	44,291	40,946	40,594	48,898	52,475	102,046
2021	118,150	52,017	45,373	44,542	37,016	46,494	43,666	40,246	39,468	46,234	51,240	82,869
2022	92,460	49,712	52,268	50,568	47,489	51,845	52,179	48,116	47,769	54,848	61,172	79,122
2023	84,021	49,848	48,906	52,139	51,582	42,673	40,857	35,869	29,675	34,236	37,429	51,126
2024	54,515	32,096	33,501	36,412	39,639	41,045	40,919	37,536	35,641	39,465	40,745	54,843
2025	56,704	32,960	32,421	33,236	31,329	28,819	28,590	26,636	26,958	31,781	28,484	21,252

(2) 主な事業

ア 研修事業

広報部員のスキルアップを目的とした研修を実施。

- 2025 年 5 月 29 日 『美味しいを切り取る技術』スマホカメラ撮影教室を実施。
- 2025 年 7 月 16 日 『好きを言語化する技術』三宅香帆氏による文章講座を実施
- 2025 年 8 月 6 日 『ゼロから始める撮影機材の使い方』CanonR6 によるカメラ教室を実施
- 2026 年 2 月 19 日 『京都新聞社記者によるインタビュー研修』を実施
- 2026 年 2 月 12 日 『取材で使う人物撮影』CanonR6 によるカメラ教室を実施

イ 中高生・企業等との協働事業

- 2025 年 4 月 24 日 嵐電と協働し、貸切り体験型新歓イベントを実施。
- 2025 年 8 月開始 『これからの 1000 年を紡ぐ企業認定』認定企業 10 社を取材
現在 9 社取材済、順次公開予定。
- 2026 年 3 月 18 日 『旅するコトカレ』石川県金沢泉丘高校に訪問
高校生インタビューを実施し、記事公開予定。

ウ 部員募集

- 2025 年 4 月 10 日 キャンパスプラザ京都にて新歓を開催、3 名が参加。
- 2025 年 4 月 19 日 学生 Place にて学生祭典と合同新歓を開催、10 名が参加。
- 2025 年 4 月 24 日 嵐電貸切り体験型新歓イベントを開催、13 名が参加。
- 2025 年 5 月 24 日 学生 Place にて新歓を開催、3 名が参加。

エ その他活動等

- 2025 年 4 月 25 日 特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」を取材。
- 2025 年 6 月 6 日 稲垣 敢太郎さんとの講演及びトークセッションを実施
- 2025 年 6 月 14 日 関西フィルハーモニー管弦楽団合同取材会に参加
- 2025 年 7 月 30 日 学生向け予約専門朝食店『いとおかし』を取材
- 2025 年 7 月 31 日 大阪・関西万博にて京都名店会の取材を実施
- 2025 年 8 月 7 日 ハリス理化学研究所にて榊太一さんインタビューを実施
- 2025 年 8 月 14 日 ニシザワステイ（1000 年認定企業）を取材
- 2025 年 8 月 19 日 福寿園社長福井様へのインタビューを実施
- 2025 年 9 月 4 日 社会福祉法人京都福祉サービス協会（1000 年認定企業）を取材
- 2025 年 9 月以降 light-cycles-Kyoto と共同プロジェクト実施予定
- 2025 年 10 月 14 日 大学生バンド kohamo LIVE インタビュー実施
- 2025 年 10 月 30 日 NAKED 二条城-観月 取材実施
- 2025 年 11 月 15 日 中村ローソク（1000 年認定企業）を取材
- 2025 年 11 月 28 日 ロマンライフ河内社長へのインタビューを実施
- 2025 年 12 月 17 日 画箋堂（1000 年認定企業）を取材
- 2025 年 12 月 18 日 アワード（卒業式）及び懇親会を実施
- 2026 年 1 月 16 日 松井酒造（1000 年認定企業）を取材
- 2026 年 1 月 17 日 千昇堂（1000 年認定企業）を取材
- 2026 年 1 月 20 日 佐々木酒造を取材
- 2026 年 2 月 3 日 Phiten（1000 年認定企業）を取材
- 2026 年 2 月 21 日 京都市交通局とコラボ
- 2026 年 2 月 5 日 岡文織物岡本社長へのインタビューを実施
- 2026 年 2 月 26 日 京都ハンナリーズ社長へのインタビューを実施
- 2026 年 3 月 3 日 なんかしたい（1000 年認定企業）を取材
- 2026 年 3 月 5 日 京都市キャンパス文化パートナーズ制度施設 ddd ギャラリー取材
- 2026 年 3 月 11 日 FM87.0 RADIO MIX KYOTO 出演

(3) 公募型プロポーザル「京都学生広報部による「大学のまち京都」プロモーション事業に関する業務委託」を実施

ア 趣旨・目的

京都学生広報部が発足してから 10 年が経過し、記事のテーマの固定化をはじめ、記事掲載数の減少、それに伴うウェブサイト閲覧数の減少など、発信力が低下傾向にあることが課題となっている。これらの課題を解決するため、価格面、企画力・運営力等を総合的に審査する公募型プロポーザルにより契約の相手方を選定する。

イ スケジュール

令和 8 年 2 月 12 日 (木)	プロポーザル公表
2 月 20 日 (金)	質問締切 (午後 4 時まで)
2 月 26 日 (木)	質問への回答完了
3 月 4 日 (水)	資料提出締切 (正午必着)
3 月 12 日 (木)	プレゼンテーションによる審査
3 月 17 日 (火)	受託候補者決定
3 月末頃	契約締結・業務開始

4 「大学のまち京都 学生のまち京都」公式アプリ「KYO-DENT」の開発

京都市との協働事業。京都でしか味わえない学生生活を実現するための様々な取組や、学生向けの各種情報を学生に直接かつ確実に届けるとともに、学生のニーズなどを把握し、学生を対象とする取組の改善や新たな事業創設の基盤につなげるためのアプリを 2020 年 3 月から配信開始。

(1) 趣旨・目的

- ① 京都でしか味わえない学生生活の実現
- ② 京都の魅力を感じた学生の就職を含めた地域への定着
- ③ 京都での学生生活のブランド化による新たな学生の獲得

(2) 主な機能

- ① お得情報
学割等の学生向けサービスを展開している店舗や施設の情報をマップ上やカテゴリ別に配信。
- ② イベントカレンダー
京都ならではの学生向けイベント情報をカレンダー形式で配信。
- ③ ニュース
京都市、大学コンソーシアム京都などから、学びの充実につながる学生向けニュースを配信。
- ④ ポイント
記事の閲覧などのアプリの利用で、電子マネー(計 120 種類以上)に交換できるポイントを発行。
- ⑤ 京めばえ機能
アプリの利用に応じてポイントを獲得できる機能。

(3) 推進体制

京都市と財団が事務局を務め、京都経営者協会、(公財) 京都高度技術研究所、京都学生広報部、京都学生祭典実行委員会で構成される「京都ならではの学び・魅力向上」協議会が事業の企画・運営、予算管理等を行う。なお、アプリの機能やデザイン等は、同協議会の下に設置した学生プロジェ

クトチームにおいて検討された。

2025 年 6 月 26 日 2025 年度第 1 回協議会

(4) 広報活動

加盟校メール「【学生対象】京都の大学生のためのアプリ「KYO-DENT」のご案内（周知依頼）」

～4 月 30 日 Instagram 広告配信

4 月上旬 加盟校・京都市関連施設・キャンパス文化パートナーズ制度の対象施設へチラシ・ポスター送付

4 月中旬 加盟校メール「【学生対象】京都の大学生のためのアプリ「KYO-DENT」のご案内」

9 月 19 日～ 定期券販売所で A5 サイズチラシ配布

9 月 20 日～10 月 19 日 Instagram 広告配信

3 月 10 日～地下鉄中吊り広告開始（～3/31 まで）

3 月中旬 加盟校新入生向けにチラシ・ポスター送付

3 月 12 日～4 月中旬 Instagram 広告配信（12 月にプロポーザル（書面審査））

アプリリニューアルに合わせて、ポスター・チラシもデザイン変更

(5) その他の活動

4 月 15 日～5 月 14 日 アプリ内【アプリ利用実態調査】アンケート実施

7 月 24 日 アプリリニューアル プロポーザル実施

9 月 2 日 インターン実習生の取材（二条城・伝統産業ミュージアム）

3 月 12 日～アプリリニューアル配信開始

(6) ダウンロード数の推移（2020.3.26～）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019												367	367
2020	349	576	489	435	831	1,103	1,386	1,331	679	504	826	1,351	9,860
2021	2,255	489	1,157	781	655	407	1,113	1,083	608	464	662	1,502	11,176
2022	2,775	1,667	1,034	606	600	835	951	951	477	486	605	869	11,856
2023	2,040	1,587	1,031	728	615	840	767	869	533	521	583	817	10,931
2024	2,414	1,262	919	576	608	916	912	707	587	568	495	836	10,803
2025	2,620	1,407	976	738	560	763	880	749	525	536	732	505	10,991

累計ダウンロード数：65,984 件（2026 年 3 月 22 日時点）

（3）都市政策研究推進事業

【事業計画の概要および実績】

1 京都から発信する政策研究交流大会

加盟校の学生が、日頃の研究や学習成果の発表の場として互いに交流を深め、都市政策に活かすことを目的に 2005 年度から開催。

大会は、加盟校の政策系学部の教員で構成する「都市政策研究推進委員会」が中心となり、企画・審査を実施。

(1) 第 21 回大会について

ア 日時 2025 年 12 月 14 日（日）10 時～17 時

イ 会場 龍谷大学 深草キャンパス 和顔館

ウ 応募実績

	エントリー	応募者	発表組数
組数	102	89	77

エ 研究奨励賞受賞者一覧（2025 年度参考）

賞名	部門	発表題目	区分	発表者名	所属大学名
大学コンソーシアム京都 理事長賞	口頭・論文	オープンデータを活用した橋梁リスクスコアによる維持管理支援と防災的活用の可能性-福知山市橋梁データを用いたケーススタディー	個人	高田愛華	福知山公立大学
日本公共政策学会賞	論文	「京都アイディアベーカーリー」の提案-市民交流による集合知の醸成-	団体	風間ゼミナールアイディアベーカーリー班	同志社大学
優秀賞	口頭発表	法教育促進のための効果的な学習支援方法の検討 - 高等学校教育を起点として -	団体	京都府立大学公共政策学部 2 回生佐藤ゼミ	京都府立大学
		伝統祭礼の存続が移住定住に与える影響について-地域の交流を生み出す伝統祭礼に着目して-	団体	岩松ゼミ かきたま汁チーム	京都府立大学
		京都市内中心部における交通渋滞の解消-シナリオ分析に基づいたロードプライシングとパークアンドライドの効果測定を通して-	団体	同志社大学 安達研究室 A	同志社大学
		京都市の仮設住宅供給課題と広域避難支援の提案	団体	龍谷大学政策学部石原ゼミナール 9 期生	龍谷大学
		家庭の防災意識向上を目指した子どもへの防災教育の実践的研究	団体	福知山公立大学地域経営学部谷口ゼミちよこつと防災プロジェクト	福知山公立大学
		会議の外形的デザインによる市民参加の促進-民間施設開催の効果の検証-	団体	同志社大学政策学部野田ゼミ A 班	同志社大学
		子ども医療助成制度と社会増減-京都市を対象としたパネルデータ分析-	団体	観光オフサイド	龍谷大学
		サウンドスケープを用いた繁華街での客引きの浄化-木屋町通における共鳴アプローチの可能性-	団体	同志社大学野田ゼミ B 班	同志社大学
		空き店舗を活かした商店街創生プロジェクト-地域コミュニティと経済的自立の両立に向けて-	団体	立命☆加藤ゼミ☆	立命館大学
		安心安全に関する啓発チラシのあり方-警察からの効果的な情報発信-	団体	阿部ゼミ A チーム	京都先端科学大学

(2) 実施スケジュール

(2025 年)

5 月 16 日 第 1 回都市政策研究推進委員会

6 月 20 日 応募者向け説明会（説明動画の公開）

6月27日	エントリー開始
8月1日	エントリー締切
9月12日	第2回都市政策研究推進委員会
10月21日	論文提出締切
11月7日	発表者資格審査会
11月18日	発表者向け説明会（説明動画の公開）
12月5日	第3回都市政策研究推進委員会
12月14日	第21回京都から発信する政策研究交流大会
(2026年)	
2月20日	第4回都市政策研究推進委員会
3月18日	政策提言懇談会（研究奨励賞受賞者による発表、行政機関との意見交換）

(3) ＜参加型＞学まちコラボ事業取組内容報告会

発表終了後から受賞者発表までの時間を利用し、＜参加型＞学まちコラボ事業交流会企画を実施した。認定団体のうち3団体から活動内容の発表を行ってもらい、その後、参加者からの質問の時間を設け、双方向の交流を行った。

発表団体は、以下の通りである。

＜発表1＞ 団体名 : Smile↑↑↑【龍谷大学】

＜発表2＞ 団体名 : 京北宇津宝さがし会【京都精華大学、京都外国語大学】

＜発表3＞ 団体名 : サガビカンデ23【嵯峨美術大学】

(4) 大学別発表件数

大学名	第15回 (2019)		第16回 (2020)	第17回 (2021)	第18回 (2022)	第19回 (2023)	第20回 (2024)	第21回 (2025)
	口頭	パネル	口頭	口頭	口頭	口頭	口頭	口頭
京都大学	(1)	0	0	0	0	0	0	0
京都府立大学	8(1)	1	2	4	4	6	5	6
福知山公立大学	2	5	10	6	7	9	4	7
大谷大学	0	0	0	0	0	4	6	5
京都先端科学大学	0	0	0	4	2	5	5	4
京都産業大学	13	3	15	19	14	19	15	10
京都女子大学	0	0	1	1	1	0	0	0
京都橘大学	3	0	1	4	2	5	6	4
京都文教大学	1	0	1	2	1	0	0	0
同志社大学	12	2	12	11	13	15	12	15
佛教大学	9	3	3	4	3	5	5	4
立命館大学	8	2	1	0	1	1	7	6
龍谷大学	11	0	10	17	15	10	14	16
計	68(2)	16	56	72	63	79	79	77

※（ ）内は大学院生の数

(5) 来場者数の推移

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
238	149	632	420	524	545	410	317	362
第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回

377	451	423	352	392	507	433	607	446
第19回	第20回	第21回						
463	486	556						

※発表者、一般聴講者（職員、審査員、学生アルバイトは除く。）の合計

（４）地域連携事業

【事業計画の概要および実績】

京都のまちの発展、活性化を目指し、加盟校が有する知と人材、学生の活力を生かした地域との連携事業を京都市と連携して実施している。

１ 学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業

大学の求める人材育成に資する実践的教育・研究機会の確保と地域ニーズに基づき、大学の知や学生の活力を生かした地域課題の解決や地域活性化を目的とし、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付し、学生の学びと成長を支援している。

2021年度以降、2017年度から設けていた「文化枠」の募集は行わず、「一般枠」のみの募集としている。2022年度は13事業への補助を行った。

2023年度は、2024年度募集パンフレットについて、京都市立芸大の学生にデザインを委託し、一新した。

2025年度より、学まちコラボの名称を変更。

「学まちコラボ事業（大学地域連携創造・支援事業）」

↓

「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業」

また、今年度より従来枠の「スタンダード枠」とは別に、これから地域活動を始める学生団体を主な対象とする新たな募集枠である「トライアル枠」を創設。

6月3日より募集開始。

（１）令和7（2025）年度の（スタンダード枠）スケジュール

4月1日～5月31日	募集期間
6月12日	一次（書類）審査（対面開催）
6月29日	二次（プレゼンテーション）審査
7月26日	認定式・交流会、取組スタート
11月25日	第4回企画・選考委員会
3月20日	成果報告会

（２）令和7（2025）年度の応募実績・審査結果

○申請件数：30事業（昨年度は15事業）

- ・新規：20事業（昨年度は8事業）
- ・継続：10事業（昨年度は7事業）

○6月12日開催の一次審査会結果：

採択24事業、不採択6事業（※一次審査通過後1団体辞退）

- ・新規：13 事業
- ・継続：10 事業

○6 月 29 日開催の二次審査結果：

採択 13 事業、不採択 10 事業

- ・新規：9 事業
- ・継続：4 事業

認定式・交流会：7/26 実施

(3) 【令和 7（2025）年度の（トライアル枠）スケジュール】

6 月 3 日～10 月 31 日 募集期間

※随時受付。予算額に達し次第終了。

11 月 16 日 採択団体と地域団体との交流会

3 月上旬 決算報告書、事業報告書提出

3 月 13 日 トライアル枠 成果報告会・交流会

(4) 令和 7（2025）年度のトライアル枠応募実績・審査結果 ※10 月 31 日募集終了

○申請件数：7 月 2 件、9 月 5 件、10 月 7 件【うち 4 件は、予算上限後に申請のため認定に至らず】

○採択件数：10 事業

2 大学×地域連携ポータルサイト「がくまちステーション GAKUMACHI STATION」

財団ではこれまで、大学・学生・地域と連携した活動を支援し、学生の学びと成長、地域の活性化を図ることを目的に、サークルや学生グループによるまちづくり活動を支援する「学まちコラボ事業」や、大学を挙げた地域連携の取組を支援する「学まち連携大学」促進事業の実施のほか、都市にかかわる課題について学生が調査・研究した成果を政策提案する「京都から発信する政策研究交流大会」の開催、加盟校における地域連携の取組紹介ページ「まちづくり事例集」の作成など、多様な地域連携事業に取り組んできた。2019 年 4 月には、こうした地域連携にかかわる幅広い情報やノウハウを網羅したポータルサイトとして「がくまちステーション」を開設（まちづくり事例集は本サイトに再編）し、大学・学生と地域との連携活動の活性化を図るべく運用している。

(1) 掲載内容

ア 学まちコラボ事業

2018 年度の活動実績を中心に 2017 年度以前の報告集を掲載。

2019 年度から SDGs アイコンによる検索機能を追加。

イ 「学まち連携大学」促進事業（2023 年度で事業終了）

- ・2016～2019 年度の採択校の取組を紹介。（大谷大学、京都教育大学、京都女子大学、京都橘大学、同志社女子大学、龍谷大学）
- ・2020 年度からの採択校の取組を紹介。（京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部、花園大学、京都橘大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部）
- ・採択校による事例紹介などによる、大学・地域連携シンポジウムの紹介。

ウ 京都から発信する政策研究交流大会

優秀賞受賞者の発表論文及び発表データ、推進委員（教員）へのインタビュー記事を掲載。

エ 加盟校における地域連携活動の取組

上記ア～ウの取組以外の加盟校独自の大学・学生・地域連携の活動を紹介。

(2) スペシャルコンテンツ

地域連携活動やまちづくりの分野などのトップランナーのインタビュー記事などを随時更新。

(3) 検索機能

京都府下の市町村、大学名、取組分野のキーワードで取組が検索可能。

2019年度からSDGsアイコンによる検索機能を追加。

各種委員会等の開催について

(1) 調査企画事業

① 調査事業企画検討委員会

9月9日 第1回委員会

12月25日 第2回委員会

3月24日 第3回委員会

② 「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」

開催時期未定 第1回会議

(2) 都市政策研究推進事業

① 都市政策研究推進委員会

5月16日 第1回委員会

9月12日 第2回委員会

11月7日 発表者資格審査会

12月5日 第3回委員会

12月14日 第21回京都から発信する政策研究交流大会

2月20日 第4回委員会

(3) 地域連携事業

① 学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業企画・選考委員会

4月17日 第1回企画・選考委員会（トライアル枠についての臨時委員会）

6月12日 2025年度採択事業一次審査（対面）

6 月 29 日	2025 年度採択事業二次審査
7 月 26 日	認定式・交流会
11 月 25 日	企画・選考委員会
3 月 20 日	成果報告会

(4) 広報事業

- ① 「京都ならではの学び・魅力向上」協議会
6 月 25 日 2025 年度第 1 回協議会

総務部 事業進捗

(1) 総務業務（法人運営・庶務）

【事業計画の概要および実績】

<概要>

◆法人運営

(1) 機関会議

法人の意思決定を行うため、評議員会、理事会、運営委員会を開催する。また、会員団体への事業報告等の場として会員総会を開催する。（日程、主な議題等については「各種委員会等の開催について」参照）

(2) 大学のまち・京都 サマーミーティング

大学コンソーシアム京都の事業推進や京都市の大学政策の参考とすること、京都の大学と京都市の一層の連携を図ることを目的とし、理事会、評議員会、運営委員会を構成する加盟校（計22校）の学長と京都市長との懇談会開催を8月23日に開催した。

<テーマ>

「これからの大学間連携の在り方」

～大学進学者数減少時代における大学コンソーシアム京都が担う役割・機能～

8月23日（土） サマーミーティング 開催形態：対面
10:00～13:00

(2) 財務・経理業務

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本業務は、財団の予算執行管理及び財産の運用などを担当する。安定的に事業を運営するため、事業の選択と集中を推進し、経費節減、特定財産の計画的な活用等、効率的な財政運営を図る。

<実績>

5月29日（木）	2024年度決算監査
6月21日（土）	2024年度事業報告・決算承認
6月27日（金）	2024年度事業報告・決算書を内閣府に提出
9月19日（金）	予算説明会
11月12日（水）	2026年度事業計画・予算基本方針承認 当初予算作成依頼
1月24日（土）	2025年度補正予算承認
3月7日（土）	2026年度事業計画書・当初予算承認

(3) 研修業務

【事業計画の概要および実績】

<概要>

財団職員の能力向上のために研修企画を策定し、実施する。本年度は総務部が主体となり、以下の日程で研修を実施する。また、次期ステージプラン策定に向けて、高等教育行政などに理解を深める研修を実施するなど、研修メニューの充実を図る。

<実績>

4月 1日 (火)	新入職員オリエンテーション
5月21日 (水)	ハラスメント防止規程に基づく業務の説明会 (ハラスメント相談員、及び役職者対象)
8月27日 (水)	SP0D (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) フォーラム
～8月29日 (金)	2025 (徳島大学 常三島キャンパス) 1名参加
9月6日 (土)	大学行政管理学会・研究集会
～9月7日 (日)	(追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス) 参加なし
9月17日 (水)	ハラスメント研修
10月15日 (水)	救命実技訓練
10月20日 (月)	総合消防訓練 (通報、初期消火、避難誘導) 参加者：大学コンソーシアム京都職員、委託業者、テナント等 スタッフ 計52名
11月19日 (水)	A I 実践研修
3月18日 (水)	出向満了者等業務成果報告会

(4) 全国大学コンソーシアム協議会事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本事業では、全国の大学コンソーシアム組織(大学連合体・大学連携組織)からなる協議会組織「全国大学コンソーシアム協議会」の事務局として、運営委員会・総会の開催、協議会予算の執行管理等を行う。情報交換・交流の場として「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」を開催する。

○第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

日 時：2025年8月30日 (土)・31日 (日)

会 場：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス

テーマ：(全体テーマ)

激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

<実績>

4月22日 (火)	2024年度 監査報告 (監事)
5月22日 (木)	第1回運営委員会 (主要議題：第22回フォーラム共催団体および開催地について)
6月14日 (土)	第1回幹事会 (主要議題：決算) ※書面会議
8月30日 (土)	協議会総会 (主要議題：決算・予算等)
8月31日 (日)	第2回運営委員会 (主要議題：第22回フォーラムについて)

- 1月27日（火） 第3回運営委員会（主要議題：第23回、第24回フォーラムについて）
 2月 5日（木） 第2回幹事会（主要議題：代表幹事の選任）※書面会議

（５）勤労学生援助会・表彰奨学金事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本事業では、「勤労学生援助会」の事務局として、理事会等の開催・予算の執行管理等を行う。「勤労学生援助会」では、人物・学業とも他の学生の模範となる学生で、学費や生活費をアルバイト及び奨学金等に頼り、家庭からの援助が皆無に近い学生や、京都地域の社会活動で著しく貢献した学生を表彰し、奨学金を給付する。

<実績>

- 7月18日（金） 通常総会・理事会
 8月28日（木） 表彰学生推薦依頼（受付期間9月2日～11月21日）
 2月 6日（金） 表彰学生選考委員会
 3月13日（金） 勤労学生表彰・奨学金贈呈式

（６）施設管理事業（指定管理）

【事業計画の概要および実績】

<概要>

施設管理事業は、京都市から指定管理者として2023年度から2026年度までの4年間の再指定を受け、キャンパスプラザ京都の管理運営を行っている。引き続き、施設運営に必要な委託業者（受付、警備、清掃、各種インフラ管理等）と連携を図りながら適切な施設管理を行う。

<実績>

【保守点検実施】

- 4月 7日（月）、 4月21日（月）、 5月12日（月）、 5月26日（月）、 6月 9日（月）、
 6月23日（月）、 7月 7日（月）、 7月28日（月）、 8月 4日（月）、 8月18日（月）、
 9月 8日（月）、 9月22日（月）、10月 6日（月）、10月27日（月）、11月10日（月）、
 11月17日（月）、12月 8日（月）、12月22日（月）、 1月19日（月）、 1月26日（月）、
 2月16日（月）、 3月 2日（月）、 3月 9日（月）、 3月23日（月）

【受変電設備更新工事（全館停電）について】

- ・今年度は受変電設備更新工事が予定されており、以下の3日程で全館停電により実施する。これに伴い、通常の月曜休館日に加え、臨時休館日を設定した。

※ 加盟団体をはじめ利用者、関係者に周知、広報済み。

【1回目】2026年1月31日（土）～2月 3日（火）＜4日間＞

【2回目】2026年2月 7日（土）～2月10日（火）＜4日間＞

【3回目】2026年2月13日（金）～2月15日（日）＜3日間＞

【受変電設備精密点検（全館停電）について】

停電実施日：今年度は受変電設備更新工事と調整しながら実施した。

※電気事業法の規定により制定された、自家用電気工作物保安規程で規定した点検基準に基づき、受変電設備精密点検を全館停電して実施する。

【貸室予約について】

次年度予約日：2026年3月10日（火）（一般：3カ月、大学6カ月）

08:00開館、08:30～13:45で141組受付

※2026年度の各大学への使用予定事業の調査と京都市への優先使用・大学コンソーシアム主催事業の仮予約は11月1日（土）に案内を送付。締切2月11日（水）正午必着。

【大学院等共同サテライト】

- ・入居者募集（7/2加盟校に周知、8/30募集締切）

第1～8講習室のうち、第3講習室（明治国際医療大学、2023/4/1～2028/3/31）以外の最大7講習室（内2部屋は2025年度で契約満了）について募集（申請締切8/30）。

〔参考〕

第1講習室	立命館大学	（2026/3/31契約満了、2026/4/1～1年で更新）
第2講習室	空室	（2025/3/31退去、2025/4/1～貸室化）
第3講習室	明治国際医療大学	（2023/4/1～2028/3/31）
第4講習室	空室	（2024/3/31退去、現在貸室として利用）
第5講習室	空室	（2017/3/31退去、現在貸室として利用）
第6講習室	空室	（2017/3/31退去、現在貸室として利用）
第7講習室	龍谷大学	（2026/3/31契約満了、2026/4/1～1年で更新）
第8講習室	空室	（2022/3/31退去、現在貸室として利用）

総務部 各種委員会等の開催について

■開催報告■

(1) 総務業務(法人運営)

① 評議員会

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 4月22日(火) | 第1回(主要議題:理事の辞任・選任について 他)※書面会議 |
| 6月21日(土) | 第2回(主要議題:2024(令和6)年度事業報告及び決算について 他) |
| 7月18日(金) | 第3回(主要議題:監事の辞任・選任について 他)※書面会議 |
| 3月7日(土) | 第4回(主要議題:理事の辞任・選任について 他) |
| 3月12日(木) | 第5回(主要議題:定款の一部改正について)※書面会議 |

② 理事会

- | | |
|-----------|--|
| 4月15日(火) | 第1回(主要議題:運営委員の選任について 他)※書面会議 |
| 5月30日(金) | 第2回(主要議題:2024(令和6)年度事業報告及び決算について、運営委員の退任・選任について 他)※書面会議 |
| 6月21日(土) | 第3回(主要議題:理事長職務執行報告、専務理事職務執行報告) |
| 7月10日(木) | 第4回(主要議題:第3回評議員会の開催について)※書面会議 |
| 10月10日(金) | 第5回(主要議題:専門職員規則、京都留学コーディネータ規則、臨時職員規則の一部改正について)※書面会議 |
| 1月24日(土) | 第6回(主要議題:2025(令和7)年度(公財)大学コンソーシアム京都補正予算について 他) |
| 3月7日(土) | 第7回(主要議題:2026(令和8)年度(公財)大学コンソーシアム京都事業計画、収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて 他) |
| 3月10日(火) | 第8回(主要議題:副理事長の選任について 他)※書面会議 |

③ 会員総会

- | | |
|----------|--|
| 6月21日(土) | 報告事項 2024(令和6)年度(公財)大学コンソーシアム京都 事業報告及び決算について |
|----------|--|

④ 運営委員会

- | | |
|-----------|--|
| 4月9日(水) | 第1回(主要議題:第1回理事会の開催について 他) |
| 5月14日(水) | 第2回(主要議題:2024(令和6)年度事業報告及び決算について 他) |
| 6月11日(水) | 第3回(主要議題:第23回京都学生祭典における大学分担金について 他) |
| 7月9日(水) | 第4回(主要議題:第4回理事会の開催について 他) |
| 9月10日(水) | 不開催 |
| 10月8日(水) | 第5回(主要議題:第5回理事会の開催について 他) |
| 11月12日(水) | 第6回(主要議題:「TOEIC スキルアップセミナー」の共催について 他) |
| 12月10日(水) | 第7回(主要議題:第6回理事会の開催について 他) |
| 1月14日(水) | 第8回(主要議題:2025(令和7)年度(公財)大学コンソーシアム京都補正予算について 他) |
| 2月4日(水) | 第9回(主要議題:役員賠償責任保険の継続加入について 他) |

3月 4日（水） 第10回（主要議題：2026（令和8）年度（公財）大学コンソーシアム京都事業計画、収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて 他）

（２）財務・経理業務

専門委員会等なし

（３）研修業務

専門委員会等なし

（４）全国大学コンソーシアム協議会事業

① 全国大学コンソーシアム協議会 運営委員会

5月22日（木） 第1回運営委員会（主要議題：第22回フォーラム共催団体および開催地について）
8月31日（日） 第2回運営委員会（主要議題：第22回フォーラムについて）
1月27日（火） 第3回運営委員会（主要議題：第23回、第24回フォーラムについて）

② 全国大学コンソーシアム協議会 幹事会

6月14日（土） 第1回幹事会（主要議題：決算）※書面会議
2月 5日（木） 第2回幹事会（主要議題：代表幹事の選任）※書面会議

（５）勤労学生援助会・表彰奨学金事業

① 勤労学生援助会理事会・選考委員会

7月18日（金） 通常総会・理事会
8月28日（木） 表彰学生推薦依頼（受付期間9月2日～11月21日）
2月 6日（金） 表彰学生選考委員会
3月13日（金） 勤労学生表彰・奨学金贈呈式

附属明細書

事業における重要な事項は2024年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。